

ルハ不可ナルコト勿論ナルニヨリ議員トシテノ資格要件ナ均一ニ定ムルノ必要アルモノト云フヘシ

第六 貴族院令第十條

令第十條曰「議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ除名スヘシ」ト本條ニ關シテ左ノ疑問ヲ生スルモノトス

(一) 公侯爵ハ之カ適用ヲ受クヘキモノナルヤ否ヤ

公侯爵ノ議員タルノ地位ヲ世襲スルモノナルニヨリ議員タルノ職ハ其身分ニ離ルヘカラサレノ關係ニ立ツモノナリ故ニ議員ヨリ之レヲ除名シ得ルモノニアラス從テ本條ハ公侯爵ニ適用セラレサルモノト云フヘシ然ルトキハ公侯爵禁錮以上ノ刑ヲ受ケテ尙議員タルノ職ヲ有スルノ不都合アリト雖モ前ニ述ヘタル如ク公侯爵ニハ議員タルノ要件ノ定メラレタルモノナク滿二十五歳ニ達スレハ無條件ニ議員トナリ得ルコトニ概觸スルモノニ非ルナリ

(二) 本條ハ伯子男爵ニモ其適用ヲ及ホスモノナルヤ否ヤ

此問題ヲ決スル前ニ議院法第七十七條ノ如キ規定ハ必要ナルヤ否ヤヲ論定スルノ必要アリ之ニ類似ノ規定ハ郡制第二十六條府縣制第三十七條ニアリト雖議員ニシテ被選ノ資格ヲ失ヒタルトキ退職者タルコトハ特別ノ明文ヲ俟タスシテ當然ノコトナリト信ス何トナレハ被選ノ資格トハ議員タルニ適當ナルノ資格ナルニヨリ已ニ議員トナリタル以上ハ要件ヲ備ヘサルニ至ルモ依然其職ヲ保ツヘキモノナリト考フヘキモノニ非ス又如此ク解釋セサルトキハ伯子男爵議員ニ就テハ議院法第七十七條ノ如キ規定ナキニ依リ伯子男爵議員ハ神官トナ

ルモ僧侶トナルモ瘋癲トナルモ白痴トナルモ其任期間ハ其職ヲ保ツヘキモノナリトノ不當ナル結果ヲ生スレハナリ若シ此論定ノ如ク議員ハ被選資格ヲ失ヒタル場合ニ明文ノ有無ニ拘ハラズ當然退職スヘキモノトスルトキハ貴族院令第十條伯子男爵ニ其適用ヲ及ホスモノト認ムルヲ得サルナリ蓋シ第十條ノ適用ノ及ホス前ニ已ニ議員ノ地位ヲ失ヒタルモノナレハナリ或ハ伯子男爵議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルトキニ限リ第十條ノ適用ヲ受ケルカ爲當然退職セサルモノト解セシカ君主除名ノ處分ヲナスヲ欲セサルトキハ其議員ハ依然其地位ヲ保チ得ルコトナリ神官僧侶トナリタル場合ト權衡ヲ失スルニ至ルヘキナリ

(三) 令第十條ノ規定ノ範圍以外ニ於テ勅選議員ノ除名セラレ、コトナキヤ否ヤ

華族議員ト異リ勅選議員ハ勅任ニヨリ其地位ヲ得タルモノナルカ故ニ第十條ノ適用ヲ受ケルコト明ナルモノ一ノ疑問トナルハ其以外ノ場合即多額納稅者議員カ神官僧侶トナリ或ハ終身議員老耄シ若ハ瘋癲白痴トナリタル場合ニ於テ其地位ヲ失フコトナキヤ否ヤノ點ナリ此問題ニ就テハ令第十條規定ノ以外ノ場合ニ於テモ議員タルノ地位ト兩立シ得サル狀況ニ陷ルトキハ任命權ヲ有スル君主ハ自由ニ之ヲ議員ヨリ免スルヲ得ルモノト答ヘント欲スルナリ然ルトキハ第十條ノ規定ノ必要何レニアラヤトノ非難生スヘシト雖第十條ノ主眼ハ同條第三項ニアルモノニテ之アルカ爲特ニ禁錮ト身代限トノ場合ヲ規定シタルモノニテ此第十條第一項ノ規定アルカ爲其他如何ナル狀況ニ陷ルモ議員職ヲ免スルコトナシト保障シタルモノニアラスト信スルナリ

第七 結論

要スルニ貴族院ノ組織ニ就テハ左ノ如ク之ヲ規定シ

貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯伯子男爵各々其同爵中ヨリ選舉セラレタル者

三 學識アリ又ハ國務ニ鍊達シタル者ヨリ勅任セラレタル者

皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス公侯伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿三十歳ニ達シ各々其同爵ノ選ニ當リタルモノハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ而シテ其議員ノ數ハ各々總數ノ十分ノ一ヲ超過スヘカラス學識アリ又ハ國務ニ鍊達シタル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

且其他ハ右ノ各議員ニツキ消極的資格要件ヲ一定シテ規定センコトヲ希望スルモノナリ

第二款 貴族院議員選舉

第一項 伯子男爵議員ノ選舉

成年以上ニ達シタル伯子男爵ハ其同爵者ノ議員ヲ選舉スルヲ得又滿二十五歳以上ニ達シタル伯子男爵ハ議員ニ選舉セララル、ヲ原則トスト雖モ左ニ列舉セ

伯子男爵議員ノ選舉權及被選舉權

ル者ハ或ハ選舉權被選舉權ヲ併セ有セス若クハ選舉權アルモ被選舉權ヲ有セサルモノナリ

第一 選舉權及被選舉權ヲ有セサル者

一 瘋癲白痴ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニテ裁判確定ニ至ルマテノ者

第二 選舉權ヲ有スルモ被選舉權ヲ有セサル者

一 神官神職

二 僧侶其他諸宗ノ教師

此等ノ者ト混同スヘカラサル者ハ左ニ列舉シタル部局ノ職務ニ在ル官内省ノ官吏ニテ此等ノ者ハ貴族院議員ト相兼ヌルコトヲ得サルニ止マルモノナルニ由リ當選セララル、コトヲ妨ケス從テ當選ヲ承諾スル前ニ其職ヲ辞スレハ足レルナリ(明治二十三年官内省達第十二號參照)

官内省ノ官吏

一 侍從職

- 二 式部職
- 三 皇太后宮職
- 四 皇后宮職
- 五 東宮職
- 六 大膳職
- 七 主殿寮
- 八 主馬寮
- 九 主獵局
- 十 帝室會計審查局
- 十一 皇族家職

### 第二項 多額納稅者議員ノ選舉

多額納稅者議員ノ互選資格

多額納稅者議員ハ滿三十歳ニ達シタル各府縣ノ最多額ノ直接國稅ノ納稅者中ヨリ互選セラル、モノナリト雖モ左ニ列舉シタル者ハ其互選人タルノ資格ヲ

有セサルモノナリ

- 一 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師
- 二 瘋癲白痴ノ者
- 三 公權ヲ剝奪セラレタル者若クハ停止中ノ者
- 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 五 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 六 賭博犯ニ因リ處刑ヲ受ケ滿期又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 七 衆議院議員ノ選舉ニ係ル犯罪ニ依リ選舉權及ヒ被選舉權ヲ停止セラレタル者
- 八 現役中ノ陸海軍々人
- 九 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ノ者ニシテ其裁判確定スルニ至ル迄ノ者
- 十 互選人ノ選舉ニ關シ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタル者

伯子男爵ノ多額納稅者

終ニ注意スヘキハ伯子男爵ノ者ニシテ多額ノ納稅者ハ伯子男爵ノ議員トシテ選舉セラル、モ多額納稅者ノ議員トシテ選舉セラル、モ全く自由ニ屬スルモ

ノナリ

### 第四節 衆議院ノ組織

#### 第一款 選舉ノ種類

衆議院議員ノ公選ノニ係ルモノナリ

上院ノ組織ハ貴族ヲ以テ組織セラル、ト民選議員ヲ以テ組織セラル、トニ拘ハラズ衆議院ハ總テ國民ノ公選ニ係ル議員ヲ以テ組織セラル、モノナリ我憲法第三十五條ニモ「衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス」ト明カニ規定セリ而シテ此公選セラレタル議員ヲ以テ議會ノ一部ヲ組織スルハ立憲國ノ一ノ要件タルモノナリ然レトモ此議員ヲ選舉スルノ方法ニ至リテハ各國其軌ヲ一ニセスシテ選舉ノ方法ニ付キ種々ノ種類存スルモノナリ其選舉ノ種類ヲ大別スルトキハ普通選舉及ヒ制限選舉、直接選舉及ヒ間接選舉ニ分タル、モノナリ仍ホ其他近時少數者ヨリモ公平ニ議員ヲ選出セシムル爲ニ所謂少數代表ノ選舉方法ヲ種々ニ案出スルモノアリ仍テ是ヨリ順次選舉ノ種類ニ屬スルモノ、大略ヲ説明セント欲ス

直接選舉及間接選舉ノ利害

#### 第一項 直接選舉及ヒ間接選舉

直接選舉トハ國民カ直接ニ議員ヲ選舉スルノ制ニシテ間接選舉トハ國民カ先ツ議員ノ選舉人ヲ選舉シ更ニ其選舉人ヲシテ議員ヲ選舉セシメ以テ間接ニ選舉スルノ制ナリ今間接選舉ノ利益トスル點ヲ求ムルトキハ「選舉ハ議員ヲ選擇スルノ公務ナリ故ニ議員ノ選舉ニハ議員タルニ適當ナル人ヲ鑑識スルニ足ルヘキモノヲシテ直接之ニ當ラシメサルヘカラス然ルニ多數ノモノハ獨立ノ識見ナク且ツ其意思モ強固ナラサルニヨリ少數ノモノヲ選任シ以テ議員選舉ノ任ニ當ラシムルヲ要ス」ト云フニアリ併シ學者中間接選舉ヲ主張スルハ「ジーベ  
ル氏フレンスドルフ氏等一二ノ人ニ止リモール、ザイデル、セツフル其他多數學者ハ皆直接選舉ヲ採ルヘキヲ唱ヘテ間接選舉ヲ非難セリ今其反對ノ理由ノ主  
タルモノヲ舉クレハ

- 一 間接選舉ハ一般國民ヲシテ選舉ニ冷淡ナラシメ棄權者ヲ多ク出サシム
- 二 一般國民ノ望ニ副ハサルモノヲ議員ニ出スノ結果ヲ生ス

三 原選舉人カ選舉人(議員ヲ選スルヲ)ヲ選フトキニ於テ已ニ議員ノ候補者決定シ選

舉人ハ只其既決ノ候補者ニ形式上投票スルニ止ルニヨリ今日ノ實際ニ於テ  
間接選舉ハ徒ニ選舉ノ手續ヲ複雑ナラシメ以テ費用ト時トヲ多ク要セシム  
ルニ過キス

故ニ諸國ノ選舉制度ハ漸次直接ニ傾キ初メ間接選舉ヲ採リシ國モ直接選舉ノ  
制ヲ行フコト、ナリ今日尙間接選舉法ヲ純粹ニ用キルモノハ那威及獨乙聯邦  
中ノ普魯士、巴威里、巴丁、ヘツセン、アンハルト、ブラウンシュワイヒ、ラデンブルヒ  
索遜、ワイマル、索遜、コーブルヒ、ゴーター、ワルデツク、墨堡、ソングー、スハウゼン、  
ロイス等ノ少數ノ國ニ過キササルナリ

佛國上院ノ選舉モ間接選舉ノ一方法ナリト雖特ニ議員ノ選舉人ヲ選出スルモ  
ノニアラスシテ各府縣内ノ下院議員、府縣郡會議員、及市町村會ノ代表者ヲ以テ  
選舉會ヲ組織シ以テ上院議員ヲ選ハシムルモノナリマタ北米合衆國ノ上院選  
舉モ之ト類似ノモノニテ各邦ノ議會ニテ上院議員ヲ選出セシムルコト、ナセ  
リ北米合衆國ハ各邦ヨリ組織セラレタル聯邦ナルニヨリ此ノ方法ヲ採用スル

普通選舉  
ノ意義

コト必要ナルヘシト雖佛國上院議員選舉法モ只費用ト時トヲ省クノ利益アル  
ニ止リ前述シタル間接選舉ノ非難ヲ免ルヲ得サルナリ  
我國ニテハ嘗テ府縣制、郡制ニ間接選舉ノ方法ヲ用キタリシモ(府縣會議員ハ郡  
郡會議員ハ町村)衆議院議員ノ選舉ニ就テハ初メヨリ直接選舉法ヲ行ヒタルナ  
リ

第二項 普通選舉及ヒ制限選舉

普通選舉ノ制ヲ採用スル國ニ於テモ制限選舉ノ制ヲ採用スル國ニ於テモ軍人、  
女子、弱年者、瘋癲、白痴、禁治產者、破產者、公權剝奪者若クハ停止中ノ者、公ノ救助ヲ受  
クル者ニハ選舉權ヲ與ヘサルヲ常トスルモノニテ只此兩種ノ選舉制ノ異ル點  
ハ普通選舉ニ於テハ右列記以外ノ國民ニ平等ニ選舉權ヲ與フルモ制限選舉ニ  
於テハ其他ニ尙ホ選舉上ノ資格要件ヲ定メ之ヲ具備セサルモノニハ選舉權ヲ  
與ヘサルニアルナリ尙直接ニ云ヘハ制限選舉ト普通選舉ト分ル、點ハ財產上  
ノ資格若クハ教育上ノ資格ヲ以テ選舉權ノ要件ト爲スヤ否ニアルナリ

普通選舉ハ初メテ佛國ニテ採用セラレタルモノニシテ今日此制ヲ實行スルモノハ獨乙帝國佛蘭西西班牙丁抹那威希臘瑞西獨乙聯邦中ノ數國及北米合衆國中ノ大部分ナリ

普通選舉ノ利害

今普通選舉ノ利害ヲ考フルニ

一 普通選舉ノ利

- (1) 公選ノ主旨ニ適合ス
- (2) 國民一般ヲシテ國務ノ舉否ニ傾心セシム
- (3) 國民ノ公共心ヲ養成セシム
- (4) 多數ノ貧民カ少數人ノ犠牲トナルヲ防ク

二 普通選舉ノ害

- (1) 普通選舉制ヲ採用スルトキハ之カ爲ニ新ニ選舉權ヲ得ルモノ、多數ハ貧者ニ屬スルニヨリ賄賂其他ノ誘惑ニ陥リ易シ
- (2) 普通選舉ノ結果ハ多數ノ無識者ニ選舉權ヲ與フルニヨリ選舉運動ニ巧ナルモノハ勝利ヲ得ルコト、ナルナリ

(3) 普通選舉ノ結果ハ多數ノ貧民ニ選舉權ヲ與フルモノナルニヨリ貧民ノ候補者ノ多數カ當選スルコト、ナルナリ

(4) 普通選舉ハ識見アル少數者ヲシテ多數無識者ノ爲ニ壓セシメラル、ノ結果ヲ生セシムルナリ

要スルニ普通選舉ノ利害ハ選舉ノ目的如何ニ由ルモノニテ若シ國民ノ選舉權ヲ行フハ天賦ノ人權ニ基クモノナルトキハ普通選舉ヲ可トスヘシト雖モ  
ール氏ブルンチリー氏エリチツク氏等ノ説ク如ク選舉權ノ性質ニシテ適任者ヲ議員ニ指定スルノ公ノ職務ナルトキハ選舉人ノ資格ヲ制限的ニ定メ以テ其公ノ職務ヲ行フニ適當ナルモノノミニ選舉權ヲ與フルヲ至當トスルモノナリ而シテ已ニ述ヘタル如ク議會ノ國民代表機關タルノ説ニシテ誤ナリトスレハ議員ニハ國務ヲ審議スルニ適當ナル人ヲ舉クヘクマタ選舉人ニハ如此キ議員ヲ選擇スルノ適任者ヲ爲スヘキモノナルヨリ右ノ後ノ論定ノ如ク普通選舉ヨリハ寧ロ制限選舉ノ制ヲ採用スヘキモノト信スルナリ

制限選舉ハマタ左ノ二種ニ分タル、モノナリ

第一 平等制限選舉

憲法篇 第四編 憲法上ノ機關 第四章 帝國議會 第四節 衆議院ノ組織

平等制限選舉トハ財産上ノ資格又ハ教育上ノ資格ヲ備フルモノヲシテ平等ニ選舉權ヲ行ハシムルノ制ナリ制限選舉ノ他ノ一種タル等級選舉ニ比シ此方法簡單ナルニヨリ廣ク行ハル、モノニテ我國ニテモ衆議院議員ノ選舉ニツキマタ之ヲ採用セリ

其制限上ノ要件タル特別ナルモノハ財産若ハ納稅資格又ハ教育資格等ナリ故ニ其資格要件ハ國ニヨリ同シカラスシテ多クハ一定ノ納稅ヲ爲スヲ要件トスト雖モ匈加利、瑞典、リユクサンブルグ等ニテハ財産上ノ資格ヲ要件トシ獨乙聯邦中ノ普魯士、巴威里、索遜、ヘツセン、索遜アルテンブルヒ、索遜コーブルヒ、ゴーター墨堡、ハードルスタット、舊ロイス、新ロイスニテハ何レカノ直接國稅ヲ納ルルヲ要件ト爲シ伊太利、匈加利、葡萄牙ニテハ教育上ノ資格ヲ以テ要件トナセリ而テ我國ニテハ直接國稅十圓以上ヲ納ムルヲ以テ要件トナシタリ今翻テ何故ニ制限選舉ノ要件トシテ財産所有上ノ資格、納稅上ノ資格、教育上ノ資格ヲ定メシヤヲ説明センニ財産所有ニ重キヲ置キタルハ恒産アルモノ

ハ恒心アリト云フコト且財産所有者ハ十分ナル教育ヲ受ケタリト云フコトノ推想ニ基クモノニシテ納稅資格ヲ要件トシタルハ納稅者ハ通常財産所有者タルコトノ外ニ國費負擔ノ點ニ於テ利害ヲ感スルコト多キニヨリ議員選舉ノ職務ヲ行フニ就テモ冷々ニ之ヲ看過スルコトナカルヘシト云フニアルナリ又教育上ノ資格ヲ要件トシタルハ教育ヲ受ケタルモノニ非レハ何人ヲ投票スヘキカヲ能ク辯セストノ理由ニ因ルコト多言ヲ俟タサルナリ而シテ此等ノ要件ハ各根據アルコトナルニヨリ之ヲ以テ選舉人ヲ制限スルハ別ニ不當ニアラスト雖能ク注意スヘキハ其程度ノ如何ニアリ若シ財産若クハ納稅ノ要件ニシテ其程度低キニ過クルトキハ普通選舉ト同一トナリ又高キニ過クルトキハ殆ント公選ノ實ヲ失フニヨリ其中庸ヲ執テ其程度ヲ定ムヘク尙又教育ノ要件モ其程度高キニ失スルトキハ之ヲ以テ要件ト定ムルノ效能ナクマタ低キニ失スルトキハ普通教育ノ行ヘル國ニ於テ其必要ナキコト、ナルニヨリ之ハ中學教育完了ヲ以テ程度ト定ムヘキナリ而シテ此兩要件ヲ併用シ或一定ノ財産ヲ有シ若クハ一定ノ納稅ヲ爲スモノハ教育ノ程度如何ニ

憲法篇 第四編 憲法上ノ機關 第四章 帝國議會 第四節 衆議院ノ組織

拘ハラス選舉權ヲ與ヘマタ一定ノ程度ノ教育ヲ受ケタルモノハ其財産ノ有無、租稅ノ納否ニ拘ハラス選舉權ヲ與フルモノト爲ストキハ今日ノ選舉制度トシテ適當ナルモノト信スルナリ

我選舉人  
タルノ資  
格要件

今我現行法ニ就キ選舉人ノ資格要件ヲ茲ニ述ヘンニ衆議院議員ノ選舉人タルニハ次ノ要件ヲ具フルコトヲ要スルナリ

一 選舉人名簿調製ノ期日前滿一箇年以上、地租十圓以上又ハ滿二年以上、地租以外ノ直接國稅十圓以上若クハ地租ト他ノ直接國稅トヲ合シテ十圓以上ヲ納メ猶ホ引續キ納ムル者ナルコト

此第一ノ要件ハ我選舉ノ制度ノ通常制限選舉タルコトヲ示スモノナリ唯其制限ノ要件ハ教育ノ程度ニ及ハスシテ納稅ノ額ニ止マルノミ

二 日本帝國臣民タル男子ニシテ選舉人名簿調製ノ日ヨリ起算シ年齡滿二十五歲以上ナルコト

婦人ニ選  
權ヲ與  
フルノ可  
否

婦人ニ選舉權ヲ與フルノ可否ニ就テハ之ヲ可トスルモノニハミル氏シジウキク氏等アリマタ之ヲ否トスルモノニハブルンチリ、イグ、マイヤ氏等

アリテ學說一致セスト雖實際ノ立法例トシテハ米國、濠州等ニ婦人ニ選舉權ヲ與フルノ制アリト雖歐洲ニハ其例ヲ見サルナリ

我國ト等シク滿二十五歲以上ニ達シタルコトヲ要件トスルハ白耳義、和蘭、西班牙、那威ノ如キ例ナキニ非スト雖モ普漏西、埃太利ニ於テハ滿二十四歲以上ト爲シ英、佛、伊、巴威里ニ於テハ更ニ進ミテ滿二十一歲以上ト爲シ瑞西ニ於テハ滿二十歲ト爲セルニ由リ我國ノ選舉ニ必要ナル年齡ハ高キニ過クルノ嫌ナキニ非サルナリ併シ丁抹ニテハ滿三十歲ニ達シタルコトヲ年齡上ノ要件トセリ

三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一ヶ年以上其選舉區内ニ住所ヲ有シ猶ホ引續キ有スルモノナルコト

此要件ハ選舉區ヲ設クルカ爲メニ生スル結果ナリ選舉區ハ後ニ述フルカ如ク必スシモ選舉ニ必要ナルモノニ非スシテ寧ロ選舉區ヲ設ケサルヲ以テ選舉ノ目的ヲ達スルモノナリト謂ハサルヲ得スト雖モ選舉人ノ多キ國ニ於テ之ヲ設ケサルトキハ手續上ノ困難少カラサルニ由リ之ヲ設クルハ



已ムヲ得サルコトナリ

併シ選舉人タルニ必要ナル住處ノ年限ニハ長短アリテ西班牙ニテハ二ケ年丁抹ニテハ一ケ年佛國ニテハ六ケ月以上ヲ有スルヲ要スルモノトナセリ

四 華族ノ戸主ニ非サルコト

華族ノ戸主ニ選舉權ヲ與ヘサル理由

華族ハ前ニ述ヘタル如ク貴族院議員ニ出ツルコトヲ得ルモノナルニ由リ衆議院ト區別シテ貴族院ヲ設クルノ目的ヲ貫徹スルカ爲メ華族ノ戸主ハ總テ衆議院議員ノ選舉權及ヒ被選舉權ヲ與ヘサルコト、爲シタルナリ又皇族ニ關シテハ明文ナキモ納稅セサルカ故ニ選舉權ヲ有セサルモノトス

皇族

五 陸海軍々人ニシテ現役中ノ者及ヒ戰時若クハ事變ニ際シ召集中ノ者ニ非サルコト

六 官立、公立、私立學校ノ學生、生徒ニ非サルコト

七 禁治產者、準禁治產者、身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者、家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ

至ルマテノ間ノ者ニ非サルコト

八 公權ヲ剝奪セラレタル者公權停止中ノ者若クハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケテ其裁判確定スルニ至ルマテノ者ニ非サルコト

九 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ選舉權ヲ奪ハレタルモノニ非ルコト

第二 等級選舉

制限選舉ノ第二種

等級選舉ノ當否

等級選舉トハ選舉區内ノ納稅額ヲ級數ニ應シテ平分シ最多額ノ納稅者ヨリ其平分セラレタル額ニ滿ツル迄漸次各級ニ編入スルモノナリ故ニ上級ノ選舉人ノ數ハ少クシテ下級ノ選舉人ノ數ハ多キノ結果ヲ生ス而シテ各級ノ選舉人ヲシテ<sup>全等</sup>議員ノ數ノ議員ヲ選出セシムルモノナルニヨリ多額納稅者タル上級ノ選舉人ハ下級ノ選舉人ヨリハ少數ヲ以テ同數ノ議員ヲ選定シ得ルモノナリ此方法ハ普國ニテハ下院ノ選舉人ノ選舉ニ行ヒ又索遜アルテンブルヒ及リツペーニテハ議員ノ選舉ニ之ヲ用ヒ我國ニテハ市町村會ノ選舉ニ採用スルモ固ト此制ハ多額ノ納稅者ニ多クノ權ヲ與ヘサル可ラサル沿革的ノ理由ヨリ來リタルモノニテ今日ニ於テハ立法上ノ根據ナキモノナリ

### 市町村等級選舉ノ當否

今等級選舉ノ當否ヲ考フルニ市町村制理由書ニ曰ク名譽職ニ任スルハ町村公民ノ輕カラサル義務ナレハ資産アル者ニ非サレハ之ニ任スルコト能ハス又其稅額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論セサルモ其專ラ自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權力ヲ有セシムルハ固ヨリ當然ノ理ナリ今等級選舉法ヲ以テ常例トセルハ即此要旨ニ外ナラス等級選舉ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ明ニ其其結果アルヲ徵スルニ足ル本制ハ被選舉權ノ資格ヲ廣クシテ而シテ其流弊ナキヲ信スル所以ノモノハ即此選舉法ニ依テ以テ細民ノ多數ニ制セラルハノ弊ヲ防クニ足ルヘキヲ以テナリト即チ此理由ヲ約言スレハ一、小民ノ多數富者ヲ壓スルノ弊ヲ防キ二、資産ト權利トヲ平行セシムルニ在リ然レトモ此理由ハ甚々薄弱ナルモノニシテ第一、小民ノ多數富者ヲ壓スルノ弊ヲ防クニ在リト云フト雖モ之ヲ反面ヨリ觀ルトキハ等級選舉ハ富者ノ貧民ヲ壓スルノ弊ヲ求ムルナリ第二、資産ト權利トヲ平行セシムルニ在リト云フト雖モ是レ納稅義務ト參政權トノ報酬關係ノ如ク觀ル英國民權主義ノ學說ニ基クモノニシテ今日ニ於テ行ハレサルノ思想ナリ今等級選舉ノ缺點ヲ學クレハ第一、賄賂行ハレ易シ何トナレハ上級ノ選舉人少數ナレハナリ第二、選舉區ヲ設ケタル市ニ於テハ同額ノ納稅者ニシテ一區ニ於テハ一級選舉人ト爲リ他區ニ於テ下級選舉人ト爲ルノ不平等ノ結果ヲ生ス尙ホ多額納稅者ニ多クノ權利ヲ與ヘサルヘカラス又等級選舉ヲ市町村ニ行フモノナラハ之ヲ衆議院議員府縣會議員郡會議員ノ選舉

職業別ノ等級選舉

ニモ亦行ハサルヘカラス然ルニ單ニ我國ニ於テハ市町村ニ限リテ此制ヲ用ヒ納稅額ノ多少ニヨリテ選舉權ノ實行ニ等差ヲ附スル如キハ今日ノ制度トシテ其當ヲ得タルモノト謂フヘカラスナルナリ

右ハ納稅額ニ比例シタル等級選舉ナリト雖身分等ノ階級ニ依リ選舉人ニ等級ヲ設クルノ例ナキニアラス塊太利ノ如キハ此主義ヲ幾分カ採用シタルモノナリ

又モール氏セツフル氏等ハ地方的利益ハ國會ニ於テ代表セラル、モ社會的階級ノ特別ノ利益ハ顧ミラレサルヲ非難シ個々ノ經濟的階級ヨリモ特別ノ代表者ヲ議會ニ出サシメサルヲ唱ヘ以テ職業別ノ等級ノ選舉ヲ主張スト雖併シ之ハ議會ノ性質ニ反スルモノナリ何トナレハ議員ハ各自ノ階級各自ノ職業ノ利害ヲ考ヘテ事ヲ議スルモノニアラス全ク國家ノ利害ヲ標準トシテ決議スヘキモノナレハナリ

### 第三項 少數代表ノ選舉方法

大選舉區連記投票制ヲ採用スルモ小選舉區單記投票制ヲ採用スルモ投票ノ多  
數ニヨリテ當選者ヲ決スル爲全國ニテ多數ノ黨員ヲ有スル黨派カ却テ少數ノ  
黨員ヲ有スル黨派ヨリハ少數ノ議員ヲ出スノ不當ノ結果ヲ生スルノミナラス  
比較的少數ノモノヨリ推選セラレタル候補者ハ全ク當選スル能ハサルノ不公  
平ナル結果ヲ生スルモノナリ

前者ノ例

十萬ノ選舉人(甲派六萬人  
乙派四萬人)

百選舉區(一選舉區千人)

百議員

四十ノ選舉區ニテ甲派九百人乙派百人

六十ノ選舉區ニテ甲派四百人乙派六百人

其結果甲派ハ六萬人ノ選舉人ヲ有シ乙派ハ四萬人ノ選舉人ナ  
ルニ拘ハラス四十ノ選舉區ヨリ甲派ノ議員出テ六十ノ選舉區  
ヨリ乙派ノ議員出テ結局甲派議員四十人乙派議員六十人ヲ出  
スコト、ナル

後者ノ例

十萬ノ選舉人(甲派五萬人  
乙派四萬九千人)

百選舉區(一選舉區選舉人千人)

百議員

而シテ各選舉區ニテ甲派ノ選舉人五百一人乙派ノ選舉人四百  
九十九人ナルトキハ各選舉區ニ於ケル甲乙兩派ノ選舉人ノ差  
異僅小ナルニ拘ハラス百ノ議員スヘテ甲派ヨリ出ルノ結果ヲ  
生ス

之ヲ救治スル爲所謂少數代表法ナルモノヲ案出スルニ至レルモノナリ今其方  
法中ノ重ナルモノヲ左ニ掲ケンニ

第一 有限投票法

有限投票法トハ選舉人ヲシテ一選舉區内ノ議員員數ニ等シキ被選人ニ投票  
セシメスシテ其ノ投票ニハ全議員ノ數ヨリ一人又ハ數人ヲ減シタル數ノ候  
補者ヲ記載セシムルモノヲ稱ス例ヘハ五人ノ議員ヲ有スル選舉區ノ選舉人  
ヲシテ三人ノ議員ヲ投票セシムルカ如シ而シテ此方法ハ瑞西人カトルレ

氏ノ考案ニ基クモノニシテ一八六七年ヨリ一八八五年迄英國ニ於テ、一八八二年ヨリ一八九五年迄伊太利ニテ試行シ今日尙西班牙、葡萄牙、巴西北米及瑞西ノ一部ニ行フモノナリ

積聚投票法

第二 積聚投票法

此方法ハ選舉人ヲシテ其選舉區内ノ議員ノ全數ヲ投票セシムルモノナルモ其投票ニ異ナリタル候補者ヲノミ記載スヘキモノト爲サシテ異ナリタル候補者ヲ記載スルモ同一ノ候補者ヲ議員ノ數丈ケ記載スルモ自由ト爲スモノナリ即異リタル候補者ヲノミ投票スルモ其投票ヲ一人又ハ數人ニ積聚スルモ自由ニナスモノナリ而シテ此方法ハ英人マ<sup>1</sup>ーシャル氏ノ發明ニ係リ北米及西、葡ノ一部ニ行ハル、所ノモノナリ  
右ノ二種ノ方法ハ共ニ連記投票ノ弊ヲ防クカ爲メニ生シタルモノトス即チ連記投票ヲ用フルトキハ多數代表ト爲ルカ故ニ之ヲ矯メンカ爲メ用ヒタルモノニシテ幾分カ其弊ヲ防キテ以テ少數代表ノ目的ヲ達スルコトヲ得ト雖モ其方法未タ完全ナラサルニ由リ現ニ今日此方法ノ實行サ、ルハ少數ノ國ノ一部ニ

公平選舉法ノ二種

止マルモノナリ是ニ於テ次ノ公平選舉法ヲ案出スルニ至レリ此公平選舉法ハ各黨員ノ多寡ニ應シ按分比例的ニ議員ヲ出サシメントスルモノニテ或ハ又之ヲ比例選舉法ト謂フ而シテ之ニ二種アリ

第三 比例分配投票法

此方法ハ選舉人ヲシテ各議員ノ候補者ニ直接投票セシムルニ非スシテ候補者ノ名簿ニ投票セシメントスルモノナリ即チ名簿投票ノ制ナリ此候補者ノ名簿ハ各選舉區ニ於テ一定ノ數以上ノ同意者アルトキ之ヲ提出スルコトヲ得ルモノニテ其各黨派ヨリ出シタル候補者ノ數若シ議員ノ數ニ等シキトキハ其候補者ヲ以テ直チニ議員ト爲シ之ニ超過スルトキ始メテ選舉ヲ行ハシムルモノナリ此法ハ先此點ニ於テ選舉ヲ簡便ニスルノ利アリ  
次ニ此方法ノ特點ヲ舉クレハ先ツ候補者ヲ出ス處ノ各派ヨリ幾名ツ、ノ議員ヲ當選者ト爲スヘキカヲ決スルニアリ而シテ之ハ各派ノ候補者名簿ノ得タル投票ノ數ニ按分比例シテ之ヲ決スルモノナリ

例ヘハ 全選舉人 六千人

名簿投票ノ制

甲派ノ名簿ノ得タル投票 三千 三千五百  
 乙派ノ名簿ノ得タル投票 二千 千七百  
 丙派ノ名簿ノ得タル投票 千 八百  
 而シテ議員ノ數六名ナルトキハ甲派ヨリ三名乙派ヨリ二名丙派ヨリ一名ヲ當選者ト爲スカ如シ

然ルニ各派名簿ノ得タル投票數ハ如此ク按分比例ニ適合スル都合能キ數ノミニアラスシテ投票數複雜ナルカ爲メ正當ナル決定ヲ爲ス能ハサル場合多シ例ヘハ前例ニ於テ甲派名簿ノ得タル投票三千五百乙派名簿ノ得タル投票千七百丙派名簿ノ得タル投票八百ナルトキハ六名ノ議員ヲ如何ニ配置スヘキヤノ困難生スルナリ之ニ就テハ白耳義ノドント氏カーノ良法ヲ發見セリ故ニ之ニ依ルコト、ナスナリ其方法ハ各名簿ノ得票數ヲ一、二、三、四ノ順序テ議員ノ數ニ至ル迄ノ數ニテ順次ニ除シ其商數ヲ其最大ナルモノヨリ順序ヲ正シク排列シ其中選出議員ノ數ノ順ニ當レルモノヲ採テ分配ノ基數トナシ其基數ニテ各名簿ノ得票數ヲ除シ得タル數ヲ以テ各派ノ名簿ヨリ出スヘ

トント氏ノ分配方法

キ議員ノ數トナスナリ例ヘハ四人ノ議員ヲ出ス選舉區ニ於テ甲派名簿ノ得點數千二百乙派名簿ノ得點數千八百丙派名簿ノ得點數六百十二丁派名簿ノ得票數三百六十ナルコトヲ假定センニ

甲	一二〇〇	一二〇〇	六〇〇	四〇〇	三〇〇
乙	一〇〇八	一〇〇八	五〇四	三三六	二五二
丙	六一二	六一二	三〇六	二〇四	一五二
丁	三六〇	三六〇	一八〇	一二〇	九〇

此等ノ商數ヲ其大ナルモノヨリ順次ニ列記スレハ千二百千八百六百十二、六百、五百四等トナルモノニテ其六百カ議員ノ數ノ順序即チ四番トナルカ故ニ之ヲ基數トナシ而シテ之ヲ以テ各名簿ノ得票數ヲ除スレハ甲派ヨリ二名乙派ヨリ一名丙派ヨリ一名丁派ヨリ一人モ出サ、ルコト、ナルナリ  
 如此ク各派ヨリ出スヘキ議員ノ數決シタルトキハ更ニ名簿中ノ符號ニ基キテ其名簿中ノ何人ヲ當選者トナスヘキカラ決定スルモノナリ蓋シ選舉人ハ

其自己ノ欲スル名簿ヲ提出スルトキニ更ニ其記載ノ候補者中何人ヲ最モ先ニ當選者トナシ又如何ナル順序ニヨリテ議員ニ推選セント欲スルカノ意思ヲ符號ヲ以テ記入スヘキコト、ナセハナリ  
如此クニシテ當選者ヲ決スルトキハ黨派中ノ最名望アルモノヲ議員ニ選出スルコトヲ得ルノミナラス此比例分配投票法ハ政黨ノ黨勢ニ比例シテ議員ヲ出スヲ得ルニヨリ其點ニ於テ當ヲ得タルモノナルモ次ノ批難ナキヲ得サルナリ

一 名簿ニ投票セシムルハ選舉ノ目的ニ背クモノナリ蓋シ選舉ハ名簿ニ拘束セラル、ニヨリ選舉人ハ自由ニ其候補者ヲ選フ能ハサルノ結果ヲ生スレハナリ

二 此方法ハ政黨ニ屬セサル選舉人ナキコトヲ前提トスルモノナリ固ヨリ立憲國ニテハ政黨ノ存立必要ナルヘキモ政黨以外ノ候補者政黨以外ノ選舉人ヲ眼中ニ置カサルハ善良ナル選舉方法ト云フヲ得ス

三 選舉實行ノ上ニ於テ煩雜ナル手數ヲ免レサルナリ

故ニ此方法ハ一八九九年以後白耳義ニ於テ行ハル、モノナリト雖モ未タ廣ク他ニテ行ハレサルモノナリ

#### 第四 單記商數投票法

此方法ハ議員全數ヲ以テ當選人ノ數ヲ除シ之ヨリ得タル商數ヲ以テ當選者トナルニ必要ナル得票ノ定數ト爲スモノトス而シテ此方法ニ伴ヒテ必ス選舉人ハ單記投票ヲ爲スヘキモノトセラル、ナリ此ノ如ク當選者タルニ必要ナル數ヲ定メラレタルニ由リ之ニ超過シタル得票ハ其當選者ニ對シ不必要ナルナリ是ニ於テ定數ニ超過シタル投票ヲ處分スルニ二種ノ方法アリ即チ第一ノ法ハ讓與法ニシテ投票ヲ得タル者ヲシテ自由ニ定數ニ超過シタル自己ノ得票ヲ他ニ讓與スルヲ得ルヲ認ムルモノナリ併シ是レ甚不當ナルコトニテ選舉人ノ意思ニ背クノ結果ヲ生スルニ由リ第二ノ方法案出セラレタリ第二ノ方法トハ即チ副記法ニシテ選舉人ヲシテ其投票用紙ニ一人ノ候補者ノ外ニ數名ノ候補者ヲ副記セシメ而シテ其正候補者ノ得票當選者タルノ定數ニ超過シタルトキハ其超過ノ部分ヲ副記セラレタル者ノ得票トシテ計算

スルモノナリ此方法ハ選舉人ノ意思ニ反セス而モ必要ナル議員ノ定數ヲ得ルノミナラス補缺選舉ヲ行フノ煩雜ナル手數ヲ免ルノ便利アリト雖モ猶ホ左ノ批難ヲ免レサルナリ

- 一 選舉人ヲシテ副記セシムルハ選舉人ノ程度低キ處ニ於テ行ハレサルナリ
  - 二 投票ノ計算甚タ困難ナリ
  - 三 副記セラレタル者ノ間ニ於テ不公平ナル結果ヲ生スルノ虞アリ何トナレハ定數ニ超過シタルモノ副記者ノ得票トナルカ故ニ先ニ讀上ラレタル投票中ニ副記セラレタルモノハ不利益ヲ受ケ後ニ讀上ラレタル投票ノ中ニ名アルモノハ利益ヲ受クルヲ得レハナリ
  - 四 副記ヲ多ク爲サ、ルトキハ效力ヲ完ウスルコト能ハス
- 右ノ批難ノ中第三ノ批難ハ之ヲ防クコトヲ得又第二ノ批難ハ之ヲ忍フコトヲ得ルモ第一ノ批難タル處ノ選舉人ノ智識ノ程度低キ處ニ於テハ到底之ヲ實行スルコト難キヲ如何セン是レ我國ニ於テ此單記商數投票法ニ準據シテ

單記商數  
投票法ト  
比較ト

大選舉區單記投票法ヲ採用シ而モ副記ヲ爲スコトヲ許サ、リシ所以ナリ

第五 大選舉區單記投票法

之ハ我現行選舉法ノ採用スル方法ニシテ少數代表方法ノ一トシテ採用セシモノナリ而シテ此方法ハ單記商數投票法ニ準據シタルモノナルカ故ニ此兩者ノ間ニ存スル差異ヲ述ヘンニ

- 一 單記商數投票法ニ於テハ當選者トナルニ必要ナル得票ノ定數ヲ定ム我選舉法ニテモ當選者トナルニ少クトモ一選舉區ノ選舉人名簿記載ノ選舉人全數ヲ議員ノ數ニテ除シ之ヨリ得タル商數ノ五分ノ一以上ノ投票ヲ得ルヲ必要ト定メタルハ相類似スルモ第一定數ニ多寡ノ差アルノミナラス單記商數投票法ニテハ投票ニ副記ヲ許シ定數超過ノ投票ヲ副記者ニ與ヘ投票人ノ意思ニ反セサル限リニ於テ選舉ノ目的ヲ貫カントシタルモ我國ニテハ各候補者ノ得票ノ多キヲ厭ハサルモノニテ副記ヲ許サ、ルニヨリ無用ノ投票ヲ生スルノ結果トナルナリ
- 二 單記商數投票法ニ於テハ副記ヲ用フルカ爲補缺選舉ノ手數ヲ免ル、モ

我衆議院  
議員ノ選  
舉方法

我選舉法ニ於テハ副記ヲ認メサルカ爲缺員ヲ生シタルトキハ補缺選舉ヲ行フノ必要アリ唯之ヲ避クルカ爲メ選舉ヨリ一年間ハ次點者ヲ取ルコトト爲セルノミ

三 單記商數投票法ニ於テハ定數ニ超過シタル者ヲ副記セラレタル者ノ得票數ト爲スモ我選舉法ニハ副記ナク又定數ナキカ爲メ一人ニ投票集マリタルトキハ選舉ヲ幾回モ繰返ヘサ、ルヘカラサルノ結果ヲ生スルナリ

四 單記商數投票法ニ於テハ定數ヲ以テ當選者ヲ定ムルカ故ニ當選者ノ間ニ不公平ナキモ我國ニテハ只最少限ノ定數アルニ止ルニヨリ一ノ議員ハ多數ノ投票ヲ以テ當選者ト爲リ他ノ議員ハ少數ヲ以テ議員ト爲ルコトヲ得ルノ不公平ナル結果ヲ生スルナリ

我選舉法ノ缺點

此ノ如ク我選舉法ハ單記商數投票法ニ準據シテ而カモ副記法ヲ用ヒサリシカ爲メ左ノ缺點ヲ有スルコト、ナレリ

一 選舉ヨリ一年後ニ至リタルトキハ補缺選舉ヲ行ハサルヘカラス而シテ補缺選舉ヲ行ヒタルトキハ少數代表ノ目的ヲ貫カサルコト、爲ル蓋シ補

缺選舉ハ常ニ多數ノ黨員ヲ有スルモノ、利益ニ歸スレハナリ

二 補員選舉ヲ行フヲ避クル爲選舉ヨリ一年以内ハ次點者ヲ取ルノ便法ヲ設ケタリト雖モ是レ選舉ノ目的ニ背クモノナリ何トナレハ次點者ヲ取ルトキハ通常ノ選舉ニ於テ到底當選人ト爲ルノ望ナキモノヲ議員ト爲スノ結果ヲ生スレハナリ

第二款 選舉ノ手續

第一項 選舉人名簿

選舉人名簿調製ノ手續

選舉人名ニハ種々ノ要件存スルニヨリ瞬間ニ選舉權ヲ有スルヤ否ヲ見ルコト難シ又之ヲ一々審査スルトキハ投票カ非常ニ遲延スルナリ之選舉人ヲ登録スル選舉人名簿ヲ作ル所以ナリ

町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニヨリ町村住所ヲ有スルモノ、選舉資格ヲ調査シ選舉人名簿正副二本ヲ作り十月十五日迄ニ郡長ニ之ヲ送付シ郡長ハ之ヲ調査シタル上修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ副本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長



ニ返付ス又市長ハ毎年十月一日ノ現在ニヨリ其市内ニ住所ヲ有スルモノ、選  
舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘキモノナリ而シテ總  
テ選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名官位職業身分住所生年月日納稅額納稅地ヲ記  
載セサルヘカラサルナリ

郡市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其廳又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場處  
ニテ選舉人名簿ヲ縱覽ニ供スルコトヲ要ス若選舉人ニ於テ選舉人名簿ニ脱漏  
又ハ誤記アルコトヲ發見シタルトキハ理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ郡市町村長  
ニ申立ツルコトヲ得正當ノ事故ニヨリ衆議院議員選舉法第十九條ノ手續ヲナ  
能ハスシテ人名簿ニ登錄セラレサルトキ亦同シ併シ期限經過後申立ツルヲ得  
サルナリ又郡市長カ以上ノ申立ヲウケタルトキハ其理由及證憑ヲ調査シ申立  
ヲウケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘク若シ其申立ヲ正當ナリト決定  
シタルトキハ直ニ名簿ヲ修正シ其旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ併テ其關係ヲ  
告示スヘキモノナリ

人名簿ニ  
關スル訴  
訟

其郡市長ノ決定ニ不服アルトキハ郡市長ヲ被告トシ決定ヲ受ケタル日ヨリ七

確定名簿  
ノ效力

日以内ニ地方裁判所ニ出訴スルヲ得此判決ニ對シテハ大審院ニ上告シ得ルモ  
控訴スルヲ得サルナリ

名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定スルモノニテ確定名簿ニ登錄セラレサルモノ  
ハ假令事實ニ於テ資格ヲ具フルモ投票スル權ナキナリ之確定名簿效力ニナリ  
名簿確定後ハ新ニ選舉權ヲ所得シタルト又確定後資格ヲ失ヒタルト或ハ全ク  
名簿ニ誤脱セラレタルトヲ問ハス確定判決ニヨルノ外ハ人名簿ヲ修正スルコ  
トナキナリ

尙其確定マテノ期日ヲ明示スレハ如左

- 十月一日 選舉人資格調査期日
- 十月五日 納稅證明屆期日
- 十月十五日 町村長ヨリ郡長へ進達期日
- 十月三十一日 市長ノ名簿調査期日及郡長ヨリ町村長へ副本返付  
期日

自十一月五日至十一月十九日 縱覽期限(修正申立期限)

十二月 八 日迄 申立ニ對スル決定期限

十二月 十四 日迄 出訴期限

十二月 二十 日 確定

參照 選舉人名簿登錄ノ有選舉權者(三十六年統計)

市	部	六二,二二一
郡	部	八八五,二三〇
島	嶼	二七,二〇〇
區	部	一六,八九〇
合計		九五一,八六〇

### 第二項 選舉區及議員ノ配當

選舉區ヲ設ケタル日

選舉區ハ一國ヲ多クノ區劃ニ分割シテ議員ノ全數ヲ之ニ配當シ以テ其各部分ヨリ議員ヲ選出セシメントスルカ爲設ケタルモノナリ理論上選舉區ヲ設ケスシテ全國ノ投票ヲ集メテ當選者ヲ定ムルハ至當ナリト雖モ極メテ狹小ナル國ヲ除クノ外實行ニ於テ困難ナルニヨリ殆ト何レノ國ニ於テモ選舉ノ便宜ノ爲

大選舉區及小選舉區

メ選舉區ヲ設ケサルナキナリ我選舉法第一條ニ於テモ衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉スト規定シテ以テ選舉區ヲ設ケタルコト、爲セリ併シ議員ナルモノハ選舉區ヲ代表スルモノニ非サルニ由リ(選舉區ハ人格ヲ有セス從)我選舉法第七條ニ行政區劃ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現在議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシト規定シテ以テ一旦議員ト爲リタル以上ハ選舉區ノ變更ノ爲メ其位地ヲ失ハサルモノトセラレタリ此選舉區ノ定メ方ニ付テハ其區域ノ大小ニ從ヒテ大選舉區制ト小選舉區制トノ別アリ小選舉區制トハ一區内ヨリ一名ノ議員ヲ出スヘキ限度ヲ以テ區域ヲ定ムルモノナリト雖モ大選舉區ノ制度ハ一區域内ヨリ數名ノ議員ヲ出シ得ヘキ範圍ヲ以テ區域ヲ定ムルモノナリ今其利害ヲ考フルニ大選舉區ノ制ヲ執ルトキハ投票調査ノ手續ヲ煩雜ニ爲サシムルノミナラス一人ノ議員ヲ欠クモ大ナル全選舉區ノ選舉人ヲシテ投票セシメサルヘカラサルノ缺點アリト雖モ小選舉區制ヲ執ルトキハ議員トシテノ適材ヲ得ルコト困難ナルノミナラス賄賂脅迫等ノ不正ナル結果ヲ生シ易キニ由リ比較的大選舉區制ヲ以テ勝ルモノト論定セサルヲ得ス是レ我國ニ於テ小選

舉區制ヲ改メテ大選舉區制ヲ用フルニ至リタル所以ナリ即チ從來ノ數郡若クハ郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シ一區一名ヲ以テ原則ト爲シ(二名ノ選舉區モナキニアラス)タルモ現行法ハ府縣ヲ以テ選舉區ト爲スヲ原則ト爲シ只之カ例外トシテ市及ヒ島嶼ヲ獨立ノ選舉區ト爲スコト、爲セルナリ市ヲ獨立ノ選舉區ト爲シタルハ被選舉者ノ資格ノ要件農民ニ利アルカ爲メ商工業者ヨリモ之ト平均ニ議員ヲ出サシメムトスルノ目的ニ出テタルモノニテ人口三萬人以上ノ市ヲ獨立選舉區トナスコト、セリ而シテ今日獨立選舉區トナラサル市ハナキナリ又島嶼ニシテ獨立ノ選舉區ト爲サレタルハ重要ナル島嶼ニシテ而モ遠隔ナル島嶼ニ限ラル、モノナリ蓋シ之ハ投票調査ノ便宜上ヨリ來ルモノナリ如此我國ニテハ小選舉區制ヨリ大選舉區制ニ移レリト雖各般一般ノ傾向ハ大選舉區制ヨリ小選舉區ニ移ルノ傾向アリ獨乙、英吉利、伊太利、和蘭、北米合衆國皆然リ殊ニ佛國ノ如キハ一七九三年ノ憲法ニヨリ小選舉區ノ制ヲ採用シタルニ拘ハラス左ノ如キ變更ヲ經テ終ニ現行法ニ於テモ小選舉區制ヲ行フモノナリ

一七九三年 小選舉區(單記投票)

- 一七九五年 大選舉區(連記投票)
- 一八三一年 小選舉區(單記投票)
- 一八四八年 大選舉區(連記投票)
- 一八五二年 小選舉區(單記投票)
- 一八七一年 大選舉區(連記投票)
- 一八七五年 小選舉區(單記投票)
- 一八八五年 大選舉區(連記投票)
- 一八八九年 小選舉區(單記投票)

其他北米合衆國、英吉利、和蘭、伊太利、丁抹、匈加利、獨乙帝國及獨乙聯邦中ノ多數即巴威里、索遜、瓦天堡、索遜、ワイマル、索遜、マイニンゲン、索遜、アルテンブルヒ、索遜、ゴ  
 ーブルヒ、ゴター、墨堡、ルードルス、タット、墨堡、ゾンダース、ハウゼン、リッペー、ロ  
 イス、舊統ハ小選舉區制(單記投票)ヲ採ルモノニシテ大選舉區制(連記投票)ヲ用フ  
 ルモノハ僅ニ白耳義ルクサンブルグ、瑞西、那威、瑞典、普魯士、巴丁、フラウンシワイ  
 ヒ等ニ止ルモノナリ而シテ此後ノ數國ト雖小選舉區制(單記投票)ノミヲ用フル

モノニアラスシテ大選舉區制トヲ併用スルモノナリ故ニ一見我國ニテハ此制度ノ大勢ニ逆ツテ大選舉區制ヲ新ニ採用シタルカ如シト雖彼ノ大選舉區制ナルモノハ皆連記投票法ノ伴フモノニシテ我國ノ大選舉區制ハ單記投票法ノ伴フモノナルニヨリ之ヲ同一ニ論スルヲ得サルナリ彼ニアリテ大選舉區連記投票制ヲ漸次排斥シテ多ク小選舉區單記投票制ヲ用ユルニ至リタルハ大選舉區連記投票法ニ

一 大選舉區連記投票ハ多數ノ選舉人ヲ有スル政黨ノミヨリ議員ヲ出サシム固ヨリ當選ハ多數ノ投票ニヨリ之ヲ決スルニヨリ多數ノ意思ニヨリ議員ハ決定スヘシト雖所謂多數代表ノ弊ナルモノカ大選舉區連記投票法ノ如ク甚シカラサルナリ

二 大選舉區連記投票法ハ政黨關係以外ノモノヲシテ議員ト爲ルコトヲ得サラシム議員ノ適材ハ政黨所屬ノモノニ限ラス然ルニ選舉區ヲ大キクシテ且連記投票ナルトキハ選舉人ハ各候補者ニ付テ自ラ獨立ノ判斷ヲ下ス能ハサル爲政黨ヨリ指名ノ候補者ノミヲ投票スルノ結果ヲ生スルナリ

各選舉區  
ノ議員々々  
數

三 大選舉區<sup>連記</sup>投票法ハ選舉ノ競争ヲ激烈ナラシム小選舉區ニテハ其勝敗

ハ一人ノ議員ニ止マレリト雖大選舉區連記投票制ヲ行フ處ニテハ其勝敗ハ數人若クハ十數人ノ議員ノ運命ニ關スルニヨリ選舉ノ競争激烈トナルハ免レサルコトナリ

等ノ欠點アリテ大選舉區ノ利益ニ之ヲ代フルヲ得サルニ基キタルモノナリ故ニ我國ニテハ其欠點ヲ避ケ然カモ大選舉區制ノ利益ヲ收ムル爲大選舉區單記投票ト爲シタルナリ併シ之モ完全無欠ノモノニアラスシテ欠點ヲ有スルコトハ已ニ前ニ述ヘタルニヨリ茲ニ再ヒ贅セサルナリ

各選舉區ニ配當セラレタル議員ノ員數ハ明治三十三年選舉法改正ト同時ニ別表ヲ以テ之ヲ定メ明治三十五年法律第三十八號第三十九號ヲ以テ之ニ改正ヲ加ヘ次ノ如クニナシタリ

選舉區ノ數 議員ノ數

府縣(市ヲ除ク)

四五 二九六

市 五三 七三

島 嶼 四

北海道 區 三 郡 三

沖 繩 一 二

計 一〇九 三八一

(右ノ中北海道ノ郡部三人沖繩縣ノ二人ハ未施行ニアルヲ以テ現在ノ議員ノ員數三七六ナリ)

此員數ハ其選舉區内ノ人口ヲ標準トシタルモノニシテ人口十三萬人毎ニ一人ヲ配當シ其端數ハ四捨五入ノ法ニヨルモノナリ併シ十ヶ年間ハ選舉區ノ人員ニ増減アルモ之ヲ動カサ、ルコト、ナセリ

市ハ之ヲ獨立ハ選舉區トナスヘキモノナリハ、現行ノ選舉法ニ於テ市ヲ獨立ノ選舉區トナシタルハ一ハ英國ニテハ市部選出ノ議員郡部ニ匹敵シ、現行ノ選舉法ニ於テハ中市及各商業會議所ハ各獨立ノ階級トシテ議員ヲ選出シ、獨逸中ノ索遜ニテハ市部ヲ獨立ノ選舉區トシ、市部ノ議員ハ郡部ノ議員ノ三分ノ一トナシタルノ例ニ依リテ雖尙一ハ地租ト他ノ直接國稅トナシ、選舉資格上同額ニナシタルノ結果選舉人ノ數農民ニ偏多ニナルヲ防クカ爲ナリ茲ニ於テ小選舉區制ヲ改メテ

議員ノ配當ノ標準

市ハ之ヲ獨立ノ選舉區トナスヘキモノナリハ、現行ノ選舉法ニ於テ市ヲ獨立ノ選舉區トナシタルハ一ハ英國ニテハ市部選出ノ議員郡部ニ匹敵シ、現行ノ選舉法ニ於テハ中市及各商業會議所ハ各獨立ノ階級トシテ議員ヲ選出シ、獨逸中ノ索遜ニテハ市部ヲ獨立ノ選舉區トシ、市部ノ議員ハ郡部ノ議員ノ三分ノ一トナシタルノ例ニ依リテ雖尙一ハ地租ト他ノ直接國稅トナシ、選舉資格上同額ニナシタルノ結果選舉人ノ數農民ニ偏多ニナルヲ防クカ爲ナリ茲ニ於テ小選舉區制ヲ改メテ

大選舉區制トナシタルニ拘ラス特ニ市ニ就テ例外ヲナシタルノ必要アリヤ否ヤヲ疑ハサルヲ得ス元來大選舉區單記投票ノ制トナシタルハ少數代表ノ目的ヲ達センカ爲ニシテ商工業者ヨリ議員ヲ出スノ目的ハ之ニヨリテ遂ケラルヘキナリ併シ前ニ推定シタル如ク大選舉區單記投票ノ制ヲ用フルモ我國ニテハ地租ト直接國稅トノ間ニ其額ノ上ニ權衡ヲ保タサルカ爲メ特ニ市ヲ獨立ニナスノ必要アリト云ハ、寧ロ其本ヲ正シテ地租十圓他ノ直接國稅三圓トナスヘキナリ然ルニ之ヲ爲サスシテ一方ニ少數代表ノ選舉制ヲ採用シテ尙市ヲ獨立ノ選舉區トナス實ニ矛盾ノ甚シキモノニテ立法者ノ意思殆ント何レニアルヤヲ解スルヲ得サルナリ

### 第三項 投票

選舉ハ必スシモ投票ニ依ラサルヘカラサルモノニ非スト雖モ多クノ國ニ於テハ投票ヲ以テ選舉ヲ行フコト、爲シ我國モ亦選舉法ニ於テ選舉ハ投票ヲ以テ行フト規定セリ蓋シ選舉人多キトキハ此方法ニ依ルヲ便利ナリトスレハナリ投票ノ記載ノ方法ニ依リ記名投票及ヒ無記名投票若クハ單記投票及ヒ連記投票ノ區別アリ今此種類ヲ略說スレハ

#### 第一 單記投票及ヒ連記投票

單記投票  
及連記投票  
害ノ利害

記名投票  
及無記名投票  
害ノ利害

連記投票トハ選舉區内ノ議員ノ全數ノ候補者ヲ投票ニ記載セシムルモノニ  
テ單記投票トハ選舉區ノ議員ノ數ノ多寡ニ拘ハラズ投票ニハ單ニ一人ノ候  
補者ノミ記載セシムルモノヲ謂フ此連記投票ハ第一選舉人ノ間ニ投票ヲ行  
フ上ニ於テ不公平ナル結果ヲ生セシムルノミナラス猶ホ前ニ述ヘタル多數  
代表ノ弊ヲ導クモノナリ故ニ我國ニ於テハ前選舉法ノ時連記投票ノ制ヲ採  
用セシモ今日ハ之ヲ單記投票ノ制ト改メタリ固ヨリ單記投票ニ於テハ少數  
ノ人ニ投票集中スルトキハ定數ノ議員ヲ得ル能ハスシテ幾回モ選舉ヲ繰返  
サ、ルヲ得サル結果ヲ生スト雖モ此ノ如キ結果ヲ生スルハ實際甚タ稀ナル  
コトニ屬スルニ由リ今日單記投票ノ制ヲ採リタルハ當ヲ得タリ

第二 記名投票及ヒ無記名投票

記名投票トハ投票中ニ候補者ノ氏名ノ外ニ選舉人ノ姓名ヲ記載セシムルモ  
ノニテ無記名投票トハ候補者ノ姓名ノミヲ投票ニ記載セシムルモノヲ稱ス  
ルナリ單ニ理論上ヨリ論スルトキハ選舉ハ記名投票ニ依ルヲ可トスルモノ  
ナリ蓋シ選舉ナルモノハ公法上ノ職務ニシテ選舉人ハ十分ノ責任ヲ以テ之

ヲ行フカ爲其姓名ヲ明カニ記載スヘキモノナレハナリ然レトモ現今選舉人  
ノ德義ノ程度低ク賄賂ノ爲脅迫ノ爲メ其他選舉ヲ争フ候補者ノ運動ノ爲メ  
其意思ヲ動かサル、ノ虞アルニ由リ選舉人ノ意思ノ自由ヲ保證スルカ爲ニ  
無記名ノ方法ヲ用ヒサルヲ得サルモノトス之一六七二年ニ英國カ Ballot act  
ヲ出シテ秘密投票ニ改メタル所以ニシテ今日尙記名投票ノ方法ヲ用フルハ  
勾加利、丁抹、普魯士(選舉人ノ選)、ブラウンシュワイヒ(同上)、墨堡、ゾンダース、ハウゼ  
ン、ワルデックニ止リ他ノ大多數ノ國即佛蘭西、奧太利、以太利、西班牙、葡萄牙、白  
耳義、和蘭、ルクサンブルグ、瑞西、瑞典、那威、希臘、北米合衆國、獨乙帝國、巴威里、索遜  
瓦天堡、巴丁、ヘツセン、索遜、ワイマル、索遜、マイニンゲン、索遜、アルテンブルヒ、索  
遜、コーブルヒ、ゴーター、ヲルデンブルヒ、アンハル、墨堡、ルードルスタット、舊  
ロイス、新ロイス、シヤウムブルグ、リツペー、リツペー等ニテハ皆記名投票ヲ採  
用スルモノナリ

我國モ前選舉法ニテハ記名投票(市町村會ノ選舉ハ)ヲ用ヒシモ賄賂脅迫其他  
ノ選舉上ノ弊害生ジタルコト少ラザリシニヨリ改正選舉法ニ於テハ之ニ代

フルニ無記名投票ノ方法ヲ用フルコト、ナセリ其結果我國ニテモ何人ト雖選舉人ノ投票シタル被選人ノ氏名ヲ陳述スルノ權利及義務ナキモノナリ猶ホ我制度上投票ニ通スル重ナル原則ヲ舉クルトキハ

一 投票ハ一人一票ニ限ルモノトス 一人一票ノ原則ハ何レノ國ニ於テモ總テ然ルモノニ非スシテ白耳義ノ如キ一人ニシテ三票マテノ投票ヲ行フコトヲ許スノ制ナキニ非サルナリ白耳義ニ於テハ滿二十五歳ニ達シタル男子ハ總テ選舉權ヲ有スルモノニテ仍ホ其他滿三十五歳以上ニシテ妻ヲ有スルカ若クハ子ヲ有スル者ニテ家屋ニ付キ五フラン以上ノ國稅ヲ納ムル者及ヒ滿二十五歳以上ニシテ二千フラン以上ノ價アル不動産ヲ有スルカ又ハ二千フラン以上ノ公債若ハ貯金ヲ有スル者ニシテ一ケ年百フラン以上ノ收入アルモノハ更ニ一個ノ添加投票權ヲ有スルモノナリ又滿二十五歳以上ニシテ中學ノ程度以上ノ教育ヲ受ケタル者又ハ公務私務ニ從事シ若クハ從事シタルカ爲メ中學以上ノ教育ノ程度アル者ト認メラル、者ハ二票ノ添加投票權ヲ附與セラル、モノナリ而シテ總テ一人ニシテ三票以上ヲ行フコトヲ得スト

復數投票ノ例

二重投票ノ效力

投票ノ委託

自ラ被選人ノ名ヲ記スルハ投票スルハ

定メラレタリ併シ此復數投票ノ制度ハ千八百九十三年始メテ白耳義ニ於テ行ハレタルモノニテ他ニ類例ヲ見サルノミナラス其投票及其調査ノ手續類雜ナルニヨリ理論上宜シキヲ得ルモ我國ニテハ之ヲ採ラスシテ一人一票ノ制ヲ取レリ故ニ一人ニシテ二ヶ處以上ノ選舉人名簿ニ登録セラレ二重ノ投票ヲ爲シタルトキハ生活ノ中心ナラサル土地ニ於テ爲シタル投票ハ無効ニ歸スルモノトス

二 投票ハ自ラ行フヘキモノナリ 貴族院伯子男爵及多額納稅者議員ノ選舉ニハ異例トシテ投票ヲ他人ニ委託スルヲ許シタルモ衆議院ノ選舉ニハ絕對ニ之ヲ許サ、ルモノナリ蓋シ選舉ハ公職務ナレハナリ

三 被選人ノ名ヲ自ラ記サ、ルヘカラス 此規定ハ前選舉法ニ於テ存在セザリシモ現行ノ選舉法ニ於テ新ニ之ヲ設ケタリ其之ヲ設ケタル理由ハ一ハ之ヲ以テ全ク無筆ナル者即チ教育ノ程度極メテ低キ者ノ投票ヲ制限スルニ在リト雖モ猶ホ一ノ理由ハ無記名投票ノ制ニ改メタルノ結果トシテ必要ナレハナリ

四 一定ノ投票用紙ヲ用ヒサルヘカラス 是レ理論上必スシモ然ラサルヘカラサルモノニ非スト雖モ選舉資格ナキモノ投票若クハ選舉人ノ意思ニ非サルノ投票ヲ防クカ爲メナリ而シテ我選舉法ハ投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニテ選舉人ニ渡スヘキモノトナセリ

五 投票ハ投票所ニ於テ行フヲ要ス 此投票所ハ市役所町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理者ノ特定シタル場處ニ設ケラル、モノナリ

六 定時間外ニ投票スルヲ得ス 我選舉法第三十三條ニハ投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツト故ニ此時間以外ニ投票所ニ至ルトキハ投票スルヲ得サルモノナリ併シ選舉人多キカ爲其時間内ニ投票所ニ至リタルモ投票スルヲ得サルモノハ此時間外ニ投票シ得ルハ勿論ナリ

七 選舉人名簿ニ記載セラレサルモノハ名簿ニ登録セラルヘキ確定判決書ヲ所持スルモノ、外投票スルコトヲ得ス 是選舉人名簿ニ關スル制度ヲ設ケタルノ結果ナリ故ニ選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票簿ニ捺印シ投票スヘク又投票管理者カ投票ヲナサントスル選

舉人ノ本人ナルヤ否ヤヲ確認スルヲ得サルトキハ本人ナル旨ヲ宣言セシメ投票ヲナサシムヘキモノトナセナリ

### 第四項 選舉ノ機關

#### 第一 投票管理者

市町村長此任ニ當ルモノニテ其職務ハ

- 一 選舉人カ果シテ本人ナルヤ否ヤヲ確認スル能ハサルトキハ投票立會人ノ面前ニ於テ其本人ナルコトヲ宣言セシムルコト
- 二 投票立會人ノ意見ヲ聞キ投票ノ拒否ヲ決定シ若シ拒否セラレタル選舉人ノ不服ナルトキハ假ニ投票ヲナサシムルコト
- 三 定時ニ至リタルトキハ投票所ノ閉鎖投票終了シタルトキハ投票函ノ閉鎖ヲ命スルコト
- 四 投票録ヲ作ルコト

五 町村ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ投票函投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者

投票管理  
者ノ職務



ニ送致スルコト

六 投票所ノ秩序ヲ維持スルコト

等ニアルナリ尙管理者ハ必要ニ應シ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得ルモ  
ノトス

第二 投票立會人

投票立會人ハ投票所ニ參會シテ投票ニ立會フヘキモノニテ郡市長カ各投票  
區内ノ選舉人中ヨリ三名乃至五名ノ立會人ヲ選任スルモノトス而シテ立會  
人ハ正當ノ事故ナクシテ其任ヲ辭職スルヲ得サルモノナリ

第三 開票管理者

開票所ハ通常郡市役所ニ設ケラル、モノナルカ故ニ郡市長ヲ以テ開票管理  
者トス故ニ市長ハ一方ニ投票管理者ニシテマタ開票管理者タルナリ而シテ  
其職務ハ

- 一 郡ニ於テハ投票函到達ノ翌日市ニ於テハ投票ノ翌日開票立會人立會ノ  
上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スルコト(選舉法第五

投票人數ト  
符トノ計算  
ト合セサ  
ルトキハ  
如何ニス  
ヘキヤ

十五條

疑問 此ノ投票數ト投票人數トノ計算ノ場合ノ如キ事實上此ノ總數ノ相符

- 合セサル事頗ル多シ然ルニ此カル場合ニ遭遇シテ如何ニ處スヘキヤニ就  
テハ條文ノ規定明瞭ナラス即右ノ投票函ノ分ハ之ヲ除キテ他ノ投票函ニ  
就テ點檢スヘキヤ將タ又一切ノ開票ヲ中止スヘキヤ或ハ右ノ顯末ヲ開票  
録ニ記入シ符合ノ如何ニ頓着ナク他ノ分ト併セテ點檢シテ選舉長ニ報告  
シ異日選舉訴訟又ハ當選訴訟起リタル場合ニハ一ニ決定ヲ裁判所ノ判決  
ニ仰クヘキヤ併シ正當ナル解釋ハ計算若シ符合セサルトキハ總テ右ノ投  
票ヲ無効ト解釋スヘキナリ蓋シ然ラサレハ計算ハ無意義ニ歸スレハナリ
  - 二 假投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聞キ其受理如何ヲ決定スルコト
  - 三 投票ヲ開票立會人ト共ニ點檢スルコト
  - 四 開票立會人ノ意見ヲ聞キ投票ノ效力ヲ決定スルコト
- 選舉法上無効ナル投票左ノ如シ
- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

- 一 投票中二人以上ノ選舉人ヲ記載セルモノ
- 一 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
- 一 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 一 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ(但シ官位、職業、身分、住處又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此限ニアラス)
- 五 開票録ヲ調査スルコト
- 六 開票ノ結果ヲ選舉長ニ報告スルコト

第四 開票立會人

名ノ示ス如ク開票ニ立會フモノニテ其數ハ三名以上七名以下トス而シテ地方長官カ選舉人中ヨリ之ヲ選任スルモノナリ併シ市長ハ投票管理者ト開票管理者トヲ兼スルカ故ニ市ノ投票立會人ハ同時ニ開票立會人タルナリ

第五 選舉會

選舉會ハ道廳及各府縣毎ニ之ヲ設ケ地方長官ヲ以テ選舉長トシ各選舉區内

選舉長ノ職務

第六 選舉長

ニ於ケル選舉人中ヨリ選任シタル選舉立會人ト共ニ其事務ヲ執行セシムルモノニテ要スルニ郡市部開票ノ結果ヲ調査スルモノナリ

- 一 投票開票ノ監督ヲナスコト
- 二 選舉會ノ場處及日時ノ指定ヲナスコト
- 三 選舉會ノ場處及日時ヲ告示スルコト
- 四 選舉立會人ノ選任ヲナスコト
- 五 選舉會ノ開閉ヲナスコト
- 六 報告書ノ調査ヲナスコト
- 七 當選者ノ決定及告知ヲナスコト
- 八 當選證書ヲ附與スルコト
- 九 當選人ノ告示及報告ヲナスコト

十 選舉會ノ取締ヲナスコト

十一 當選人ナキトキ若ハ不足スルトキハ更ニ選舉ヲ行ハシムルコト

十二 訴訟ノ判決ニヨリ當選無効トナリタルトキ若ハ選舉ニ關スル罰則ニ

ヨリ處罰セラレタル結果トシテ其當選無効トナリタルトキ必要ナル處置  
ヲナスコト

第七 選舉立會人

選舉長ハ各選舉區内ノ選舉人中ヨリ三名―七名ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉  
會開會ノ期日ヨリ三日前ニ本人ニ之ヲ通知シ選舉會ノ當日選舉會ニ參會セ  
シムルモノトス又立會人ハ其任ヲ辭シ得サルモ指定ノ時刻ニ至リ參會セス  
又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ選舉長臨時選舉人中ヨリ  
選任シテ補充スヘキモノナリ

第五項 當選人

當選人ヲ定ムルニ過半數ノ投票ヲ得タルヲ必要ト爲シ(佛獨、奧若クハ選舉人ノ

議員ハ當  
選承諾ニ  
格ヲ其資  
格ヲ得ル

數ヲ議員ノ數ニテ除シテ得タル商數ノ投票ヲ得ルヲ必要トナス例(西)アリト雖  
モ我選舉法ハ有效投票ノ比較的最も多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者ト爲スコト  
ハセリ併シ最少數ノ制限アリテ選舉區内ノ議員ノ數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載  
セラレタル者ノ總數ヲ除シ之ヨリ得タル數ノ五分ノ一以上ノ投票アルコトヲ  
必要トナセリ又當選人ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同  
年月ナルトキハ抽籤シテ其順位ヲ定ムルモノナリ又當選人當選ノ告知ヲ受ケ  
タル時ハ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ二十日以内ニ届出ツルモノニテ若之ヲ爲サ  
ハルトキハ當選ヲ承諾シタルモノト看做サルハナリ茲ニ於テ當選人ハ承諾ニ  
ヨリ議員タルノ資格ヲ得ルモノナリト説ク人アリト雖議員ノ選舉ハ契約ニ非  
スシテ一方行爲ナルカ故ニ當選人ノ承諾ハ一ノ解除條件ト認ムヘキモノナリ  
從テ議員タルノ資格ハ選舉ノトキニ得ラレタルモノナリ之議員ノ任期ハ總選  
舉ノ期日ヨリハ四ケ年トスト定メラレタル所以ナリ固ヨリ地方長官ハ當選人  
承諾シタル後當選證書ヲ付與スルモ之ハ唯議員タルコトヲ證明スルニ止リ之  
ニヨリ議員タルノ資格發生スルモノニアラサルナリ(獨)ニテモ我國ニテモ當選

承諾期滿了前ニ議員ヲ召集シタル例アリ)

我國ニテハ如此ク當選ヲ承諾スルヤ否ノ自由ヲ當選人ニ與ヘタリト雖索遜アルテンプルヒ及舊ロイスニ於テハ當選人ハ特別辭任ノ理由ナキ以上ハ當選ヲ辭スルヲ得スト爲セリ

### 第六項 選舉訴訟當選訴訟

選舉ノ效力(選舉ノ效力トハ選舉ノ規定ノ違背ノ場合ノミナラス投票ノ有效無効ノ問題ヲ含ム)ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ選舉訴訟ヲ控訴院ニ提出シ其判決ニ不服アルモノハ大審院ニ上告スルコトヲ得ルナリ又當選ヲ失ヒタルモノ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ當選人ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ當選訴訟ヲ控訴院ニ提出スルコトヲ得若シ當選ニ必要ナル得票定數ニ達シタリトノ理由ニヨリ出訴スルトキハ選舉長ヲ被告トシ再選舉告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得而シテ其判決ニ不服ナルトキハ大審院ニ上告スルヲ得ルナリ

選舉訴訟  
及當選訴訟  
ハ司法  
裁判所ノ  
管轄ニ屬  
ス

右ノ裁判所ハ選舉ノ規定ニ違背スルカ爲當選人ノ結果ニ異動ヲ及ス虞アル場合ニ限り其選舉ノ全部若ハ一部ノ無効ヲ判決スヘキモノニシテ其裁判ヲナス場合ニハ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會シムルコトヲ得又其判決ノ謄本ハ之ヲ內務大臣ニ送付シ若議會開會中ノ時ハ併セテ衆議院議長ニ送付スヘキモノナリ

### 第三款 被選人ノ資格要件

被選人タルノ資格要件モマタ選舉人タルノ資格要件ト同シク財産又ハ教育上ノ資格ヲ要件トスルモノトセサルモノトアリ併シ近時ノ一般ノ傾向ハ選舉權ヲ有スルモノハ又同時ニ被選資格ヲ有スルモノト爲スニアリ唯タ葡萄牙ニテハ選舉權ハ殆ト普通選舉ニ近キニ拘ハラス被選資格トシテハ一定ノ財産ヲ有シ若クハ高等ノ學校ヲ卒業シタルヲ必要トシ瑞典ルクンサブルグニテハ之ニ反シ選舉人タルニハ財産上ノ資格ヲ要件トスルモ被選人タルニハ全ク之ヲ必要トセサルナリ我國ニテモ前選舉法ニ於テ被選人タルニモ納稅上ノ資格ヲ要件トシタルニ拘ハラス現選舉法ニ於テハ此要件ヲ除キタリ蓋シ選舉人ノ選擇

選舉要件  
及被選要件

ニ重キヲ置クノ精神ニ出ツルモノニテ已ニ選舉人ヲ制限スル以上ハ被選資格ヲ制限スルノ必要ナシトノ理由ニ出ツルモノナリ

我衆議院議員タルニハ左ノ要件ヲ具フヘキナリ

一 帝國臣民タル男子ニシテ選舉ノ期日ヨリ起算シ年齡滿三十歲以上ナルコト

和、白、佛、埃、普、希等ノ諸國ニテハ被選人ノ年齡ハ選舉人ヨリ高キ年齡ヲ必要トセリ蓋シ單ニ投票スルヨリハ國務ヲ審議スルヲ重大ナル公務ト認メタレハナリ故ニ我國ニテモ選舉人タルニ滿二十五歲以上ヲ要件トセルニ拘ハラヌ被選資格トシテ滿三十歲以上トナセリ只丁抹ノミハ他ト異リ選舉人ノ要件ヲ滿三十歲以上トナシ被選人タルノ年齡ヲ滿二十五歲以上トナセリ之ハ議員トシテノ適否ハ年ノ老壯ニ拘ハラサルニヨリ選舉人ニハ經驗ニ富ミタルモノヲ用ヒ以テ選擇ノ正ヲ得セシメント欲シタルナリ  
今他國ノ被選人ノ年齡ヲ參照ノ爲茲ニ舉クレハ  
埃、伊、和、希、那威、普、巴威里、索遜諸國ハ我國ト同シク滿三十歲以上ナルモ獨、佛、北

選舉年齡  
高キニ選

米、西、白、丁、瑞典ハ滿二十五歲以上英國ハ滿二十一歲以上瑞西ハ滿二十歲以上又我地方議會ノ被選權モ滿二十五歲以上ニシテ與ヘラル、ニヨリ我國ノ三十歲以上ハ高キニ過クルノ感アリ

二 歸化人、歸化人ノ子ニシテ我國籍ヲ得タル者及ヒ我國民ノ養子又ハ入夫ト爲リタル者ニ非サルコト

普魯士、索遜ニテハ三年以上ヲ經過スレハマタワルデツクニテハ二年以上ヲ經過スレハマタ索遜、マイニンゲン、新ロイス等ニテハ一年以上ヲ經過スレハ被選權ヲ與フルコト、ナセルモ我國ニテハ一定ノ年限(勅裁ノモノハ五年ヲ其他ノモノハ十年ヲ)經過シタル後勅裁ニヨリテ其制限ヲ除カレタル者ノ外ハ全ク被選資格ヲ有セサルモノナリ

三 宮内官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計検査官、收稅官、警察官ニ非サルコト

議員ト官吏トノ關係ニ就テハ原則トシテ官吏ノ議員ヲ兼スルヲ禁スル制度(北米、英、佛、伊、白、瑞、西諸國其例ナリ)ト原則トシテ此兩者ノ兼務ヲ許シ例外トシ

官吏ト  
員

テ特別ノ地位ノ官吏ノミ議員ヲ兼ヌルヲ得スト定ムルモノトアリ而シテ我國ハ獨逸系統ノ諸國ニ倣ヒ此後ノ制度ヲ採用スルモノナリ

四 神官神職僧侶其他諸宗ノ教師、小學校教員ニ非ルコト又ハ其職ヲ罷メテ三ヶ月ヲ經過セサルモノニ非サルコト

五 政府ノ爲メニ請負ヲ爲ス者又ハ政府ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ非サルコト

請負ノ文字ニツキテハ解釋上大ニ疑問ヲ惹起シ大審院ノ如キハ此文字ヲ頗ル廣義ニ解シ管ニ民法上ノ請負ノミナラス現金賣買ノ外スヘテ契約ニヨリテ物品勞力其他一切ノ供給ヲ爲スモノハ請負ナリトシ立法者ノ精神ハ政府ニ對シ利害ノ關係ヲ有スルモノハ議論ノ自由ヲ牽制セラル、カ故ニ議員トシテ不合格ナリト認メタルニ在ルヲ以テ所謂御用達ニ屬スルモノハ皆失格者ナリト判決シタリト雖モ請負トハ民法上ノ行爲ニシテ請負ノ何タルハ民法ノ示ス處ナルニヨリ選舉法ノ此請負ノ文字モ民法ノ規定ニ從テ解釋スヘキモノナリ

六 華族ノ戸主ニ非サルコト(皇族ハ丁年ニ達シタルトキ當然議員タルカ故ニ被選資格ナキハ勿論ナリ)

ヘツセン國ニ於テハ土地ヲ有スル華族ハ下院議員ノ選舉ニツキ選舉權ヲ有セサルモ被選資格ヲ有スルモノトセラレ、ナリ

七 官<sup>公</sup>立學校ノ學生々徒ニ非ルコト

八 現役又ハ召集中ノ軍人ニ非サルコト

九 選舉ニ關スル犯罪ニ因リ總選舉人タルコトヲ禁セラレタル者ニ非ルコト  
十 禁治產者、準禁治產者、身代限ノ處分ヲ受ケテ債務ノ辨償ヲ了ヘサルモノニアラサルコト又家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケ其確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者ニ非サルコト

十一 公權ヲ剝奪セラレタル者、公權停止中ノ者又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受

其他仍ホ選舉事務ニ直接關係アル官吏又ハ吏員ハ其選舉區内ニ於テ被選人タルコトヲ得サルモノナリ

兼職禁止  
ノモノ

多額納税  
者ハ被選  
資格ナキ  
ヤ

選舉權及  
被選舉權ハ  
タルノ公權  
ナリ

又貴族院議員、府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得サルニ由リ衆議院議員ニ當選セラレタル場合ニ之ヲ承諾セントスルトキハ貴族院議員若ハ府縣會議員ノ地位ヲ辭セサルヲ得サルナリ其立法上ノ理由ハ一ハ二院制ヲ置クノ目的ヲ貫ク爲ニシテ他ハ地方ノ利益ノ爲國家ノ利益ヲ犧牲ニスルコトアルヲ避クル爲ナリ又華族ノ戶主ハ衆議院議員ノ選舉ニ全ク關係スルヲ得サルニヨリ貴族院議員ヲ互選スルコトヲ得ル多額納税者モ衆議院議員ノ選舉權被選舉權ヲ有スヘキ者ニ非サルカ如シト雖モ現行ノ選舉法ニ於テハ之ヲ禁セサルニ由リ多額納税者モ亦衆議院議員ノ候補者ト爲ルコトヲ得ルナリ巴丁ニ於テハ上院ノ大地主議員ノ選舉ニ關シ選舉權ヲ有スルモノハ下院議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セサルコト、ナセリ之ハ至當ノコトナルニヨリ我國ニテモ貴族院議員ノ選舉ニ關スル多額納税者ハ華族ノ戶主ト同一ニ衆議院ノ選舉權被選舉權ヲ有セサルモノト定ムヘキモノナリ

茲ニ被選舉權ハ一ノ公權ナルヤ否ヲ附說センニグ、マイヤ氏ザイデル氏其他多數ノ學者ハ被選舉權ハ一ノ資格ニシテ權利ニアラスト論シタルハ當ヲ得タルモノナリ即權ナル文存ヲ有スルモ市町村ノ公民權ト均シク其實權利ニアラサルナリ然ルニグ、マイヤ氏ハ被選舉權ハ權利ニアラサルモ選舉權ハ權利ナリト論スト雖モラバンツト氏ノ云フ如ク選舉權トハ投票スル權ノコトニシテ投票ヲナスコトハ選舉人カ國ノ機關トシテ行フ權限上ノ行爲ナルニヨリ之亦權利ト稱スヘキモノニアラサルナリ併シエリツク氏ステンゲル氏モラバンツト氏ニ反對ニ選舉權ハ權利ナリト主張セリ

### 第五節 帝國議會ノ議員

#### 第一款 議員ノ任期

上院議員ノ任期ハ下院議員ノ任期ヨリ長キヲ常トシ(那威例外)我國ニテモ貴族院議員中任期ヲ有スル處ノ伯子男爵議員及多額納税者議員ノ任期ハ共ニ七年ナルモ衆議院議員ハ總テ總選舉ノ期日ヨリ滿四ケ年トセラレタリ而シテ補欠議員ハ共ニ前任者ノ殘任期間ヲ任期トナスモノナリヨルデンブルヒニテハ解散後ノ議員ノ任期モ解散前ノ議員ノ殘任期間ヲ任期トスルコトヲ定メタリシ

任期ノ始

ト雖トモ我國ニテハ解散後ノ議員ノ任期ハ更ニ其總選舉ノ日ヨリ起算スルモノナリ

又他國ニテハ往々半數改選三分ノ一改選等ノ一部改選ノ制ヲ採レルモノアリト雖我議員ハ貴衆兩院共總テ全數改選ノ制ニ依ルモノナリ其理由ハ一部改選ニ左ノ欠點アルニ基クモノナリ

一 選舉ノ手數ト費用ト時トヲ要スルハ全部改選ト一部改選トニヨリ異ルコトナシ然ルニ一部改選ヲ行フトキハ其選舉ヲ行フ度數多クナルヲ免レス

二 議會ハ國民ノ意思ノ存スル處ヲ間接ニ知リ得ルモ一部改選ニテハ之ヲ知リ得ルノ機會ヲ得サルナリ

今參考ノ爲メ歐米諸國ノ議員ノ任期ヲ左ニ掲クルトキハ

佛	上院	九年(三分ノ一改選)	下院	四年
和		同上(同上)		三年(二分ノ一改選)
白		八年(二分ノ一改選)		四年(同上)

北米	六年(三分ノ一改選)	二年
普魯士	有任期ノ議員ナシ	五年
索遜	同上	六年(三分ノ一改選)
伊太利	同上	五年
奧太利	同上	六年
丁抹	八年(二分ノ一改選)	三年
瑞典	九年	三年
那威	三年	三年
西班牙	十年(二分ノ一改選)	五年
巴丁	區々	四年(二分ノ二改選)
希臘(一院制)		四年

### 第二款 議員ノ權利

#### 第一項 質問權



憲法篇 第四編 憲法上ノ機關 第四章 帝國議會 第五節 帝國議會ノ議員 四二八  
議院法第四十八條乃至第五十條ニ依リ議員ハ三十人以上ノ贊成者アル時ハ政  
府ニ質問スルコトヲ得ルモノニテ其ノ質問ノ主意書ハ書面ヲ以テ掲出ス可キ  
モノナリ而シテ政府ハ質問ヲ受ケタル時ハ必ス答辯ヲ爲ス可ク若シ答辯ヲ與  
ヘサル時ハ其理由ヲ説明スヘキモノナリ或ハ此質問權ヲ議員ノ權利ト爲サス  
シテ議會ノ權利若クハ兩議院ノ權利ノ如ク考ヘ議會若クハ議院ハ之レヲ以テ  
政府ノ責任ヲ問フモノナリト唱フル人アリト雖トモ此說ハ誤レリ何トナレハ  
政府ニ對スル質問ハ議會若クハ各議院ノ決議ヲ以テ爲スモノニ非サレハナリ  
要スルニ此質問ナルモノハ不明ナル點ニ付テ説明ヲ求ムルニ過キスシテ對議  
會ノ政府ノ責任ト關係ナキモノナリ

### 第二項 議案及上奏建議案發議ノ權

議員ハ定數ノ贊成者アルトキハ議案及上奏建議案ヲ發議スルコトヲ得ルモノ  
ナリ(議院法第二十九條第五十二條)

### 第三項 發言表決ノ自由權

憲法第五十二條ニ曰ク兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付  
院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ  
方法ヲ以テ公布シタル時ハ一般ノ法律ニ依リ處分セラル可シ此規定ハ英國ニ  
發シ終ニ今日各國憲法ニ及ヒタルモノニシテ其目的ハ政府ノ干涉ヲ絶テ以テ  
議員ヲシテ獨立自由ニ其職權ヲ盡サシメントスルカタメナリ而シテ此權利ニ  
ツキ注意スヘキ點ヲ舉クレハ

第一 議員カ發言表決ノ自由權ヲ享有スルハ院内ニテ正當ニ發言シタル場合  
ニ限ル故ニ院外ノ發言ハ勿論院内ニ於テ爲シタル發言モ議長ノ許可ヲ得ス  
シテ發言シタル場合ノ如キハ此規定ノ適用ヲ受クルモノニ非ス併シ院内ノ  
正當ナル發言ニ付テハ本會議ニ於ケルト委員會ニ於ケルトヲ問ハサルモノ  
ナリ

第二 此自由權ハ院外ニ於テ責任ヲ負ハサルノ意ニ留マリ院内ノ責任ニ付テ

德義上ノ  
責任ハ憲  
法ノ關ス  
ル處ニア  
ラス

憲法第五十二條ノ適用ノ範圍ニアラサルナリ蓋シ議員ハ議場ニ於テ其秩序ヲ守リ其他議院内ノ規則ニ隨ツテ發言スルノ義務ヲ有スルカ故ニ若シ議員カ他ノ議員ヲ侮辱シ若クハ議長ノ許可ナクシテ發言シタルトキノ如キハ院内ノ責任ヲ受クルヲ免カルヘキモノニアラサレハナリ

第三 憲法第五十二條ノ保障スル所ノモノハ院外ニ對スル法律上ノ責任ヲ負ハサルニ留マルモノトス故ニ議員ノ發言表決ニ對シ院外ニ於テ德義上ノ責任ヲ受クルカ如キハ憲法第五十二條ノ關係スル所ニアラス(治安警察法第七條參照)

又法律上責任ノ中ニハ官吏懲戒上ノ責任ヲ含ムカ故ニ官吏ニシテ議員タルモノ、院内ノ發言表決ヲ理由トシテ之ヲ懲戒處分ニ處スルヲ得サルモノナリ

第四 憲法第五十二條ニハ意見トアルカ故ニ思考ノ結果ニ關スル發言ニ止リ單純ナル事實ノ陳述ヲ含マサルモノナリ(獨逸ニテハ意見ノ文字ヲ用ヒスシテ發言ノ文字ヲ用フ)

身體自由  
權ノ範圍

### 第四項 身體ノ自由權

憲法第五十三條ニ曰ク兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ係ル罪ヲ除外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシト此規定モ始メテ英國ニ生シタルモノニシテ其規定ノ目的ハ前ノ場合ト均シク議員ノ身體ノ自由ヲ保障シ以テ議員ヲシテ其職ヲ全フセシメンカ爲ナリ今此身體自由權享有ノ範圍ヲ示ストキハ

第一 議員カ此自由權ヲ享有スルハ會期中ニ限ラル、モノナリ會期中トハ開會ヨリ閉會又ハ解散迄ヲ指スモノニシテ其間ニ於テ議員ヲ逮捕スル時ニ限リ憲法第五十三條ノ規定ニヨリ議院ノ許諾ヲ求ムヘキナリ此ニ關シ實際問題ト爲リタルハ會期前ヨリ逮捕シタル議員ヲ引ツ、キ拘留スル場合ニ會期ノ始メニ議院ノ許諾ヲ求メサル可ラサルヤ否ヤノ點ナリ之ニ關シ明治二十三年十二月四日ニ衆議院ハ衆議院議員ニシテ會期前ニ逮捕セラレ開會ノ後仍拘留中ノ者ハ衆議院ノ許諾アルニ非サレハ引續キ拘留スルコトヲ得スト

會期前ヨ  
リ逮捕シ  
タル議員  
ヲ引續キ  
拘留スル  
ニ許諾アル  
ハ衆議院  
ノ許諾アル  
ニ非サレハ  
引續キ拘留  
スルコトヲ  
得スト

ノ決議ヲナシ之ヲ司法大臣ニ通牒セシニ司法大臣ハ之ニ對シ同月六日ヲ以テ本大臣ハ憲法ノ明文ニ從ヒ司法權ノ執行ヲ爲サシムルノ外既ニ着手シタル刑事ノ訴追ヲ停止セシムルノ權ヲ有セス從ヒテ他ノ權勢ノ諾否ニ依リ司法權ノ必要ナル處分ヲ張弛セシムコト能ハストノ覆牒ヲ爲シタリ此二種ノ見解ノ是非ヲ考フルニ憲法第五十三條ノ規定ノ精神ヨリ看ル時ハ衆議院ノ議決ヲ以テ至當ト認メサルヲ得サルナリ何トナレハ若シ之ニ反對ノ解釋ヲ許ス時ハ會期ノ始マル前日ニ於テ種々ノ犯罪ノ嫌疑ノ名ノ下ニ濫リニ議員ヲ逮捕スルノ虞アレハナリ

又他國ノ立法例ヲ見レハ

英國 會期ノ前後四十日間ニ於テモ議員ハ身體自由ノ特權ヲ有ス

佛國 憲法第十四條 兩院ノ議員ハ其ノ所屬院ノ許諾アルニ非レハ重罪又

ハ輕罪ニ付訴追又ハ逮捕セラル、コトナシ但シ現行犯罪ハ此ノ限ニアラス

兩院議員ノ拘留又ハ訴追ハ其院ノ要求ニ依リ會期中之ヲ停止スヘシ

獨逸 憲法第三十一條 現行犯若ハ其翌日中ニ捕縛スルニアラサレハ會期中議會ノ許諾ナクシテ犯罪ノ爲ニ議員ヲ審問又ハ逮捕スルコトヲ得ス

負債ノ爲議員ヲ逮捕スル場合ニ於ケルモ亦議會ノ許諾ヲ要ス

帝國議會ノ請求アルトキハ議員ノ刑事手續及未決拘留若ハ民事拘留ハ之ヲ會期間猶豫スヘシ

普 憲法第八十四條 獨乙憲法第三十一條ニ粗同シ

奧 第十六條 拘留中ノ議員モ議院ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ之ヲ議院ニ出席セシムヘシ

等ノ規定アリ故ニ此ノ如キ議員解放ノ請求權ヲ議院ニ認メス若ハ身體自由ノ特權ヲ會期前ニ及ホサ、ル我國ニ於テハ會期前逮捕シタル議員ヲ開期後引續キ拘留スルニハ議院ノ承諾ヲ必要トスト解釋スルヲ至當ト信スルナリ或ハ之ニ關シ逮捕トハ權力ヲ以テ身體ノ自由ヲ拘束スルモノナルカ故ニ逮捕ノ要件トシテ逮捕前ニ身體ノ自由ヲ有スルコトヲ必要トス然ルニ既ニ逮捕セラレタル者ハ身體ノ自由ヲ有セサルカ故ニ此身體ノ拘束ヲ繼續スルハ

會期前逮捕シタル議員ヲ引續キ拘留スルニハ議院ノ承諾ヲ必要トス

開會前已  
刑罰ノ言  
ニテ受ケ  
渡ラザル  
ハタル議  
許諾院ノ  
シテ之ヲ  
逮捕スル  
ルコトヲ  
得ルヤ

逮捕ニアラス隨テ議院ノ許諾ヲ要スル限リニアラスト説ク人アリト雖モ此説ハ字句ニ拘泥スルノ甚タシキモノト云フヘキナリ

第二 現行犯罪及内亂外患罪ノ以外ノ犯罪ニ關シ逮捕セララル、時ニ限ルモノナリ即チ議員カ現行犯ヲ犯シ又ハ内亂外患罪ノ嫌疑ノ爲ニ逮捕セララル、時ハ此特權ヲ享有スルコトヲ得ス蓋シ現行犯ノ場合ニハ政府カ故ナクシテ議員ヲ逮捕スルモノニ非サルコト明カニシテ内亂外患罪ノ場合ハ其事項重大ニシテ議院ノ許諾ヲ俟ツノ暇ナキコト多ケレハナリ

第三 議會ノ開會前已ニ刑ノ言渡ヲ受ケ裁判確定後未タ逮捕セラレサル議員ハ會期中議院ノ許諾ナクシテ之ヲ逮捕スルコトヲ得ルヤ元來憲法第五十三條ヲ設ケタル目的ハ政府カ議員ノ出席ヲ妨害スル爲ニ故ナクシテ逮捕スルヲ妨クニアルニヨリ此場合ノ如キ刑ノ宣告確定シ政府カ故ナクシテ逮捕スルモノニアラサルコト明ナルトキハ第五十三條ノ適用ヲ受ケサルモノト解スヘキナリ即第五十三條ノ逮捕ハ犯罪審問ノ爲ノ逮捕ニシテ刑ノ執行ノ爲ノ逮捕ニアラスト考フヘキナリ併シ實際此問題ノ適用少シ何トナレハ議院

法第七十七條ニヨリ衆議院議員ニシテ被選資格ヲ失ヒタルトキハ當然退職者タルモノナレハナリ

### 第五項 刑法上ノ保護ヲ特ニ受クルノ權

議員ニ付テハ明治二十二年法律第二十八號ノ規定アリテ特ニ之ヲ保護スル事トナセリ其法律ニ曰ク議會ノ議員ニ對シ公務上ノ言論行爲ヲ公然ト誹毀侮辱シタルモノ又ハ議員ニ暴行強迫ヲ加エタルモノハ一ヶ月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス又議員公務ヲ行フニ當リ暴行強迫ヲ以テ妨害シタルモノハ四ヶ月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス猶同法律第四條ニ曰ク議員ノ職ヲ辭セシムル目的又ハ公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ強迫シタルモノハ十一日以上二ヶ月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ被害者ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スト故ニ此法律ヲ以テ議員ノ身體名譽及其職務ノ執行ヲ特ニ保護スル事ト爲セリ

### 第六項 歳費旅費ヲ受クルノ權

議員ノ手當ニ付テハ日當主義ヲ採ル國ト歳費主義ヲ採ル國トアリト雖我國ニテハ歳費主義ヲ採リ貴族院ノ被選及勅選議員並衆議院ノ議員ハ歳費トシテ二千圓議長ハスベテ五千圓副議長ハ三千圓ヲ受クル事ト爲シ只召集ニ應セサル議員及官吏ニシテ議員タル者ニ限リ歳費ヲ受クル事ヲ得サルモノトナセリ又其他議員ハ距離ノ遠近ニヨリ旅費ヲ受取ルコトヲ得ルナリ

元此歳費ハ議員ニ對シ八百圓議長ニハ四千圓副議長ニハ二千圓ヲ給シタリシモ明治三十二年之ヲ改メ右ノ如ク改メタルモノニシテ之ト同時ニ議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ト改メタリ如此ク歳費ヲ増給スルノ必要アリシヤ否ハ大ニ疑ナキニアラスシテ管ニ之ヲ増給スルノ不必要ナルノミナラス歳費ヲ給スルノ全然不可ナルヲ信スルモノナリ蓋シ歳費ヲ給スレハ職業政治家ノ輩出ヲ奨勵スレハナリ獨乙西班牙伊太利英吉利ニ於テ無給主義ヲ採リシハ其理ヲ得タルモノトス併シ議員トシテ其勤ヲ完フスルニハ費用ヲ要スルコト疑ナキニロ

歳費ヲ與フルノ當否

リ獨乙内邦國ノ例ニ於ケル如ク少額ノ日當ヲ其實費ノ辨償トシテ給與スヘキナリ之ニ就テゲマイヤ氏カ議員ハ議員トシテ其職ヲ奉スル爲ニ積極的消極的ニ幾分ノ費用ヲ要スルヲ免レス(其積極的ノ費用ノ例ハ旅費及會期中ノ滞在費ニシテ消極的ノ費用ノ例ハ議場ニ出席スル爲ニ自己ノ本業ヲ妨ケラルハノ損害等ナリ)而シテ其費用ヲ盡ク議員ノ負擔ト爲ストキハ議員ノ職富者ノ專有ニ歸スルノ弊ヲ生ス故ニ議員ニ幾分ノ給與ヲ爲スハ至當ナリト雖其給與多額ニ過クルトキハ其給與ヲ得ルヲ目的トスルノ候補者ヲ輩出セシムルノ恐ナキニアラスト論シタルハ當ヲ得タルモノニシテ其日當ノ給與額ハ眞ニ實費辨償ヲ目的トスヘシ其結果給與ヲ爲スニ就テハ左ノ條件ヲ附加スヘキモノナリ

- 一 議事堂所在地ノ選出議員ノ日當ハ比較的少額ナラサルヘカラス
- 二 欠席者ニハ日當ヲ給與スヘカラス
- 三 皇族華族官吏ノ議員ニハ旅費ヲ給スルモ日當ヲ與フヘカラス

尙參考ノ爲他國ニ於ケル國會議員ノ手當ヲ記載スレハ

上院 下院

第一 歳費主義

佛	九〇〇〇フラン	同上
白	四〇〇〇フラン	同上
米	五〇〇〇弗	同上
葡	年八〇〇 <sub>グルタン</sub>	同上
和	日給五 <sub>グルタン</sub>	同上
瑞典	日給十 <sub>グルタン</sub>	二〇〇〇 <sub>グルタン</sub>
		一 <sub>二〇〇</sub> <sub>グルタン</sub>
		臨時會日當十 <sub>グルタン</sub>

第二 口給主義

埃	無	一〇 <sub>グルタン</sub>
丁	六 <sub>クロネー</sub>	六 <sub>クロネー</sub>
那	一 <sub>二</sub> <sub>クロネー</sub>	一 <sub>二</sub> <sub>クロネー</sub>
瑞西	無	二〇 <sub>フラン</sub>
ルクセンブルグ	無	五 <sub>フラン</sub>
普	無	一五 <sub>フラン</sub>

巴威里	無	一〇 <sub>フラン</sub>
瓦天堡	九 <sub>フラン</sub> 四三	同上
索遜	一 <sub>二</sub> <sub>フラン</sub>	同上
巴丁	一 <sub>二</sub> <sub>フラン</sub>	同上
ヘッセン	九 <sub>フラン</sub>	同上
	首府ニアルモノ	以外ノモノ
ザクゼン、ワイマル	五 <sub>フラン</sub>	一〇 <sub>フラン</sub>
ヲルデンブルヒ	三 <sub>マ</sub> <sub>フラン</sub> 七五	七 <sub>マ</sub> <sub>フラン</sub> 五〇
ブラウンシワイヒ	五 <sub>フラン</sub>	一〇 <sub>フラン</sub>
ザクゼン、マイニンゲン	四 <sub>マ</sub> <sub>フラン</sub> 五〇	九 <sub>フラン</sub>
ザクゼン、コーブルヒ、ゴーター	六 <sub>フラン</sub>	一〇 <sub>フラン</sub>
シワルツブルヒ、ゾンダースハウゼン	六 <sub>フラン</sub>	一 <sub>二</sub> <sub>フラン</sub>
シワルツブルヒ、ルードルススタット	九 <sub>フラン</sub>	九 <sub>フラン</sub>
ロイス舊統	六 <sub>フラン</sub>	七 <sub>マ</sub> <sub>フラン</sub> 五〇

ロイス新統

六〇

一〇

シヤウムブルグ、リツペー

六〇

六〇

リツペー

九〇

九〇

第三 無給主義

獨

召集ニ應スルトキ及歸郷スルトキ無賃乗車ヲ許ス

西

伊

召集ニ應スルトキ及歸郷スルトキ國有鐵道ノ無賃乗車及保護金ヲ受ル會社ノ無賃乗船ヲ許ス

英

歳費ハ議員タルノ地位ニ應スル生活費ノ一部トシテ之ヲ給スルモノナルニヨリ其性質官吏ノ俸給ト異ルコトナシ故ニ性質上辭スルヲ許スヘキモノニアラスト雖我議院法第十九條ニハ之ヲ辭スルコトヲ特ニ許セリ

第三款 議員ノ義務

召集ニ應  
セサルト  
キノ制裁

第一 召集ニ應スルノ義務ヲ有ス若シ應セサルトキハ歳費ラツクルヲ得サルノミナラス時トシテ除名ノ原因トナルナリ

第二 議員ハ自ら出席ス可ク代人ヲ使用スルコトヲ得ス

第三 議員ハ議場ニ出席スル義務ヲ有シ若止ムヲ得サル事項アリテ欠席スルトキハ届書ヲ出スヘキモノトス

猶連日引繼キ欠席セントスルトキハ請暇ノ許可ヲ受ケサル可ラス其許可ハ一週間以内ノモノハ議長之ヲ與フレトモ一週間以上ノモノハ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ與ヘサルヘカラサルナリ

第四 議員ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラス

階級議會ノ時代ニ於テハ議員ハ各階級ノ代表者ナリ隨テ其指示訓令ヲ奉シテ發言スヘキモノナリト雖立憲國ノ議會ハ前ニモ述ヘタル如ク國民ノ代表機關ニアラスシテ統治者ノ機關ナリ故ニ其議會ノ議員カ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルハ當然ノコトニテ敢テ明文ヲ俟タサルナリ普憲八二  
索遜憲八一(巴威里憲七章二五)瓦天堡憲一五五(巴丁憲四八)ヘツセン(憲八八其

他獨逸諸國ノ憲法ニ皆此規定ヲ設クト雖之ハ階級議會ノ時代ト異リ議員ハ國家ノ利益ヲ目的トシテ自由ニ其意思ヲ發表スヘキモノニテ自己ヲ選舉シタルモノ、利益ノ爲ニ發言表決ヲ約束セラル、モノニアラサルコトヲ特ニ示スカ爲ナリ我國ニテハ府縣制(四六條)郡制(三四條)市制(三六條)町村制(三八條)ニ之ニ關スル規定ヲ設クルニ拘ハラズ帝國議會ノ議員ニ就テハ此ノ如キ規定ヲ有セスト雖此義務ハ議員ニ當然存スルモノナルノミナラス憲法第五十三條ニハ「議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ」ト規定シ以テ選舉人ニ對シ發言上ノ責任ナキコトヲ示シタリ

第五 議員ハ院内整理ノ權ニ服從スル義務ヲ有ス(議院法第九四條乃至第九九條參照)

第六 議員ハ其ノ地位ヲ利用シテ不正ナル行爲ヲ爲ス可カラサルノ義務ヲ有ス(明治三四年法律三七號瀆職法參照)

### 第四款 議員ノ資格消滅

#### 第一 任期滿了

併シ開會中ニ滿了スルトキハ會期ノ終迄在任スルナリ此規定ハ衆議院ノミニ存シ貴族院ニ就テハ同一ノ規定ヲ欠クト雖貴族院ニモ同一ノ原則行ハル、モノト解セサルヘカラサルナリ

#### 第二 死亡

#### 第三 解散

之ハ衆議院議員ニ對シテノミ生スルナリ

#### 第四 辭職

議院法第八十三條ニ於テ衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得トアリト雖貴族院議員ノ辭職ニ就テハ何等ノ明文ナキニヨリ貴族院議員カ辭職ヲ爲シ得ルヤ否ハ一ノ疑問ニ屬スルモノナリ普國ニテモ一八五四年十月十二日ノ勅令ニハ議員タル地位ノ消滅原因ヲ列舉スルニ拘ハラズ其中ニ辭職ノコトヲ規定セサルニヨリ上院ノ勅選議員ハ辭職シ得ルヤ否ニツキ解釋一定セサルナリ今其主ナル說ヲ參照ノ爲茲ニ舉クレハ

貴族院議員ハ辭職スルコトヲ得ルヤ



一 不能説 ゲ、マイヤ氏ハ辭職ノ絶對ニ不能ナルコトヲ主張スルモノニシテ其理由トスル處ハ(1)勅令ニ消滅原因ヲ列舉スルニ拘ハラス其中ニ辭任ナシ(2)此ノ爲ニ一定ノ職務ヲ帶フルモノナルニヨリ許サレサル以上ハ辭任ノ自由ナシト云フニアリ

二 自由説 之ハホルンハツク氏ノ唱フル處ニシテ其根據ハ普國ニテハ原則トシテ公職ヲ勤ムルコトヲ強制セス只之ヲ強制セントスル場合ニハ特ニ明文ヲ以テ之ヲ規定ス然ルニ貴族院議員ニ就テハ特ニ強制的ノ明文ナキニヨリ其辭任ハ全ク自由ナリト云フニアリ

三 勅許説 之ハリヨンネ氏ノ説ニシテ其大意ハ理論上貴族院ノ獨立ノ爲ニハ議員ノ辭職ヲ許スヘキモノニアラス併シ一八五三年ノ五月一日ノ法律第一條ニヨリ貴族院ノ組織ニツキ君主ニ委任シタルモノト認メラル、ニヨリ勅選議員ハマタ勅許ヲ得テ辭職シ得ルモノト解釋セサルヘカラスト云フニアリ

今翻テ我貴族院議員カ辭職ヲ爲シ得ルヤ否ヲ考フルニ

一 皇族 公侯爵議員此議員ハ其身分ノ當然ノ結果トシテ議員タルモノナルニヨリ辭職シ得ルモノニアラサルナリ

二 伯子男爵議員 此ハ同爵者間ノ選舉ノ結果トシテ議員トナルコト衆議院議員ト同シキニヨリ議院法第八十三條ノ如キ規定カ此議員ニツキ存セサルモ之レ同様ニ其辭職ハ貴族院ノ許可ヲ要スルモノト解釋スルヲ法ノ精神ヲ得タルモノト信スルナリ

三 勅選議員 此ハ勅命ニヨリ議員ノ地位ニ立ツコト任命ニヨリテ官史ノ地位ヲ得ルト其關係相似タリ而シテ勅選議員ニ任セラレタルモノハ辭スルヲ得ス又辭スルトキハ制裁伴フノ規定ナキニヨリ絶對ニ辭シ得サルモノニアラスマタ勅命ニヨリ公職ヲ帶フルモノナルニヨリ勅許ヲ得テ初メテ其地位ヲ離ル、コトヲ得ト解スルヲ至當ト考フルナリ

### 第五 除名

正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニヨリ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席セサルニヨリ或ハ賜暇

除名ノ原

除名ノ議決

除名ノ效果

ノ期限過タルニヨリ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其招狀ヲ受タル後一週間内ニ  
猶理由ナクシテ出席セサル議員ニ對シテハ衆議院ニ於テハ院議ニテ之ヲ除  
名シ貴族院ニテハ其出席ヲ停止シ上奏シテ除名ノ勅裁ヲ乞フ事ヲ得ルナリ  
又議院ハ懲罰ノ爲議員ヲ除名シ得ルナリ併シ衆議院ニテハ出席議員三分ノ  
二以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ懲罰ノ除名ヲ議決スル能ハス又貴族院ニ  
テハ除名ノ決議ニ對シ勅裁ヲ經サル可ラサルナリ又貴族院議員ニシテ禁錮  
以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受タルモノアルトキハ勅命ヲ以テ  
之ヲ除名シ得ルナリ凡テ除名セラレタル貴族院議員ハ更ニ勅許アルニアラ  
サレハ再ヒ議員トナルヲ得スト雖衆議院ハ除名セラレタル議員ノ更ニ再選  
セラル、事ヲ拒ムヲ得サルナリ蓋シ衆議院議員ニ就テハ選舉人ノ意思ヲ重  
ンスレハナリ

第六 資格要件ノ喪失

衆議院議員ニ付テハ議院法第七十七條ニ「衆議院議員ニシテ選舉法ニ記載シ  
タル被選資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス」ト規定セラレ資格要件ヲ喪失シ

禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルモ其ハ當然其資格ヲ失フヤ

タルトキハ其ノ議員ノ職ヲ失フコト明カナリ然ルニ此明文ニ關シ一ツノ疑  
問ヲ生ス即チ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケテ裁判確定スルニ到ル迄ノモノハ  
此ノ明文ニヨリテ失職者タル可キヤ否ヤノ點ナリ大審院ノ判決ニ於テ又衆  
議院ノ當局官吏ノ説ニ於テモ如斯場合ハ第七十七條ノ適用ヲ受クルモノニ  
アラストナセリ其理由ハ被選資格トハ選舉セララル、トキノ資格ニシテ議員  
タルノ資格ニアラサルカ故ニ一ト度ヒ選舉セラレテ議員トナル以上ハ禁錮  
以上ノ刑ノ宣告アルモ其ノ確定ニ到ル迄ハ議員ノ職ヲ失フモノニアラスト  
云フニアリ併シ如斯解スルトキハ議院法第七十七條ノ適用ノ場合ヲ見サル  
カ故ニ右ノ如ク解釋スルモノハ更ニ進ミテ議員タルノ被選資格ノ中積極的  
ノ被選資格ト消極的ノ被選資格トヲ區別シ積極的ノ被選資格トハ即チ議員  
タル資格中年齡滿三十歲以上ナルコト及日本臣民タルコト竝ニ男子タルコ  
ト等ヲ指スモノニシテ若シ是等ノモノニ變更ヲ及ホストキハ第七十七條ノ  
適用ヲ受クルモノナリト論セリ然カシ積極的タルト消極的タルトヲ問ハス  
被選資格タル事ハ一ニシテ被選資格ハ即チ議員ト爲ル資格ナルニ依リ選舉

法第十條及第十一條ノ區別ナクコレ等ノ被選資格ヲ失ヒタルトキハ凡テ議院法第七十七條ノ適用ヲ受ク可キモノナリト云フヘキナリ

第七 貴族院議員ニ任セラレタルトキ

衆議院議員ニシテ貴族院議員ニ任セラル、トキハ其職ヲ退ク可キモノナルコト議院法第七十六條ニ規定セリ蓋シ憲法三十六條ニヨリ何人モ同時ニ兩院ノ議員タルヲ得サレハナリ

第六節 議長及副議長

議院ノ組織上議長副議長ハ必ス欠クヘカラサルモノナリ依テ今茲ニ其概略ヲ説明センニ

第一 選任

貴族院ノ議長副議長ハ直チニ勅任セラル、モノニテ衆議院ノ議長副議長ハ議院ニテ三名ノ候補者ヲ選ヒ其ノ中ヨリ勅任セラル、モノナリ  
參照ノ爲他國ノ議長副議長選任ノ立法例ヲ舉クレハ

議長副議長選任

上院

下院

英 當然大法官議長タリ

議院ノ選舉シタルモノニツキ勅任セラル、ナリ

北米合衆國 副大統領當然議長タリ

議院ノ選舉

埃 勅任

同

伊 同

同

西 同

同

葡 同

五名ノ候補者ヲ議院ニテ選舉シ其中ニテ勅任セラル、ナリ

和 同

三名ノ候補者ヲ議院ニテ選舉シ其中ニテ勅任セラル、モノナリ

瑞典 同

勅任

佛 議院ノ選舉

議院ノ選舉

白 同

同

任期

普 議院ノ選舉  
同 議院ノ選舉

第二 任期

貴族院ノ議長副議長ノ任期ハ七年ニシテ衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニヨルモノナリ

併シ之ニ例外トシテ議院法第十五條ニハ各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、迄ハ仍ホ其職務ヲ繼續スヘシトノ規定アリ然ルニ同第三條ニハ議長副議長勅任セラル、迄ハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシトアルカ故ニ第三條ハ如何ナル場合ニ適用セラル、ヤノ疑生セリ或ハ議長副議長ノ職務辭職(任期滿了ノ場合ヲ含ム)ノ場合ニノミ適用サル、モノナリト論スル人アリト雖此兩條ヲ調和スル爲ニハ左ノ如クニ解釋スルヲ尤當ヲ得タリト信スルナリ

一 解散後ノ衆議院ニテ議長副議長ヲ選舉スルニハ第三條ヲ適用スヘキモノナリ

議院法第三條適用  
第十五條適用  
別合適用  
トノノノ  
區場條

二 任期滿了前ノ議會閉會シテ任期滿了後ノ議會開クル前ニ議長副議長其地位ヲ失フタルカ(死亡ノ場合モ含ム)又ハ前議會ノ議長副議長當選セザリシトキ第三條ヲ適用スヘシ

三 任期滿了後ノ議會ノ始メ議長副議長ノ不在ナルトキモ第三條ヲ適用スヘキナリ

四 任期滿了後ノ議會ニテ前議長副議長議員ニ當選シテアリタルトキハ第十五條ノ規定ニヨルヘキモノナリ

第三 議長副議長ノ數

議長ハ何レノ國ニテモ二名ナリト雖モ副議長ハ左ニ參照ノ爲記スル如ク二名若シクハ四名ノ例ナキニアラサルナリ然シ我國ニテハ凡テ議長副議長共各々一名ト爲サレタリ

參照 四名 伊、西ノ下院佛ノ兩院

二名 伊ノ上院 奧ノ下院 普、匈、丁ノ兩院 獨逸ノ議會

一名 白、葡、瑞西ノ兩院 奧ノ上院

議長ノ職務

憲法篇 第四編 憲法上ノ機關 第四章 帝國議會 第六節 議長及副議長  
第四 議長ノ職務

憲法篇 第四編 憲法上ノ機關 第四章 帝國議會 第六節 議長及副議長

四五二

一 議院ヲ代表スルコト 議長ハ議院ヲ代表スルモノニシテ其代表權ノ結果ハ

(イ) 各議院上奏セントスルトキハ奉呈スルニ議長ノ名ヲ以テシ參内ノ謁見ヲ請フニモ議長ヲ以テ總代トス

(ロ) 建議書ヲ政府ニ對シ差出スニモ議長ヨリ之ヲナスモノナリ

(ハ) 議案ヲ他院ニ移ストキハ議長之ヲ他院ノ議長ニ送達ス

(ニ) 議院ニ對スル侮辱罪アルル之カ告訴ノ任ニ當ルモノ各院ノ議長トス

(ホ) 衆議院議長ハ内務大臣ニ補缺選舉ヲ求ムルノ權アリ

二 議場ノ秩序ヲ維持スルコト 其結果

(イ) 各議院開會中内部警察權ハ議長之ヲ施行ス隨テ各議院ニ派出スル警察官吏ハ議長ノ指揮ヲ受ケ若シ議院内部ニテ重罪輕罪ノ現行犯人ヲ生シタルトキハ議長ハ守衛又ハ警察官吏ニ逮捕ノ命令ヲ下ス

(ロ) 會議中議員ニシテ議場ノ秩序ヲ紊ストキハ議長ハ警戒制止發言ノ取

消退去等ノ處分ヲ行フヲ得

(ハ) 議場騷擾シテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止スルコトヲ得

(ニ) 傍聽人議場ノ妨害ヲナスモノアルトキハ議長ハ此者或ハ總テヲ退場セシメ得

(ホ) 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ何人モ總テ沈黙スヘシ

(ヘ) 凡テ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス

(ト) 議員ノ缺席ハ議長ニ届出ツヘク請假ニシテ一週間ヲ超ヘサルモノハ議長之ヲ許可ス

三 議事ヲ整理スルコト

(イ) 議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決スルモ可否同數ノトキハ議長之ヲ決ス故ニ議長ハ議員トシテ表決權ヲ有セサルナリ(反對論アリ)

(ロ) 議長ハ議事日程ヲ定メ議院ニ報告ス

(ハ) 議長ハ秘密會ヲ開ク事ヲ得

- (ニ) 議長ハ各全院委員會ノ開會ヲ請求シ得又其終了ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載ス
- (ホ) 議長ハ特ニ秘密ト認ルモノ、外委員會ノ報告書ヲ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付ス
- (ヘ) 議長ハ特別委員選定ニ際シ指名ヲナスコトヲ得
- (ト) 議長ハ議員カ出シタル法律案上奏案建議案ヲ發議スルトキハ之ヲ印刷シテ議員ニ配付ス
- (チ) 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數案ヲ連ネ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得
- (リ) 凡テ發言セントスルモノハ議長ノ許可ヲ得サルヘカラス
- (ヌ) 國務大臣政府委員ト雖其許可ヲ受クルヲ要ス(ボルンハック氏反對)又同時ニ發言ノ請求者アルトキハ議長之ヲ指定シ得
- (ヌ) 議長ハ何時ニテモ議席ニテ發言スル議員ヲシテ演壇ニ登ラシムルコトヲ得

我議院事務局ハ官吏ヲ以テ組織ス

- (ル) 議長ハ討論ノ終結ヲ宣告ス
  - (ヲ) 議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス
  - (ワ) 議長必要ト認ルトキハ起立ノ方法ニヨラス記名無記名ヲ以テ表決ヲナサシメ表決ニ付投票終リタルトキハ議長其結果ヲ宣告ス
- 第五 副議長ノ職務**  
議長故障アルトキ其職務ヲ代理スルニアリ
- 第六 假議長**  
議長副議長故障アルトキハ假議長ヲ選定スルモノトス

### 第七節 議院事務局

議院事務局トハ議院ニ關スル行政事務ヲ處理スル處ニシテ之ヲ組織スルモノ  
書記官長及書記官ナリ

**第一 各院書記官長ハ勅任官ニシテ議長ノ指揮ニヨリ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名スルモノナリ**

第二 各院書記官ハ奏任官ニシテ議事錄及其他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理スルモノナリ

此ノ如ク我國ニテハ議院事務局ヲ組織スルモノ總ヘテ官吏ナリト雖トモ他國ノ例ハ必スシモ然ラスシテ議院ノ選舉ニ係ルモノ寧シロ多キヲ占ムルモノナリ

一 勅任ノ例 英國ノ書記官長ハ終身ニシテ君主ノ任命ニ係ルモノナリ併シ書記官次長及書記官ハ上院ニアリテハ議長之ヲ命シ下院ニアリテハ議長ノ推薦ニテ皇帝之ヲ任命スルモノナリ

二 内閣總理大臣ノ任命 瑞西ニアリテハ内閣總理大臣書記官ヲ任命スルモノナレトモ此書記官ハ紀錄ヲ掌ルニ過キスシテ他國ノ書記官ノ職ヲ行フ所謂検査官ハ議院ノ選舉ニ係ルモノナリ

三 議院ノ選舉

甲 互選 獨、埃、普、佛、白、和、伊諸國其例ナリ

乙 議員外ノモノヨリ選舉スル制 北米、瑞典、那威其例ナリ

第八節 議會ノ召集

第一款 召集權

議會ヲ召集ストハ其實議會ヲ組織スル議員ヲ召集スルコトナリ而シテ議會ヲ召集スルハ君主ノ大權ニ屬スルモノニテ君主ノ召集ノ詔勅アルニアラサレハ議員ハ議會ノ分子トシテ集會スルヲ得サルモノナリ他國ニテハ一定ノ期日ニ召集令ヲ埃タスシテ集會スルノ例アリト雖モ我國ニテハ如斯例ヲ認メス故ニ帝國議會ノ議員カ召集ナクシテ集會シタルトキハ普通ノ集會ト等シク治安警察法ノ取締ヲ受ク可キナリ  
召集ナクシテ集會自ラ集會スルコトヲ認ムル立法例

佛國 佛國ニテハ通常會ハ別ニ召集ヲ要セス毎年一月第二火曜日ヲ以テ當然開會スルモノナリ又臨時會ハ大統領ノ召集ニ係ルモノニテ大統領ノ任期滿ツル前少クトモ一ヶ月内ニ議會ヲ召集スヘキモノナルモ其召集ヲ大統領ニ於テ爲サ、ルトキハ任期滿了ノ十四日前ニ議會自ラ集會スヘク又

我國ニテハ召集ナクシテ集會スルコトヲ得ス

大統領薨去又ハ辭職シタルトキハ議會直ニ自ラ集會スヘク又議會ノ閉會中大統領カ戒嚴ヲ宣告シタルトキハ議會ハ二日ヲ隔テ、自ラ集會スヘキモノナリ

英 皇帝崩スルトキハ議會直ニ集會スヘキモノナリ

普 憲法草案ニハ毎年十一月三十日及國王崩御後十日以内ニ於テハ議會ハ自ラ集會シ得ルノ規定アリシモ之ヲ削除シタルニヨリ通常會ハ必ス國王ノ召集ヲ要スルモノナリ併シ成年以上ノ男系ノ王族ナク且豫メ此場合ニ處スル已定ノ法規ナキトキハ内閣ヨリ議會ヲ召集シテ攝政ヲ選定セシムルモノナリ

白 議會ハ毎年十一月第二火曜日ヲ以テ當然集會シ又王位空缺ノ場合ニハ議會自ラ集會シテ假ニ攝政ヲ選任スルモノナリ

和 毎年九月第三月曜日ニ議會自ラ集會ス

瑞典 毎年一月十五日ニ議會自ラ集會ス若シ其日祭日ナルトキハ其翌日集會スルモノトス

丁 毎年十月第一月曜日議會自ラ集會ス

那威 毎年二月一日(一日休日ナルトキハ其翌日)議會自ラ集會ス

瑞西 毎年十二月第一月曜日議會自ラ集會ス

北米合衆國 毎年十二月第一月曜日議會自ラ集會ス

索遜ワイマル、オルデンブルヒ 議會解散後法定ノ期間内ニ召集セラレサルトキハ自ラ集會スルコトヲ得

索遜、コーブルヒ、ゴーター、オルデンブルヒ君主繼承ノトキハ議會自カラ集會ス

ブラウンシワイヒニテハ議會ノ召集權ヲ廣ク認メタリ

## 第二款 召集ノ時期

### 第一 通常會ノ召集

英國ニ於テ初メ毎年一回召集スヘキコト、ナリシモ後國王之ヲ履行セサル爲チャルス一世ノトキ毎三年開會ト改メ以テ之ヲ勵行スルコト、ナセシカ



帝國議會  
ハ毎年之  
ヲ召集ス

我慣例上  
議會召集  
ノ時期

後マタ毎年一回ニ復舊シタリ而シテ此毎年一回召集ノ制ハ多數ノ國ニ於テ採用セラレ我國ニテモ憲法第四十一條ニ於テ帝國議會ハ毎年之ヲ召集スト定メラレタリ而ルニ後ニモ述フル如ク豫算ハ毎年之ヲ編制スヘキモノナルニヨリ此毎年定期ニ召集スル處ノ通常會ハ殆ント豫算ヲ議定スル爲ニ召集サルハノ觀ヲ爲スナリ

通常會ノ召集ノ時期ニ就テハ伊太利ニテハ十一月中旬以後マタ普國ニテハ十一月初ヨリ一月中旬迄ブラウンシワイヒニテハ一月ワルデツクニテハ十月シヤウムブルグ、リツペーニテハ十一月トノ特別ノ規定ヲ有スル例ナキニアラス我國ニテハ如此キ規定ナキニヨリ何時召集スルモ天皇ノ自由ナルヘシト雖從來ノ慣例上十一月ノ中旬ヨリ十二月下旬迄ノ間ニ召集スルコトトナセリ

毎年通常會ヲ開會セサルノ例ナキニアラサルニヨリ其例ヲ舉クルトキハ左ノ如シ

- 一 二年ニ一回開會スルモノ 巴威里、索遜、巴丁、ブラウンシワイヒ、ゾンダー

スハウゼン、リツペー

- 二 三年ニ一回開會スルモノ 瓦天堡、ヘツセン

- 三 四年ニ二回開會スルモノ ザクゼン、コーブルヒ、ゴーター

### 第二 臨時會ノ召集

臨時會ハ臨時緊要ノ必要ニ應シテ召集スルモノナルカ故ニ臨時會ヲ召集スルト否トハ全ク自由ナルモノニテ其ノ召集ノ時期ニ付テハ少シモ制限ナキモノナリ

### 第三 解散後ノ議會ノ召集

我憲法第四十五條ニハ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ解散ノ日ヨリ五ヶ月以内ニ召集セサル可カラサル事ヲ定メラレタリ(後掲衆議院ノ解散ヲ論ス參照)

## 第三款 召集令ノ發布ノ形式

召集ハ各議員ニ對シ集會ヲ命スルノ行爲ナリ故ニ其性質上法規ニアラスシテ一ノ處分命令ナリ併シ我國從來ノ實例ニヨレハ議員各自ニ召集狀ヲ發スルコ

召集ノ詔  
勅ハ官報  
ヲ以テ之  
ヲ公布ス

トナク召集ノ詔勅ヲ總國務大臣ノ副署ヲ以テ官報ニ公布スルコトナセリ而シテ此召集ノ詔勅ハ議院法第一條ニヨリ議院集會ノ日ヨリ少クトモ四十日前ニ發布セサル可カラサルモノナリ此議院法第一條ニハ單ニ議會召集ノコトヲ規定シ通常會タルト臨時會タルトヲ區別セサルカ故ニ明文上凡テノ召集ニ此四十日ノ豫定期間ハ適用セラルヘキモノナリト雖緊急ノ場合ニ尙ホ此四十日ノ豫定期間ヲ必ラス守ラサルヘカラサルハ法ノ精神ニアラスト信スルナリ故ニ第七臨時帝國議會召集ノ明治三十七年九月二十二日ノ詔勅ニハ「立法ノ要務早ヲ趁ヒ議會ノ協贊ヲ望ムモノアリ乃チ期ニ先チ帝國議會ヲ召集スルノ必要ヲ認メ茲ニ十月十五日ヲ以テ臨時議會ヲ廣島ニ召集シ云々」トアリテ勅諭發布ノ日ト集會ノ日ト相隔ルコト僅ニ二十三日マタ第二十臨時帝國議會召集ノ明治三十七年三月二日ノ詔勅ニハ「軍國ノ急務ニ關シ議會ノ協贊ヲ望ムモノアリ茲ニ期ニ先チ三月十八日ヲ以テ臨時帝國議會ヲ東京ニ召集シ云々」トアリテ勅諭發布ノ日ト集會ノ日ト相隔ルコト僅ニ十六日ノ例アリタルモ敢テ不法ト稱スヘキモノニアラサルナリ

#### 第四款 召集ノ場所

我カ明文ニ於テ議員ヲ召集スル場所ヲ定メサルニヨリ召集ノ詔勅ニハ議員ノ召集ニ應スヘキ場所ヲ必ス特ニ指定ス可キモノナリ而シテ從來ハ議事堂ノ所在地即チ東京ニ召集スルヲ例トナセ共廣島ニ召集シタルカ如キ異例ナキニアラサルナリ(佛國那威ノ如キ召集ノ場處憲法ニテ定マルノ例ナキニアラス)

#### 第九節 開會

##### 第一款 開會ノ意義

開會トハ議會ノ成立スル時ヲ謂フニテ議會ノ行動ハ開會ニ因リテ始マルモノナリ而シテ開會ト區別スヘキハ貴衆兩院ノ成立ニシテ兩議院ハ各議員詔勅ニ指定シタル期日ニ於テ上院或ハ下院ニ參集シ議長副議長ノ候補者三名ヲ選舉シテ勅任ヲ請ヒ議員ハ抽籤ノ方法ニ依リテ總テノ議員ヲ數部ニ分割シ各部々長ヲ部員中ヨリ選舉シ議長副議長ノ勅任アリテ議員ノ處部定マリ其職務ヲ行

議會ハ開  
會ニテ成  
立ス

フニ適シタルトキニ於テ成立スルモノナリ然リ而シテ議會ノ開會ハ議院ノ成立ヲ待テ爲サル、モノナルカ故ニ議院ノ成立ハ議會開會ノ豫備ヲ爲スモノト云フヘシ

### 第二款 開會式

兩院成立ノ後勅命ヲ以テ議會開會ノ日ヲ定メ兩院ノ議員ヲ貴族院ニ集メ以テ開院ノ式ヲ行フモノナリ而シテ此場合ニ於テハ兩院ノ議員總テ集會スルモノナルカ故ニ貴族院議長ニ於テ議長ノ職務ヲ行フモノトス

### 第三款 開會ノ效果

開會ヲ以テ會期初マル故ニ會期中議員ノ享有スル特權ノ如キハ開會ノ時ヨリ發生スルモノナリ又停會ヲ除クノ外會期始マリタルトキハ議會ハ其權限ニ屬スル義務ヲ行フノ義務アリ

然ルニ會期ハ議院ノ作用ヲ爲スヘキ期間ニシテ召集當日ヨリ起算スヘク開院

式ヲ行フ日ヨリ會期ヲ起算スルハ不當ナリト論スルモノアリ其理由トシテハ我衆議院ハ開院式ヲ行フ前ニ議長副議長ノ候補者ヲ選舉シ又兩院共ニ部別ヲ爲シ部長ヲ選舉ス之等ハ疑モナク開期中ノ作用ナラサルヘカラサルノミナラス開會ヨリ會期ヲ起算スルトキハ議長副議長ノ選舉ヲ爲スニ當リテモ其院ノ許諾ナクシテ議員ヲ逮捕シ得ルノ不當ナル結果ヲ生スト云フニアリ併シ議會ノ會期ハ議會カ議會トシテ行動ヲ爲シ得ルトキナラサルヲ得サルニヨリ議會成立ノ豫備行爲タル議長副議長ノ選舉部長ノ選舉議員ノ部別ノ如キハ會期ニ入ル前ノ行爲タルヤ勿論ナリ又一步進ミテ此等ノ行爲カ會期中ノ行爲ナラサルヲ得ストスルモ其時ハ只此等ノ行爲ヲ開院式ヲ行ヒタル後ニ爲サ、ルヘカラサル結果ヲ生スルニ止リ其爲ニ會期ヲ召集當日ヨリ起算セサルヘカラサル理由トナラサルナリ

### 第四款 開會ノ期日

召集後何日ヲ距テ、開會ヲ行フヘキヤニ付テハ明文ナキヲ以テ一ノ疑問ニ屬

召集後何  
日以內ニ  
開會スヘ  
キモノナ  
ルヤ

ス而シテ從來ノ慣例ニ依レハ概ネ議員ヲ召集シタル期日ヲ去ル二日若クハ三日ニシテ開院式ヲ行フト雖モ第十三議會ノ如キ殆ント一ヶ月ヲ距テ、開院式ヲ行ヒタル例ナキニアラス或ハ此點ニ關シテ召集ヲ行フトキハ直チニ開會スヘキモノナリト論スル者アリト雖トモ此說ハ臨時會ニ付テノミ採用スヘキモノニシテ通常會ノ如キ臨時ノ必要ニ應シテ召集セサル議會ニ對シテハ此說ノ如ク必シモ召集後直チニ開會スヘキモノト論定スルコトヲ得ス或ハ又開會ノ時期ニ付テハ定メラル、所ナキヲ以テ翌年ノ議會召集前ニ閉會シ得ル期間ヲ見積リテ開會スレハ足ルトノ說ヲ爲ス者アリト雖モ是亦不可ナリ蓋シ通常會ハ主トシテ翌年ノ通常豫算ヲ議スルカ爲ニ召集スルモノニシテ其豫算ハ翌年ノ會計年度ノ開始前ニ於テ成立スルコトヲ必要トナセハナリ然ラハ此問題ニ對シテハ如何ニ解答ヲ下スヘキヤ曰ク臨時會ハ召集後直チニ開會スヘク通常會ハ翌年ノ會計年度ノ開始スル以前ニ於テ通常豫算ヲ議定シ得ルノ時間ヲ見積リ以テ之ヲ開會スヘキモノナリト

尙ホ此問題ニ關聯シテ一言スヘキハ憲法第四十一條及ヒ第四十五條ノ規定ナ

リ同條ニ於テハ單ニ召集スト規定シテ開會ストナキカ故ニ毎年一回若クハ解散後五ヶ月以内ニ召集スレハ足り必シモ開會スルヲ要セスト説明スル者アリト雖モ是レ誤ニテ其召集中ニハ開會ヲモ含ムモノト解スヘシ何トナレハ同條ノ目的トスル所ハ單ニ議員ヲ集ムルニ在ラス之ヲ集會セシメテ開會スルヲ目的トナセハナリ

## 第十節 閉會

### 第一款 閉會ノ意義

閉會トハ會期ノ終了ニ因リテ議會ノ成立ヲ失ハシムルヲ謂フ其ノ議會ノ成立ヲ消滅セシムル點ニ於テハ解散ト異ナラスト雖モ後者ハ會期ノ終了ヲ待タサルノ點ニ於テハ前者ト區別セラル、モノトス

### 第二款 閉會式

閉會式ハ勅命ニ因リ兩院議員會合ノ上之ヲ行フモノトス開會ニ付テハ貴族院

ニ於テ行フヘキ明文アリト雖モ閉會ニ付テハ之ヲキテ以テ衆議院ニ於テ之ヲ行フモ決シテ違法ニアラサルナリ

### 第三款 閉會ノ效果

前陳ノ如ク閉會ハ議會ノ成立ヲ消滅セシムルモノナルカ故ニ閉會後ハ議會ノ行動其終局ヲ告ケ管ニ本會議ヲ開クヘカラサルノミナラス委員會モ亦之ヲ開クコトヲ得ス蓋シ委員ナルモノハ閉會ト同時ニ盡ク其職ヲ解カル、モノナレハナリ又會期不繼續ノ原則ニ依リテ未タ一院ノ議決ヲ經ス又ハ一院ノ議決ヲ經ルモ兩院ノ議決ヲ經サル一切ノ議案及ヒ建議竝ニ請願ハ後ノ議會ニ繼續スルコトナク閉會ト同時ニ悉ク消滅スルモノトス故ニ同一ノ議案ヲ次ノ議會ニ於テ再ヒ議セント欲スルトキハ更ニ其發案ヲ待タサルヘカラストツオルン、リヨンジ兩氏ノ如ク此不繼續ノ原則ヲ否認スル者ナキニアラスト雖モ會期ノ終了ト同時ニ未タ議了セサル議案ノ悉ク消滅スルコトハ管ニゲマイヤ氏ノ所謂習慣ノ認ル處ナルノミナラス議會ノ成立ノ消滅スルヨリ生スル當然ノ結果ニ

不繼續ノ原則

會期終了シテ而カモ閉會ノ命ナキトキハ會期ノ延長ナ

シテ明文ヲ待タサル所トス然ルニ我議院法第三十一條ハ更ニ明文ヲ設ケテ其疑ノ生スルコトヲ防止セリ而シテ此效果ニ例外ヲ成スモノハ議院法第二十五條ノ場合ニシテ同條ハ議案審査ノ爲メニ特ニ閉會後繼續委員ヲ設ケテ調査セシムルコトヲ得トナセリ

### 第四款 閉會ト會期トノ關係

閉會ハ會期ノ終了ニ因リテ其成立消滅スルモノナルカ故ニ會期終了後其翌日閉會ノ式ヲ舉クルヲ至當トナスト雖モ時トシテハ閉會ノ式ヲ行フコトヲ延期スル場合ナキニアラス此場合ニ於テ會期延長セラレタルモノト認ムヘキヤ或ハ會期終了ト同時ニ議會ハ當然閉會シタルモノトスヘキヤハ一ノ疑問ニ屬ス此場合ニハ當然閉會セラレタルモノナリト認ムル者ハ曰ク會期ノ延長ハ憲法第四十二條ニ依リ勅命ヲ待タサルヘカラスト然ルニ此勅命ナキヲ以テ之ヲ閉會ト認メサルヘカラスト然レトモ議院法第三十六條ニ依レハ閉會ハ必ス閉會式ヲ以テ行ハル、モノニシテ閉會ノ式ナキニ拘ハラズ閉會ノ命令アリタルモノ

ナリト解スルコトヲ得ス又他ノ一方ニ於テ會期ノ延長ハ式ノ伴フコトヲ必要トセス又會期延長ノ勅命ノ形式ニ付テモ特別ノ定メナキヲ以テ直接ニ延長ノ勅命アルトキハ勿論今例示ノ場合ノ如キハ默示的ニ延期ノ勅命アリタルモノト認メ得ラレサルニアラス故ニ余輩ハ此問題ニ關シ會期終了閉會後ノ式ナキトキハ其式アルマテ會期ノ延長ナリト論決スルヲ正當ナリト信スルナリ

### 第十一節 會期

憲法第四十二條ハ通常會ノ會期ヲ三ヶ月ト定ム或ハ同條ヲ以テ單ニ通常會ノ會期トナス之ヲ解散後ノ議會ニモ適用スヘキモノナリト解スル說アリト雖モ是レ誤レリ何トナレハ第四十一條ノ毎年一回召集スル所ノ議會ハ通常會ナルコト明カニシテ之ヲ受ケタル第四十二條ノ會期ノ通常會ナルコト明瞭ナルノミナラス通常會ノ會期ヲ三ヶ月ト定メタルハ翌年度ノ通常豫算ヲ議スルカ爲メニシテ斯ノ如キ重要ナル職務ヲ有セサル解散後ノ議會ヲ必ス三ヶ月ノ會期トナスコト憲法ノ精神ニアラサルコト勿論ナレハナリ外國ニ於テハ通常會

三ヶ月ハ  
通常會ノ  
會期ナリ

通常會ハ  
三ヶ月以  
内ニ閉會  
スルヲ得

解散後ノ  
議會ノ會

ノ會期ノ定メ方ハ概ネ最長限(巴威里ニテハ二ヶ月ヲ超フルヲ得ス)若クハ最短限(佛國ニテハ五ヶ月以上丁抹ニテハ二ヶ月以上白耳義四十日以上和蘭ニテハ二十日以上)ヲ定ムルノミニシテ確定シタル期日ヲ定ムルモノ殆ントナシト雖我國ニ於テハ葡萄牙ノ例ニヨリ三ヶ月ト明定シタルヲ以テ三ヶ月以内ニ於テ閉會スルハ絶對的ニ爲シ能ハサルノミナラス之ヲ越ヘントスルトキハ會期ノ延長ヲ爲サ、ルヲ得サルナリ

臨時會ノ會期ハ憲法第四十三條ニ依リ君主ノ定ムル所ニ依ル故ニ從來臨時會ヲ召集スル場合ニハ必ス召集ノ詔勅ニ於テ併セテ會期ヲモ定メタリ

解散後ノ議會ノ會期如何從來ノ慣例ハ之ヲ第四十五條ノ議會ト稱シ特別會ト認タルナリト雖若シ然ルトキハ會期ナキコト、ナルナリ之ニ對シ三ヶ月ノ會期ハ特別會ニモ適用サル、モノナリト主張スル人井上博士其一人ナリ)アルモ三ヶ月ノ會期ヲ定メタル第四十二條ハ第四十一條ヲ受タルモノナルニヨリ通常會ノ會期ニノミ適用サル、モノナルコト明ナリ然ラハ解散後ノ議會ハ如何ナル議會ナルヤ曰ク臨時會ナリ蓋シ解散ハ臨時ノ事件ニシテ此臨時事件ノ發

生ノ爲ニ議會召集ノ必要ヲ誘致シタルモノナレハナリ從テ其會期ハ憲法第四十三條ニ依リ勅令ヲ以テ之ヲ定ルコト、ナルナリ(從來ノ實例然リ)而シテ解散後議會ヲ召集スル時期ニ於テ通常會ヲ召集スヘキ時期迫リタルトキハ如何ニスヘキヤト云フニ此場合ニ於テハ一日ニテモ解散後ノ議會ヲ召集シ之ヲ閉會シタル後更ニ通常會ヲ開クモ可ナリト雖只憲法第四十五條ニハ解散後五ヶ月以內ニ之ヲ召集ストアリテ如何ナル議會ヲ召集スヘシトノ規定ナキニヨリ通常會ヲ召集シ以テ其要件ヲ充タスコトヲ得ト信ス而シテ從來ノ慣例モマタ然ルモノナリ

ホルンハツク氏ハ解散後ノ議會ニ關シテ論ジテ曰ク解散後ノ議會カ通常會ナリヤ臨時會ナリヤヲ決定スルニ解散セラレタル議會カ通常會ナリシヤ或ハ臨時會ナリシヤヲ知ルノ要ナシ何トナレハ解散後ノ議會ハ解散前ノ議會ノ繼續ニアラサレハナリ併シ之ヲ決定スルニ前議會カ已ニ翌年度ノ豫算ヲ議定シタルヤ否ヲ知ルヲ要ス若シ已ニ豫算ヲ議了シタルモノナルトキハ解散後ノ議會ハ臨時會ナリ之ニ反シ未タ豫算ヲ議了セサルトキハ解散後ノ議會ハ通常會ナ

リト併シ解散後ノ議會カ翌年度ニ至リテ召集セラレ、トキハ最早翌年度ノ豫算ヲ議スルヲ得サルニヨリ此場合ニハ最早通常會ヲ開クノ必要ナキモノナリ

(ホルンハツク氏ハ豫算ヲ議スル爲ニ通常會ヲ開クヘキモノトナス)故ニ單ニ前議會カ豫算ヲ議シタルト否トニ

ヨリ臨時會タルト通常會タルトヲ決スヘキモノニアラサルナリ

會期トハ議會ノ開會ヨリ閉會マテヲ指ス而シテ其間ニ於テ停會、休會、等議會ノ行動ヲ休止スルコトアルモ此等ノ日數ハ總テ會期中ニ計算セラレヘキモノナリ而シテ其會期ノ進行ヲ妨クルモノハ解散ナリ解散ハ會期ヲ切斷スルモノニテ而カモ會期ノ終了ニヨリテ生スル閉會ト同一ノ效果ヲ發生セシムルモノナリ

### 解散後ノ議會ハ如何ナル議會ナルヤ

此問題ハ會期ニ關係ナ有スルモノナリ他ノ立憲諸國ニ於テモ解散後或時期ニ於テ新議會ヲ召集セサルヘカラサルモノナリト雖他國ニテハヒロク會期ハ國ノ元首ノ定ムル處トナシ或ハ會期ニ關スル規定ヲ設ケサルカ故ニ特ニ解散後ノ議會ノ會期ニ關シ疑ヲ生スルコトナキナリ然ルニ我國ニテハ憲法第四十二條ヲ以テ通常會ノ會期ヲ三箇月ト定メ第四十三條ヲ以テ臨時會

ノ會期ヲ定ムルハ勅令ニ依ルモノトナシ而カモ第四十五條ニハ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ召集スヘシトアルノミニテ其會期ニ關スル規定ナキカ爲解散後ノ議會ノ會期ハ如何トノ疑問ヲ生シ從テ解散後ノ議會ハ通常會ナルヤ臨時會ナルヤ特別會ナリヤトノ疑生シタルナリ之ニ關シ解散後ノ議會ヲ通常會ナリト解スル人アリテ憲法ニハ通常會ト臨時會トノ外ニ特別ノ議會ヲ認メス然ルニ解散後ノ議會ハ臨時緊急ノ必要ニ應シ召集スルモノニアラサルカ前ニ臨時會ト云フヲ得ス從テ通常會ト云ハサルヲ得ス下説ク人アリト雖モ之レ誤レリ何トナレハ通常會トハ名ノ示ス如ク毎年必ス開クヘキノ會即憲法第四十一條ニ依ルノ會ヲ指スモノナルコト明ニシテ解散ノ如キ特別ノ事實生シタルカ爲召集スル議會ヲ通常會ト稱スルハ其當ヲ得サレハナリ或ハ又解散後ノ議會ヲ特別會ナリト論スル人アリテ曰解散後ノ議會ハ臨時緊急ノ必要アル場合ニ召集スルモノニアラサルカ故ニ臨時會ニアラス又翌年度ノ豫算ヲ議スルカ爲メ開クモノニアラサルニヨリ之ヲ通常會ト目スヘキモノニアラス故ニ解散後ノ議會ハ特別ノ議會ナリ下我議會ノ慣例モ解散後ノ議會ハ之ヲ第四十五條ノ議會ト稱シテ此特別會說ヲ執ルモノ、如シト雖モ先ツ此論者ニ質問スヘキハ解散後ノ議會ヲ特別會ナリト解スルトキハ其會期ヲ如何ニ定ムヘキヤノ點ナリ之ニ對シテ召集ノ權アル天皇當然會期ヲ定ムルヲ得ト辯スト雖モ若シ如此ク解釋スルトキハ憲法第四十三條第二項ノ臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅令ニ依ルノ規定ハ無用ノ贅文トナルノミニナラス此如キ規定アルハ寧ろ憲法ノ明文ニ依ラスシテ君主力議會ノ會期ヲ定ムルコトナキヲ推定スルコトヲ得從テ第四十二條ノ三箇月ノ議會カ又ハ第四十三條ノ臨時會ノ外ニ特別ノ議會ナルモノアルコトヲ憲法ハ豫想セサルモノト考ヘ得ルモノナリ

茲ニ於テ又特別會ノ會期ハ三箇月ナリ其理由ハ第四十二條ニハ帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トストアルノミニテ必シモ通常會ニ限ラレサルヲ以テナリ下論スル人アリト雖モ字句ニ拘泥スルノ解釋モ茲ニ至テ極レルモノト云フヘシ固ヨリ憲法第四十二條ニハ通常會ノ文字ナシト雖モ其第四十二條ハ第四十一條ヲ承ケタルモノニテ其第四十一條ノ議會ハ毎年必ス開クヘキモノナルカ故ニ通常會ナルコト明ナルコトナリ如此キ字句ニ拘泥スル論者ヲシテ第四十五條ヲ解セシムルトキハ第四十五條ニハ衆議院ノ召集トアリテ議會ノ召集トナキカ故ニ解散後五箇月以内ニ衆議院ノ召集シテ足レリト説クナラン歟又通常會ニハ翌年度ノ豫算ヲ其議ニ附スルカ故ニ三箇月ノ長會期ヲ定メタリト雖モ解散後ノ議會ハ如此キ重大ナル議案ノ必シモアルヲ保セス然ルニ其會期ヲ三箇月トナスノ理由ヲ見サルナリ我從來ノ實例此説ニヨラサルハ至當ト云フヘシ要スルニ解散後ノ議會ヲ通常會ト解シ得サルコト已ニ述ヘタルカ如ク又之ヲ特別會ト解スルトキハ會期ノ點ニ於テ困難ヲ感スルニヨリ他ニ解釋ノ途ヲ求メサルヲ得ス然ラハ解散後ノ議會ノ性質ハ如何トク臨時會ナリ之ニ對シ臨時會ハ臨時緊急ノ必要アル場合ニ召集スヘキモノニシテ解散後五箇月以内ニ必ス召集スヘキ議會ト同一ニ見ルヲ得ストノ非難アリト雖モ之レ解散其モノ、臨時ノ事件タルコトヲ忘レタルノ説ナリ解散ハ臨時ノ事實ニシテ之カ爲メ開クコトヲ必要トスル議會ハ之ヲ臨時會ト稱シテ毫モ妨ナキナリ或ハ解散後五箇月ヲ經過スル前ニ通常會ヲ開クヘキ時期ニ達シタルトキハ通常會ヲ開クモ可ナリト唱フル人アリマタ從來ノ實例然リト雖モ之レ誤レリ憲法第四十五條ハ解散後必ス臨時會ヲ一度開ク主旨ナルカ故ニ臨時會ヲ開キ然レ後引續キ通常會ヲ開クヘキモノナリ從來ノ實例ハ只便宜ニ



由テタルノミ若シ反對ニ此説チ是認スルトキハ憲法第四十一條ニハ毎年議會ヲ召集ストアリ  
テ通常會ヲ召集スト規定セサルカ故ニ臨時會チ一度召集シテモ此條件ヲ滿タスモノナリト論  
定セサルヘカラサルナリ此論結ノ不當ナル予ノ多言ヲ俟タサルヘシ終リニ注意スヘキハ第四  
十五條ニ召集ストアリテ開會トナキカ故ニ召集スレハ開會セサルモ第四十五條ニ適合スルモ  
ノナルヤノ疑ナキニアラスト雖モ此召集ノ文字ハ廣義ニシテ議會ヲ成立セシムルコトヲ指ス  
モノナルコト之ナリ又第四十一條ノ召集モ然ルモノニテ單ニ召集ノ詔勅アルモ開會ノ手續ニ  
至ラサルトキハ此等條項ノ規定ヲ執行シタルモノト云フヲ得サルナリ

### 第十二節 帝國議會ノ停會

停會トハ會期中ニ議會ノ行動ヲ停止スルコトナリ故ニ停會中ハ才會議々事ハ  
勿論委員會ト雖モ之ヲ開クヲ得ス從テ停會中ハ各議員ニ於テ議決等ヲ爲スコ  
トアリト雖法律上ノ效力ヲ有スル者ニアラサル也併シ停會ハ單ニ議會ノ行動  
ヲ停止スルニ止リ之ニ依リ議會ノ成立ヲ失ハシムルモノニアラサルニヨリ停  
會期限經過後更ニ停會前ノ議事ヲ繼續スルコトヲ得ルモノニテ停會ノ爲メ不  
議了ノ議案ハ凡テ消滅スルモノニアラサルナリコレ閉會ト異ル點ナリ(議院法  
二三條2)又停會ハ會期中ニ行ハレ而シテ會期ノ進行ヲ之ニヨリ中斷スルモノ

停會ハ一  
會期中モ  
何ニテモ  
回ニテモ  
之ヲ命ジ  
得テ十五  
日ヲ超過  
スルナリ  
計得之  
ナリ

停會ノ目  
的

ニ非スト解釋セラル、ニ依リ若シ停會ニ期日ヲ設ケサルトキハ停會ノ爲メ會  
期ヲ全ク終了セシムルノ慮アリ故ニ停會ヲ命スルトキハ必ス期限ヲ附ス可キ  
モノニテ其ノ期限ニ對シ我議院法ハ制限ヲ設ケタリ此停會ノ期限ノ制限ハ獨  
リ我國ノミナラス何レノ國ニ於テモ設ケラル、モ我國ニテハ十五日以內ニ限  
ラル、事トセラル尙ホ他國ニテハ議會ノ同意アルニアラサレハ二回以上停會  
ヲ命スルコトヲ得ストノ制限ヲ説クルコト少カラスト雖トモ我國ニ於テハ回  
數ニ關スル制限ナキ故ニ十五日ヲ超過セサル以上ハ何回ニテモ停會ヲ命シ得  
ルナリ然ルニ是ニ關シ十五日ノ制限ハ一回ノモノニ限ラル、カ故ニ幾度モ停  
會ヲ命セラル、場合ニ其總計十五日ヲ超過スルモ議會法第三十三條ニ抵觸ス  
ルモノニアラスト説ク人アリ又我第五回ノ議會ニ於テ第一回ニ十日第二回ニ  
十四日通計二十四日ノ停會ヲ一會期中ニ命セラレタル實例アリト雖モ此解釋  
ハ不當ナリト信ス何トナレハ若シコノ解釋ニ從フトキハ凡テノ會期ヲ停會ノ  
爲メニ費シ以テ停會ノ期限ニ制限ヲ設ケタルノ主旨ヲ破ル事ヲ得レハナリ  
終リニ停會ノ目的ヲ一言セハ停會ノ目的ハ法文ニ規定セラレスト雖モ不當若

貴族院ノ停會

シクハ不法ナル決議ヲ爲シ若シクハ決議ヲ爲サントスル場合ニ其反省ヲ求ムルニ外ナラス故ニ此停會ト衆議院ノ解散ヲ命セラレタル場合ニ生スル貴族院ノ停會ト混同セサルコトニ注意スヘシ即議會ノ停會ハ今述ヘタルカ如キ目的ヲ有スト雖モ貴族院ノ停會ハ如斯キ目的ヲ有セス二院制ノ原則トシテ兩院ハ其行動ヲ一ニスヘキモノニテ而カモ衆議院ニ解散アリテ貴族院ニ解散ナキガ爲メ衆議院ノ解散ノ場合ニ貴族院ヲ閉ツルノ謂ニ外ナラス故ニ貴族院ノ停會ハ名ハ停會ナリト雖モ其實閉會ノ意ト解ス可キナリ此結果議會ノ停會期限了リタル後再ヒ停會前ノ如ク議事ヲ繼續シ得ルト雖モ貴族院ノ停會アリタル後更ニ議事ヲ開カントセハ新ニ議會全體(貴族院ヲ含ム)ノ召集議會ノ開會及ヒ新タナル議案ノ提出ヲ必要トスルモノトス又議會ノ停會中ハ會期中ト解セラルカ故ニ憲法第五十三條ニヨリ議員ハ身體ノ自由權ヲ享有シ得ルモ貴族院ノ停會ノ場合ニハ會期ハ終局ヲ告ケ議員ハ此特權ヲ享有シ得サルコトナルナリ

停會ト議員ノ身體自由

### 議會ノ停會トハ何ソヤ

#### 第一 停會ノ意義

議會ノ停會トハ議會ノ行動ヲ中止スルコトナリ併シ閉會若ハ解散ト異ルハ議會ノ成立ヲ妨ケサルニアリ議會閉會セラレ若ハ解散セラレタルトキハ更ニ議會ヲ召集シ且閉會ノ手續ヲ經ルニアラサレハ議事ヲ開始スル能ハスト雖停會セラレタル議會ハ依然其成立ヲ保ツカ故ニ召集開會ヲ新ニスルヲ要スルコトナクシテ更ニ其期限經過後前會ノ議事ヲ繼續スルコトヲ得ルモノナリ(議院法第三十三條參照)之ヲ例スレハ閉會若ハ解散ハ議會ノ死去ナリト雖停會ハ一時活動ヲ停止スル氣絶ニ止マルモノナリ

#### 第二 停會ノ目的

停會ノ目的ニ付テハ憲法其他ノ法律ニ明文ナキカ故ニ其目的ヲ法文上論定スル能ハス從テ法理ノ上ニ其ノ目的如何ヲ求メサルヲ得サルナリ然ラハ法理上停會ノ目的ハ何レニ在ルヤト云フニ其目的ハ地方議會ニ再議ノ制ヲ設ケルト同一ニ出テタルモノナリ抑再議ハ議決不當若ハ不法ナルトキ議會ニ反省ヲ求ムルカ爲ニ設ケルモノナリト雖帝國議會ニハ再議ヲ許サス故ニ他ノ途ヲ以テ議決ノ不當不法ニ陥ルコトヲ防クノ必要アリ是再議ナキ議會ニ停會ノ在ル所以ナリ只停會ト再議ト異ルハ再議ハ議決ナ一旦爲シタル後其反省ヲ求ムルモノナルモ停會ハ不法不當ノ虞アル議決ニ至ル前ニ其反省ヲ求ルニ在ルノミ併シ停會スルモ尙議會ノ議決正當ニ在テサルトキハ解散之ニ從フモノナリ故ニ停會ハ解散ノ側ヨリ見ルトキハ其前驅ナリト云フ

第三 停會權

憲法第七條ニ曰「天皇ハ帝國議會ノ停會ヲ命ス」ト故ニ停會權ノ天皇ニ專屬スルコト明ナリ固ヨリ議會ノ各院ハ自ラ議事ヲ休止スルノ權能ヲ有スト雖此ハ休會ト稱シ停會ト其性質目的ヲ異ニスルモノナリ即停會ハ議會ニ對スル監督ノ作用ニ出ツルモノナリト雖休會ハ各議院ノ所謂自主的行動ニ依ルモノナリ又停會ハ反省ノ目的ヲ有スルコト前述シタル如キモ休會ハ只事務處理上ノ都合ニ出ツルノミ故ニ休會ハ各院各別ニ爲スモノナリト雖停會ハ議會全體ニ對スルモノニテ各院ニ對シ各別ニ停會ヲ命シ得ルモノニアラサルナリ是レ二院制ニ通スル原則ノ結果ニシテ敢テ我憲法第四十四條ノ「停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ」トノ明文ヲ待タサルナリ

第四 停會ノ期日

先ツ停會ノ期日ニ關スル二三ノ大國ノ例ヲ舉ケンニ  
獨逸帝國憲法第二十六條 帝國議會ノ同意アルニアラサレハ同會期中ニ再ヒ停會ヲ命シ又三十日ヲ超過スル停會ヲ命スルコトヲ得ス  
普國憲法第五十二條 國王ハ兩院ヲ停會シ得停會ハ各院ノ承諾アルニアラサレハ三十日ヲ超過スルヲ得ス又停會ヲ二回以上一會期中ニ命スルヲ得ス  
白耳義憲法第七十二條 普國憲法第五十二條ト同文  
佛國公權ノ關係ヲ規定スル憲法第二條 右同文  
丁抹憲法第二十一條 國王ハ期限ヲ定メ停會ヲ命スルコトヲ得併シ議會ノ同意ナクシテ一

會期中二回以上若ハ二箇月以上停會スルヲ得ス

故ニ此等ノ國ニテハ停會ヲ命スルニ期日ノミナラス回数ノ制限アリト雖我議院法第三十三條ニハ「政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得」ト在リテ回数ノ制限ナキカ故ニ何回ニテモ命スルコトヲ得又實例トシテ第五回第十五回第十七回議會ニテハ二回命セラレタリ然ルニ茲ニ疑トナルハ右十五日ノ日數ハ一回ノミノ最長限ナルヤ或ハ議院法第三十三條ハ一會期中ヲ通シテ十五日ヲ超過シタル停會ヲ命シ得サルコトヲ定メタルモノナルヤ否ノ點ナリ我實例ニ依レハ第五回議會ニ於テ第一回十日第二回十四日通計二十四日ノ停會ヲ命セラレタルコトアリト雖是果シテ議院法第三十三條ノ解釋トシテ當ヲ得タルモノナルヤ予ハ他國ノ憲法ノ參照上議院法第三十三條ハ會期中十五日ヲ超過スルヲ得サルノ精神ナルコトヲ信スルナリ若シ之ヲ實例ノ如ク解釋シ一回十五日ヲ超過スルヲ得スト解スルトキハ我國ニテハ何回ニテモ停會ヲ命シ得ルヲ以テ終ニ全會期ヲ停會ノ爲メ消盡スルコトナキナ期シ難ク然ルトキハ十五日ノ制限ヲ特ニ設ケタルコト何ノ理由ニ出テタルヤヲ解スルヲ得サレハナ

第五 停會ノ效果

停會ノ效果ハ「第一」ニ述ヘタル如ク議會ノ議事ヲ中止スルモノナリ然ルニ此效果ハ本會議ノミニ及フモノナルヤ或ハ委員會ニモ及フモノナルヤニ付テハ學者間ニ解說分レド、マイヤ氏ハ後説ヲ採リラバンド氏ハ前説ヲ執リ一千八百九十年二月二十八日ノ獨逸帝國議會ハ停會中ト雖モ委員會ヲ開クハ妨ナシト決議シタリ而シテ予ハ停會ノ目的上此決議ニ同意ヲ表セサルヲ得

サルナリ何トナレハ停會ヲ命スルハ本會議ノ討議ニ關シ其不法不當ナル決議ニ陷ランコトヲ豫防セントスルカ爲ニ出ツルモノニテ委員會其モノニ關係スルコトナケレハナリ然ルニ單ニ委員會ノ議事モ議事ナリトノ論鋒ヲ以テ停會ノ效果委員會ニ及フモノト考フルハ文字ニ拘泥スルノ嫌ナキニアラスト云フヘシ

第六 停會ト議會ノ會期

停會ノ期日ハ議會ノ會期中ニ算入セサルヲ常トセリ併シ停會ハ議會ノ行動ヲ中止シ其結果トシテ本會議及委員會ヲモ開カサルモノナルカ故ニ法理上會期ハ停會ニヨリ中斷サル、モノナリト解釋スルヲ至當ナリト信ス若シ如此ク解釋スルトキハ停會ノ期日ニ制限ヲ受クルハ不用ナルカ如シト雖通常會ハ毎年一回開カサルヘカラス又翌年ノ豫算ヲ議スヘキモノナルヲ以テ絶對ニ不用ニ歸スルモノニアラサルナリ

第七 貴族院ノ停會

衆議院解散ノ場合ニ生スル貴族院ノ停會ハ其性質議會ノ性質異ルモノニシテ其性質ニ付テハ嘗テ衆議院ノ解散ヲ論シタルトキニ述ヘタルニヨリ今亦タ之ヲ贅セサルナリ

第十三節 議院ノ休會

休會トハ君主ノ命ニヨラス議事ノ都合ニヨリ會議ヲ中止スルコトニテ主トシテ議院ノ決議ニヨリ行ハル、モノナリ故ニ議事ヲ停止スル外形ニテハ停會ト

休會ノ目  
的

休會ト停  
會ト異ル  
點

類スルモ其目的ニ於テハ大ニ異ルモノト云フヘシ例ヘハ年末年始ニ際スルカ或ハ特別ノ人ニ對シ哀悼ノ意ヲ表シ若シクハ尊敬ノ意ヲ表スルカ或ハ議案ナキカ爲メニ休會スルカ如シ故ニ議事日程ヲ定メサルトキハ自然ニ休會トナルナリ猶休會ト停會ト異ナル點ヲ示シテ休會ノ何タルヲ一層明カニセントス

第一 停會ハ國法上議會ノ議事ヲ中止スルモノナルモ休會ハ事實上議事ヲ休止スルニ止ル

第二 停會ハ君主ノ命ニヨルモノニテ其期限中絶對ニ議事ヲ開ク能ハサルモノナリト雖モ休會中ハ必要ニ應シ議事ヲ開クノ自由ヲ有ス

第三 停會ハ兩院同時ニ行ハル、モノナルモ休會ハ各院各別ニ之ヲ行フコトヲ得ルモノナリ

第四 停會ニハ十五日以下ナル制限アルモ休會ニハ如此キ制限存スルコトナシ

休會ノ日數ハ之ヲ停會ノ日數ト均シク會期及出席停止ノ日限内ニ算入スルモノナリ又休會中ハ一週間以上ノ請暇ニ對シテモ議長ニ於テ之ヲ許可スルコト

貴族院ハ  
解散セラ  
ルハコト  
ナシ

會散ト閉  
別トノ區

### 第十四節 衆議院ノ解散

解散ハ必スシモ衆議院ノミニ之ヲ行フヘキモノニアラス兩院ニ解散ヲ命スルコトヲ認メタル立法例ナキニアラスト雖モ我國ニテハ憲法第四十五條ニテ衆議院ノミニ解散ヲ認メ而シテ衆議院解散セラレタルトキハ貴族院當然ニ停會スルモノト爲セリ蓋シ貴族院議員ノ中ニハ皇族及公侯爵ノ世襲議員竝ヒニ終身ノ勅選議員其大部分ヲ占ムレハナリ

解散ハ閉會ト等シク議會ノ成立ヲ失ハシムルモノニテ議案不繼續ノ原則モ閉會ノ場合ト等シク解散ノ場合ニ適用セラレ、モノナリト雖モ閉會ハ會期ノ終了ニヨリテ生シ解散ハ會期ノ進行ヲ妨クルノ區別ノ外此兩者間ニハ議員ノ資格ニ關係スルト否トノ差異ヲ有スルナリ即閉會ノ場合ニハ議員ノ資格ハ之ニヨリ消滅スル事ナシト雖モ解散ノ場合ハ其ノ效果トシテ解散セラレタル議員ノ資格ヲ失ハシムルモノトス故ニ新ニ議會ヲ召集セントスルトキハ閉會後ハ

解散ノ結  
果

任期滿了ノ場合ノ外新々ニ選舉スルヲ要セスト雖解散後ハ新議員ノ選舉ヲ爲サシムル必要アルナリ蓋シ此區別ハ目的ノ異ナルヨリ來ルニ外ナラサルナリ然ラハ解散ノ目的トハ如何固ヨリ明文ノ之ヲ定ムルモノナシト雖トモ議會ノ行動不法若シクハ不當ニシテ停會ヲ以テスルモ議會ノ反省ノ見込ナキ場合ニ之レヲ命シテ以テ議會ノ分子ヲ更新スルニアルナリ即チ解散ノ目的ハ新々ナル議會ヲ成立セシメ以テ議會トシテノ職務ヲ全クセシメントスルカ爲メナリ或ハ解散ハ政府方針ノ是非ヲ國民ニ訴ヘテ議會トノ間ノ是非曲直ヲ判斷セシメント欲スルモノナリ或ハ解散ハ國民ノ代表機關タル實ヲ議會ニ舉ゲシメントスルカ爲メ行フモノナリト説ク人アリト雖モ此等ノ説ハ國民全體ヲ權力ノ主體ト爲サ、ル以上ハ成立セサルモノナルニヨリ我國ニテハ採用セラレサル説ナリ尙ホ憲法ノ規定ニ基ク解散ノ結果ヲ舉クルトキハ解散ヲ命シタル場合ニハ必ス五ヶ月以内ニ議會ヲ召集ス可キコトコレナリ國ニヨリテハ召集ノ期限ヲ定ムルノミナラス選舉ノ時期ヲモ定ムルモノアリト雖トモ我國ニテハ單ニ召集ノ時期ノミ定メラレ總選舉ヲ行フ可キトキニ就テハ何等ノ定メナキモ

### 衆議院ノ解散ヲ論ス

#### 第一 解散ノ意義

解散ノ意義ヲ廣ク解スルトキハ議員ノ任期議會ノ會期中ニ終了スル恐アル場合ニ其開會前ニ議會ヲ解散シテ以テ此不都合ナル結果ヲ避クル場合ヲモ包含スト雖我邦ニ於テハ衆議院議員選舉法第七十七條但書ニ議會開會中ニ任期終ルモ開會ニ至ル迄在任ストアルニ因リ右ノ解散ヲ爲スノ必要ナキモノナリ故ニ此解散ノ場合ヲ除キタル以外ノ解散即狹義ノ解散ノミニ付キ茲ニ説カント欲スルモノナリ

我國ニテハ衆議院ノ解散ヲ集合體ナル議院ニ對スルモノト解セスシテ衆議院議員ノ資格ヲ任期滿了前ニ消滅セシムルコトニ解スル人不少ト雖憲法第七條ニハ衆議院ノ解散ヲ命スト規定シ又第四十五條ニモ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハトアルカ故ニ此議院ニ對スルモノニアラスシテ議員ニ對スルモノナリトノ解釋ハ其當ヲ得タルモノナルヤ否ヤヲ疑ハサルヲ得サルナリ議院ハ議員ニアラス衆議院ノ解散トアルヲ議員ノ任期滿了前ノ資格消滅ト解スルハ文字上不穩ナルノミナラス如此キ解散ノ解釋ハ解散ナル語ノ普通ノ用法ニモ異ルモノナリ通常集會ノ解散或ハ法人ノ解散ト稱スルトキハ集會其モノヲシテ失形セシメ若ハ法人其モノヲシテ消滅セシムルコトニテ其解散ナル處分又ハ行爲ハ要スルニ停會及法人ノ成立ヲ妨グルニ外ナラ

サルナリ

故ニ衆議院ノ解散ナル文字及解散ナル語ノ普通用語ヨリ推定スルトキハ衆議院ノ解散トハ衆議院ヲシテ成立セシメサルニ至ラシムルノ處分ナリト解スルヲ至當ト信スルナリ從テ議員ノ任期滿了前ニ其資格ヲ消滅セシムルコトハ解散ノ定義ニアラスシテ解散ノ結果ナリト云フヘシ

#### 第二 解散ノ目的

解散ナルモノハ階級議會ノ時代ニハ存在セザリシモノニシテ立憲時代ニ初メテ發生シタルモノナリ抑立憲制度ナルモノハ三權分立主義ニ基礎ヲ有スルモノニテ君主又ハ議會等ノ專制政治ヲ防カントスルニ由ルモノナリ若シ法律ヲ制定スルニ議會ノ協賛ヲ要セサルトキハ君主ハ自由ニ人民ノ權利自由ヲ蹂躪シ將又之ニ反シ議會ノ議決ノミヲ以テ法律完成スルトキハ議會ノ專制ニ陥ルヲ以テ法律ニハ議會ノ協賛ト君主ノ裁可トヲ必要トシタルナリ又法律ヲ適用スル裁判所ハ之ヲ獨立ニシ而カモ裁判所ヲシテ法律ノ制定ニ毫モ關係セシメサルハ是レ又司法權ノ獨立ヲ擔保シ併セテ司法權ノ專制ヲ防カントスルノ主旨ニ出タルモノナリ即是レ立憲政治ノ特色ニシテ其精神ヲ三權分立ニ採リタル三種機關ノ牽制ヲ目的トシタルモノナリ解散モ亦此主旨ニ基クモノニテ議會カ如何ニ不法ナル行動ヲ爲シ如何ニ不當ナル議決ヲ爲スモ之ヲ妨ク得サルトキハ議會ノ專制ヲ導クニ由リ君主ニ解散スルノ權ヲ與ヘテ以テ其權限ヲ適正ニ行ハシメントスルニ因ルナリ即解散ノ制ハ議會カ其行動ノ範圍ヲ超出セントスル場合ニ之ヲ節制セントスル目的ニ設ケラレタルモノナリ佛ノコンスタン氏カ議會ノ解散權ヲ君主ノ節制

權ト稱シタルハ之カ爲ナリ又我國ニ於テ衆議院ニ解散ヲ命スルコトヲ天皇ノ大權作用中ニ列シタルモ官吏ヲ免スルノ權ト等シク議院ノ專横ヲ防クカ爲ナリ故ニ議會解散ノ必要ハ固ヨリ議會カ其職務ヲ完フセサルトキニアルモノナリ或ハ解散トハ議會ト政府ト衝突シタル場合ニ之ヲ調和スル爲ニ行フモノナリトシユルツエ氏獨逸國法第一卷第六百三十三頁說ク人アリト雖是レ未タ說キ盡サ、ル所アリ何トナレハ政府ト議會トノ間ニ調和ノ實舉ルト雖此兩者共ニ合シテ不法ノコトヲ爲ス場合ニハ一方ニ國務大臣ヲ免シ他方ニ議會ヲ解散スル必要アレハナリ或ハ又解散トハ議會ノ國民ノ意思ヲ代表セサル場合ニ行フモノニテ議會ヲ組織スル議員ノ多數カ選舉人ノ自由意思ニ因リテ選出セラレサルトキ或ハ議員ノ多數カ其任期中國民ノ意思ト合セサルニ至リタルトキ之ヲ行フモノナリ或ハ解散トハ政府ノ意見ト議會ノ意思トカ相對突シタルトキ其曲直ノ制定ヲ國民ニ爲サシムルカ爲行フモノニテ新選議會ノ意思カ前議會ト同一ナルトキハ國務大臣ヲ免スヘキモノナリト說ク者アルモ(リヨ)ン子氏普國國法第五版第一卷第三三五頁參照此說ハ所謂主權在民說ニ基礎ヲ有スルモノニテ權力國民ニ存ストノ說ヲ採ラサル以上ハ成立セサルモノナルニ依リ我衆議院解散ノ原理ヲ說明スルニ資セサルモノナリ之ニ反シ學者中解散ハ前ノ議會ヨリモ組織ノ優レル議會ヲ得ンコトヲ求ムルノ手段ナリト說キタルモノアルハ解散ノ目的ヲ直接ニ言明シテ當テ得タルモノト云フヘシ

第三 衆議院解散ノ時期

解散シ得ル時期ヲ一言スレハ衆議院ノ成立スルトキニ在ルモノナリ若シ衆議院成立セザルトキハ之レヲ解散スルニ由ナキニヨリ解散ノ成立ノ時期ニ限ラレ、ハ當然ノコトナリ然ルニ其

成立ノ時期ニ關シ疑ナキヲ得サルナリ獨逸及獨逸各邦ノ憲法ニテハ多ク議員ノ任期何年ト定メスシテ立法期(Legislaturperiode)何年ト規定シ此立法期ノ間議院ハ成立シ此立法期ノ終了ト共ニ議員ハ其資格ヲ失フモノト爲セリ併シ其立法期ノ初期ニ關シテハ左ノ二說アリ

第一 立法期ハ議員ノ總選舉ノ日ニ於テ始マルモノナリトノ說 ラバ)ンド(獨逸國法第四版第

一卷第三百十五頁參照ザイ)デル(獨逸憲法註釋第二百四頁)リ)オン)ネ(普國國法第五版第一卷第三百五十五頁)グ)マイ)ヤ)ー(獨逸國法第三百十節)シユ)ル)ツ)エ(獨逸國法第一卷第六百三十三頁)等ノ諸氏ハ之ニ贊成スルモノニテ其理由ハ議員ハ總選舉ノ日ヲ以テ其資格ヲ得テ其日ヲ以テ立法期始マルモノト見ルハ當然ノコトナリト云フニ在リ然ルニアル)ンド)氏ハ之ニ反對シテ曰議員ノ資格ヲ得ルト立法期ノ始マルトハ之ヲ區別シテ見サル可ラス立法期ト云フトキハ立法機關ノ成立ヲ豫想スヘク而シテ議會ハ召集ニ因リ始メテ機關タルノ行動ヲ爲シ得ルモノナリ故ニ總選舉ノ日ヨリ立法期始マルモノト解スルハ不當ナリト(アル)ンド)氏獨逸國法第三百三十五頁參照)

第二 立法期ハ總選舉後第一ノ召集ニ因リ議員ノ集リタルヲ以テ始マルモノナリトノ說 此說ヲ唱フルモノハ前掲ノアル)ンド)ノ外(ヘル)フル)ト)ス)テン)ゲ)ル)ボ)ル)ン)ハ)ツ)ク)等ニシテ政府從來ノ解釋及之ニ關スル實例又之ニ由ルモノナリ此說ノ根據ハ前述アル)ンド)氏ノ第一說ニ對スル反駁ノ外立法期ノ文字ヨリ考フルモ立法ヲ爲シ得ルニ至リタルトキ即召集ニ應シタルトキヨリト論定スルヲ至當ナリト云フニアリ(ボ)ル)ン)ハ)ツ)ク)氏普國國法第一卷第三百九十四頁參照)

議院成立ノ時期ニ關シ此二種ノ説アルニ依リ其結果トシテ解散ノ時期ニ付テモ亦異ラサルヲ得サルナリ即チ第一説ニ依ルトキハ議院ハ總選舉後一度モ召集セサル前ニ於テモ之ヲ解散シ得ルモ(リヨン)ネ氏ハ第一説ヲ採ルニ拘ハラズ第四版ニ於テハ總選舉後一度モ召集ナキトキハ解散スルヲ得ス其理由ハ解散ノ目的ニ反スルモノナリト解ケリ第二百八十五頁第二説ニ依ルトキハ議院ハ總選舉後第一ノ召集日ノ後ニアラサレハ解散シ得サルトナルナリ(ステンゲル)氏ハ第二説ヲ採ルニ拘ハラズ解散ハ總選舉後何時ニテモ爲シ得其理由ハ解散ノ時期ニ制限ナシト云ヘリ(同氏普國國法第八十二頁參照)

然ラハ我衆議院ハ何時ヲ以テ成立シ又成立時期ハ何時ヲ以テ終了スルヤト云フニ我憲法ニハ立法期ノ定メナクシテ衆議院議員選舉法第七十七條ニ只議員ノ任期ハ四年ナリト定メタルニ過キサルニ依リ彼立法期ニ關スル説ヲ我憲法ノ解釋ニ引用スルヲ得サルナリ而シテ議院法第五條ニハ兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ云々ト規定シ衆議院規則第一章成立ノ第二十三條ニ「議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ」同第二十四條ニ「議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員三分ノ一ニ充テタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ」ト明記シタルニヨリ我制度上議院ノ成立ハ議員召集ニ應シテ議席及部屬ヲ定メタルトキニ在ルノ主旨タルコトヲ推定シ得ヘキナリ茲ニ於テ解散ノ時期モ亦彼ニ異ナラサルヲ得サルナリ獨逸及其各邦ニ於テハ立法期ニ關シ何レノ説ヲ採ルモ皆開會中解散ヲ爲シ得ルコトヲ認ム(其理由(一)閉會中モ議院成立ス(二)閉會中解散シ得ストノ制限ノ明文ナシ)ト雖我邦ニテハ毎回

ノ議會召集サル、毎ニ議院成立シ閉會ヲ以テ議院其成立ヲ失フモノナルニヨリ閉會中ハ解散ヲ爲スヲ得スト論定スヘキモノナリ亦從來ニ於テモ閉會中解散ヲ生スルノ實例ヲ有セサルナリ從テ勿論總選舉後未タ一度モ召集セサル前ニ於テ衆議院ニ解散ヲ命スルヲ得サルナリ或ハ此總選舉後ノ場合ヲ區別シ任期滿限ニ因リ總選舉ヲ行フトキハ未タ一回モ開會セサル前ニ之ヲ解散スルモ法ニ抵觸セス然レトモ解散ニ因リ總選舉ヲ行フトキハ憲法第四十五條ノ規定アル故ニ必ス召集開會セサルヘカラス從テ召集前ニ解散スルヲ得スト説ク者アルモ是レ誤ニシテ解散シ得サルハ第四十五條ノ制限アル爲ニ非スシテ議院成立セサルニ基クモノナリ即解散ハ議院ノ成立ヲ失ハシム然ルニ召集前ハ議院成立セサルヲ以テナリ

第四 解散ノ形式

解散ヲ命スルニ若シ議事進行中ナルトキハ國務大臣ヲ以テ議院ニ之ヲ傳ヘシメ而シテ他ノ一方ニハ之ヲ官報ニ公布スルモノナリ此公布セラル、解散ノ命令ニハ固ヨリ國務大臣ノ副署ヲ要スルモノニテ我國從來ノ實例ハ總國務大臣副署ヲ爲シタル如キモ理論上必スシモ總副署ヲ要スルモノニアラス只一人ノ國務大臣ノ副署ヲ以テスルモ尙ホ解散ノ效果ヲ發生スルモノナリ

第五 解散ノ結果

解散ノ結果ヲ舉クルトキハ左ノ如シ  
第一 解散ハ議院ノ成立ヲ失ハシムル效果ニ於テ閉會ト同一ナリ故ニ解散ノ場合ニハ閉院式ヲ特ニ行フコトナクシテ議案建議請願ノ議院ニ繫屬スルモノハ總テ消滅スルモノナリ即所



謂議案ノ繼續(Kontinuität)ヲ妨クルモノナリ

第二 從來ノ議員ノ資格ヲ失ハシメ新ニ總選舉ヲ行ハシムルモノナリ即憲法第四十五條ニ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ云々ト規定セラル、ニヨリ議員ノ資格ヲ失ハシムルモノナルコト明ナリ之ニ關シトワダイクム氏ハ議員ノ資格ヲ失フハ解散ノ命令アリタルトキニアラスシテ新選舉ノ日ナリ故ニ新議員選出サル、迄ハ解散セラレタル議院ノ議員モ依然其資格ヲ有シ若シ新選舉迄ニ開會ノ必要アルトキハ之ヲ召集シ得而シテ之ニ反對ノ明文ナシト説キタリト雖解散ノ效果發生ノ時期ヲ氏ノ如ク延期セントスルトキハ却テ明文ヲ要スルモノナリ故ニ殆ント總テノ國法學者ハ皆氏ニ反對セリ(ザイテル氏獨逸憲法註釋第二百四頁參照)

第三 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院停會セラル、モノナリ併シ此停會ノ文字ハ如何ナル意義ヲ有スルヤニ付キ疑問ナキヲ得サルナリ千八百六十二年普國ノ貴族院ハ停會ハ停會ナリ衆議院解散ノ場合ノ貴族院停會モ議會全體ノ停會ト其效果ヲ同クス只停會ハ三十日ヲ超過スルヲ得ストノ期日ノ制限カ此場合ニ適用セラレサルノミト主張シタリト雖衆議院ハ之ニ反シ此場合ノ停會ハ閉會ト同一義ナリト唱ヘタリ爾來ステンゲルツォルン、シアル等ノ多數ノ學者ハ皆此衆議院ノ意見ニ同意スト雖獨リアルド氏ハ其普國憲法註釋第二百三頁ニ於テ貴族院ト同一ノ意見ヲ採リテ憲法ニ停會ナル文字ヲ用フルニ拘ハラズ之ヲ強テ閉會ノ義ナリト論スルハ憲法ノ明文ヲ蹂躪シタル解釋ナリ若シ憲法カ貴族院ヲ閉會スルノ主意ナルトキハ閉會ノ文字ヲ用ヒタルコト必セリ殊ニ停會ト閉會トハ議案繼續及議院成

立ノ點ニ於テ全ク異ルノ結果ヲ生スルカ故ニ之ヲ混同スヘキモノニアラスト説ク併シ此説ハ文字ニ拘泥シテ兩院制ノ原則ヲ破ルモノナリ何トナレハ兩院制ナルモノハ召集閉會會其他總テノ點ニ於テ兩院ノ行動ヲ一致スヘキモノナルニ拘ハラズアルド氏ノ説ノ如クスルトキハ衆議院ハ解散セラレテ成立セサルニ拘ハラズ貴族院ハ依然其成立ヲ續ク新衆議院ハ召集ヲ要スルニ拘ハラズ貴族院ハ召集ヲ要セス停會ヲ解クニ止マラサルヘカラサルコト、ナリ兩院制ノ原則ニ抵觸シタル不當ナル結果ヲ生スルモノナレハナリ故ニ我憲法第四十五條ノ停會ノ文字モ閉會ト稱スヘキモノト云フヘシ

第四 憲法第四十五條ニ依リ解散ヨリ五ヶ月以内ニ新ニ新議會ヲ召集セサルヘカラサルナリ多クノ國ニ於テハ其憲法ニ於テ嘗ニ新議會召集ノ期限ノミナラス新總選舉ノ期限ヲ定ムルヲ常トス例ヘハ

新選舉	召集	召集
獨	六十日以内	伊
普	六十日以内	丁
瓦天堡	六ヶ月以内	瑞典 (即威ニハ解散ナシ)
宋遜	六ヶ月以内	新選舉
佛	二ヶ月以内	巴威里
白	四十日以内	四班牙
和	四十日以内	

等ノ如シト雖我國ニテハ單ニ召集ノ期限ノミチ定ムルカ故ニ選舉ハ解散後何日以後ニ行フモ  
差支ナシト云ハサル可ラサルナリ只議院法第一條ニ依リ議院ノ召集令ハ少クトモ召集期日四  
十日前ニ發スヘク又選舉期日ノ勅命ハ選舉法第二十八條ニ依リ少クトモ三十日以前ニ公布ス  
ヘキモノナルカ故ニ選舉ハ召集ヨリ三十日以後召集ノ後五ヶ月ヨリ四十日以前ノ間ニ於テ行  
ハルヘキモノト云フヘシ

### 第十五節 帝國議會ノ權限

帝國議會ハ已ニ述ヘタル如ク其權力ノ主體ニアラスマタ固有ニ其存在ヲ保ツ  
モノニアラスシテ法規ヲ以テ定メラレタル權限ヲ有スル一ツノ機關ニ過キサ  
ルナリ故ニ是レヨリ憲法上議會ノ權限ニ屬スルモノヲ列舉スレハ

#### 第一 法規ノ制定ニ參與スルコト

(一) 法律案ニ協賛ヲ與フルコト 協賛ノ性質ニ付テハ後ニ之ヲ述フ可ク又  
憲法第三十七條ニ於テ法律ノ制定ニハ議會ノ協賛ヲ必要トスト定メラレ  
タルニヨリテ天皇カ法律ヲ制定スルニ當リテハ必ス議會ノ協賛ヲ經サル  
可カラス

法規ノ制定ニ參與スルコト

(二) 憲法ノ改正案ヲ議スルコト 憲法第七十三條ニヨリ憲法ヲ改正スル時

ハ必ス議會ノ議ニ附セラルヘキモノトス併シ議院ハ改正案ヲ修正スルヲ  
得サルナリ若シ修正權アリトスレハ新ニ議案ヲ作成スルト同シキカ故ニ  
勅命ニヨリ發案セサルヘカラサルノ主旨ト反スレハナリ

(三) 緊急勅令ニ承諾ヲ與フルヤ否ヤヲ決スル事 緊急勅令ハ名ハ勅令ナリ  
ト雖モ其實質ハ法律ト同一ノモノニテ其ノ效力モ亦法律ト同一ノモノナ  
リ故ニ其發布後ノ次ノ議會ニ於テ其諾否ヲ決セシムルモノニシテ畢竟法  
律案協賛ノ變體ニ外ナラサルモノトス

#### 第二 財政事務ニ參與スルコト

租稅ヲ定ムルモ財政事務ナリト雖租稅ハ其新設及稅率ヲ必ス法律ヲ以テ定  
ムルモノナルカ故ニ第一ノ權限中ニ包含セラル、モノトス故ニ此第二ノ中  
ニ入ルヘキハ左ニ列舉スル如キ法律ニ關係セサル財政事務ニ止マルモノナ

リ  
(一) 豫算案ニ協賛ヲ與フルコト 豫算ノ性質ニ就テハ後ニ之ヲ説クヘシ

財政事務ニ參與スルコト

(二) 國債ヲ起シ又ハ豫算外國庫ノ負擔トナル可キ契約ヲ爲スニ付キ協賛ヲ與フルコト 大藏省證券發行ノ最高額ハ議會ノ協賛ヲ經テ決定スルモ之ハ會計法ノ規定ノ結果ニシテ憲法第六十二條ノ規定ノ結果ニアラス蓋シ大藏省證券ハ國債ニ非ラサレハナリ

(三) 豫算超過支出若クハ豫算外ノ支出ヲ爲シタル場合ニ其支出ノ諾否ヲ決スルコト

(四) 憲法七〇條ノ緊急財政處分ニ承諾ヲ與フルヤ否ヤヲ決スル事

(五) 決算ヲ審査スル事

其他條約ノ締結ニ關シ議會ヲシテ干與セシムル國アリト雖モ我憲法十三條ハ條約ノ締結權ヲ君主ニ專屬セシメタルニヨリ條約ノ締結ニ關シテハ議會ハ少シモ參與スルノ權限ヲ有セサルモノナリ

又協算ト承諾トノ間ニ存スル區別ヲ一言スレハ

第一 協賛ハ事前ニ限ルモノニテ事後ノ協賛ナシ反之承諾ハ法律上既ニ成立シタル所爲ニ對スルモノニテ常ニ事後ノモノトス從テ協賛ハ未タ成立セザ

條約ノ締結  
會  
協賛ト承諾トノ差

ルモノニ關スルカ爲常ニ積極的ノモノナルモ承諾ハ常ニ消極的ノ觀念ニ屬スルモノナリ

第二 協賛ハ他ノ要求ニ基キ若クハ自ラ發議スル事ニヨルモノナリト雖モ承諾ハ常ニ他ノ要求ニ基クモノナリ

第三 協賛ナキ時ハ議案常ニ成立セス併シ承諾ヲ與ヘサルモ其行爲必スシモ常ニ無效トナルモノニアラサルナリ假ヘハ豫算超過ノ支出豫算外ノ支出ノ如キハ不承諾ノ爲何等ノ影響ヲウクルコトナキカ如シ

第四 協賛シタル時ハ或ル行爲ノ成立ヲ促スモノナリト雖承諾ハ之ヲ與フルモ特別ノ行爲ノ成立ヲ促サス之ヲ與ヘサル時却テ他ノ行爲ノ成立ヲ促ス事アルモノナリ例ヘハ憲法第八條ノ勅令ノ無效ヲ公布セサルヘカラサルカ如シ

第五 協賛ノ權ハ修正スルノ權ヲ包含スルモ承諾ノ場合ハ承諾ヲ與フルカ又ハ與ヘサルカノ二途ニ出ツルニ外ナキモノニシテ修正シテ承諾ヲ與フルヲ得サルナリ

如此ク協賛ト承諾トノ間ニ差異アルニヨリ緊急勅令カ議會ノ承諾ヲ經ルモ法律ト變スルモノニアラサルナリ

### 第十六節 貴族院ノ權限

#### 第一 貴族院令ノ改正増補ヲ議決スルコト

貴族院令第十三條ニ將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシトアルニヨリ此條文ノ效果トシテ貴族院令ノ改正ヲ爲サントスルトキハ貴族院ノ議決ニ付セサルヘカラサルナリ然ルニ岩田法學士ハ此第十三條ノ效力ニツキ疑ヲ容レテ曰ク「積極論者（普通ノ勅令ヲ以テ貴族院令ナリトシテ）ノ言フ處ヲ聽クニ凡ソ法令ノ形式的效力ニ關シテハ憲法ノ規定ニ違背スヘカラサルハ論ヲ俟タスト雖其範圍内ニ於テ法令相互ノ形式的效力ヲ定ムルハ天皇ノ自由ナリ故ニ貴族院令ノ如ク其改正増補ニ關シ特ニ貴族院ノ議決ヲ經ヘキコトヲ規定シタル以上ハ該令ハ將來貴族院ノ議ヲ經ルニ非スンハ單ニ普通ノ勅令ヲ以テ改正増補スルコトヲ得サル形式上特殊ノ效力

貴族院令  
第十三條  
ハ有效ナ  
ルモノナ  
リ

ヲ有スルニ妨ゲナシト予輩ハ憲法ノ範圍内ニ於テ法令ノ形式的效力ニ差異ヲ付スルコトヲ絕對ニ否認スルモノニ非ラス法令ノ形式的效力ニ關シ憲法ノ言フ所ハ唯命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得スト云フニ止マレトモ同シ命令中ニ在リテモ縣令ヲ以テ省令ヲ變更シ又省令ヲ以テ勅令ヲ變更スルコトヲ得サル如キ形式的效力ニ差異ヲ付スルヲ得ルコトヲ認ムレハナリ然レトモ縣令ヲ以テ省令ヲ變更シ省令ヲ以テ勅令ヲ變更スルコトヲ得サルハ其省令及勅令ニ之ヲ禁スル條項アルカ爲ニ然ルニ非スシテ縣令及省令ヲ發スル機關ノ權限ノ差異ニ基クモノナリ試ニ貴族院ノ議決ヲ經スシテ貴族院令ヲ改正増補スルノ勅令發セラレタリト假想センニ新勅令カ違法ニシテ其所期ノ目的ヲ達スルヲ得ストセハ何故ニ違法ナルヤ如何ナル法令ニ違背スルヤヲ省ルヘシ其疑ヲ生スヘキモノハ唯一ニ貴族院令第十三條アルノミナルヘシ而カモ單ニ第十三條ノ明文ニ反スルト言フニ過キス然レモ凡テ法令ノ改正ハ必ス以前ノ法令ノ明文ニ違フモノナリ若シ舊法令ニ違フノ故ヲ以テ新法令ヲ無効トセハ法令ノ改廢ナルモノハ永久行ハルノ期ナカルヘシ

右ノ論者ト雖モ必ス此ノ如キノ結論ヲ豫期スルモノニアラサルハ論ナシ若シ單ニ第十三條ノ如キ意味ヲ有スル條項ニノミ違背スルコトヲ得スト言ハ、特ニ充分ナル理由ナカル可ラス故ニ法令ニ特殊ノ效力ヲ與ヘント欲セハ單ニ其法令自身ノ規定ヲ以テ其目的ヲ達ス可ラサルヲ知ルニ足ルヘシ然レモ貴族院令ニ特ニ第十三條ヲ置キタル立法ノ趣旨ハ將來貴族院ノ議ヲ經ス普通ノ勅令ヲ以テ之ヲ改正増補スルコト無ラシメントスルニ在ルヤ又疑フ可ラス否スンハ特ニ同條ヲ置クノ要ナケレハナリ是ニ於テ論者往々ニシテ曰ク貴族院令ハ衆議院選舉法等ト共ニ所謂憲法附屬ノ法令ニシテ其形式的效力ハ單ニ該令第十三條ノ規定ニ因ルニアラスシテ其基ク所憲法ニ在リ云々然リト雖モ憲法上貴族院令ニ關スル規定ハ唯貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織スト言フ第三十四條ノ一條アルノミ本條ハ貴族院ノ組織ハ貴族院ニ關スル命令ヲ以テ定メサルヘカラサルコトヲ規定スルト同時ニ之ヲ組織スル議員ハ皇族華族及勅任セラレタル議員ノ三種タルヘキコトヲ命スルノ外貴族院令ノ效力ニ關シテハ何

等言フ所アルニアラス故ニ法律ヲ以テ貴族院ノ組織ヲ定メ若クハ皇族華族及勅任議員ノ中何レカヲ廢シ又ハ別ニ公選ニ由ル議員ヲ加フ如キハ憲法違反ナリト雖モ依然トシテ命令ヲ以テ組織ヲ定メ且ツ議員ノ種類ヲ増減セサル以上ハ其他ノ規定ハ如何ニ之ヲ變更スルモ憲法違反ニアラス換言スレハ貴族院令ノ形式上ノ效力ハ普通ノ命令ト全然同一ニシテ右ニ擧ケタル議員ノ種類ヲ増減セサル以上ハ普通ノ命令ヲ以テ自由ニ改正増補スルコトヲ得ヘキナリト（法學新朝所載岩田法學士ノ法令此疑ハ一理アリマタ憲法モ貴族院令ノ形式的效力ヲ明言セスト雖憲法第三十四條及第三十五條ニヨリ其精神ヲ探究スルキハ貴族院令第十三條ハ憲法ノ精神ヲ示スモノト云フヘキナリ元來議會ノ組織ノ大要ハ之ヲ憲法中ニ規定スルノ例ナキニ拘ハラヌ我國ニテハ憲法第三十四條ニ貴族院ハ貴族院令ノ定ムル處ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織スト規定シ第三十五條ニハ衆議院ハ選舉法ノ定ムル處ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織スト規定シ以テ其組織ハ貴族院令及選舉法ヲ以テ定ムルコト、セリ併シ他國ニテモ憲法所載ノ事項ヲ

貴族院令  
第十三條  
ハ貴族院  
ノ議決ヲ  
スルヲ創  
スルヲ創  
スルヲ創

單ニ天皇ノ專斷ニ委シタルモノト信スルヲ得サルニヨリ選舉法ニ關シ衆議院ノ議決ヲ缺クヘカラサル如ク貴族院令ニ付テモ其直接關係ノ貴族院ノ議決ヲ必要トスルノ憲法ノ精神タルヤ疑ヲ容レズ貴族院令第十三條ハ只之ヲ明示シタルニ止ルノミ若シ貴族院令ノ改正ニ貴族院ノ議ヲ經ルハ憲法ノ所期ニアラスシテ單ニ貴族院令カ之ヲ創設シタルモノナルトキハ尙ホ選舉法中ニ本表ハ選舉區ノ人口ニ増減ヲ生スルモ少クトモ十箇年間ハ之ヲ更正セスノ規定カ立法上何等ノ效力ヲ有セサル如ク貴族院令第十三條モ國法上效力ナキモノナリト雖憲法ノ精神ニ出テタルニヨリ貴族院令第十三條ハ有效ノモノニシテ貴族院令ハ普通ノ勅令ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得サルナリ

第二 天皇ノ諮詢ニ應シテ華族ノ特權ニ關スル條規ヲ議決スルコト

此場合ハ諮詢ニ止ルカ故ニ天皇ハ貴族院ノ意思ニ反シテ華族ノ特權ニ關スル條規ヲ定ムルコトヲ得ルモノナリ

### 第十七節 議會ノ權能

告訴權

我國ニ於テハ國務大臣ヲ彈劾スルノ權ヲ各議院ニ附與セスト雖モ議會カ侮辱若クハ誹毀ヲ受ケタルトキハ之ヲ告訴シ得ルコトヲ認メタリ而シテ之ヲ認メタル法律ハ明治二十二年法律第二十八號議會並議員保護ノ件ナリ而シテ之ニヨルトキハ議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加スルモノトス併シ之ハ議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルモノナリ

### 第十八節 議院ノ權能

議院ハ左ニ列舉シタル事項ヲ爲スノ權能ヲ有ス

第一 君主ニ上奏ヲ爲スコト

(一) 上奏ノ事項ノ範圍 上奏トハ君主ニ對シテ議會ノ意思ヲ發表スルコトニテ明文ノ制限ナキカ爲メ如何ナル事項ニ付テモ上奏ヲ爲シ得ルモノト解釋スヘキナリ故ニ政事ニ關スルト否トヲ問ハス又既往ニ關スルト將來ニ關スルトヲ問ハス又單ニ議式上ノ奉答ヲ爲スト政府ノ過失ヲ列舉スル

上奏ノ範圍

トヲ問ハス又單ニ意見ヲ陳述スルト哀訴嘆願ヲ爲ストヲ問ハス凡テ上奏ヲ爲シ得ルモノナリ或ハ議會ノ職務ハ立法及ヒ豫算ノ範圍内ニ止マリ其事項ニ付テノ君主ニ上奏ヲ爲シ得ルモノニテ立法及ヒ豫算以外ノ事ニ關シテハ上奏ヲ爲スコトヲ得スト稱スル者アリト雖モ是レザクゼン憲法第一〇九條バイエルン憲法第七章第十九條ノ如キ議院ハ其權限事項ニ關シ共同ニ上奏ヲ爲スヲ得トノ明文ヲ有セサル國ニ於テハ成立セサルノ説ナリ

(二) 上奏案ノ發議 各院ニ於テ上奏ノ動議ヲ爲スニハ三十人以上ノ賛成者ヲ要スルモノナリ

(三) 上奏ノ手續 上奏ハ文書ヲ以テスルモノニシテ此文書ハ議長ヲ以テ總代ト爲シ謁見ヲ得テ奉呈スヘキモノナルモ君主故障アルトキハ宮内大臣ニマテ奉呈スヘキモノナリ  
普國憲法第八十一條ニハ各議院ハ國王ニ上奏スル權利ヲ有ストアルニヨリ此權利ニ對照シテ國王ハ其上奏ヲ受理スルノ義務ヲ有ストラバンド氏

ハ唱フト雖ホルンハツク氏ハ之レニ反シ上奏權トハ書面ヲ送ル自由ト全ク異ルトナシ各人カ他ヨリ來ル書面ヲ受取ルヘキ義務ナキト同シク國王モ上奏ヲ受理スル義務ナシ只憲法ニ權利ノ文字ヲ使ヒタルハ用語上當ヲ得サルモノナリト云ヘリ今其當否ヲ考フルニ議會及議院ハ權利ノ主體ナラサルニヨリ假令此場合ニ權利ノ文字ヲ用フト雖ホルンハツク氏ノ説ヲ以テ當ヲ得タルモノトナスナリ故ニ我憲法第四十九條ニ於テ權利ノ文字ヲ使用セズ管ニ上奏スルコトヲ得ト規定シタルハ用語上モ其理ヲ得タルモノナリ

又上奏ヲ受理シタル上ニ於テ天皇カ之ヲ全部採用スルト否ト或ハ一切ヲ採用シテ他ヲ排斥スルト否トハ全ク自由ナルモノニシテ此點ニ於テハ受理スルノ義務君主ニアリト主張スル論者ト雖同意スル所ナリ  
又憲法第四十九條ニハ憲法第四十條但書ノ如キ制限ナキニ拘ハラス上奏事件ノ採納ヲ得サルモノハ同一會期中再ヒ之ヲ上奏スルヲ得スト唱フルモノ(市村法學士憲法要論參照)アリト雖上奏事項ノ範圍ハ建議ノ範圍ト異リ廣汎ニシ

テ單ニ意見ノ陳述ニ止ラサルニヨリ如此キ制限ヲ有スルモノト強テ解釋スルノ必要ナシト信スルナリ

第二 奏上スルコト

上奏ト奏

奏上ノ文字ハ憲法ニ用ヒラル、コトナク議院法ニ於テ之ヲ使用セリ今上奏ト奏上ト異ナルノ點ヲ示ストキハ

(一) 上奏スル事項ノ範圍ハ議會ノ意思ヲ君主ニ發表スルニ付キ無制限ナルコト既ニ述ヘタルカ如シト雖モ奏上ハ左ノ場合ニ於テノミ使用セラル、モノナリ

(イ) 政府提出ノ議案ヲ否決シタルトキ

(ロ) 總テノ議案ニ付キ之ヲ可決シタルトキ此場合ニハ最後ニ決議シタル

議院ヨリ奏上スルモノナリ

(ハ) 衆議院ニ於テ議長副議長ノ候補者ヲ選定シタルトキ

(ニ) 上奏ハ議院ノ意見ノアル所ヲ述フルモノナルモ奏上ハ議事ノ結果ヲ奏聞スルニ在ルナリ

建議事項ノ範圍

第三 政府ニ建議ヲ爲スコト

(一) 建議事項ノ範圍 上奏事項ノ範圍ノ制限ナキコト既ニ述ヘタル如クナルカ建議事項ノ範圍ハ然ラサルナリ其理由ハ憲法第四十條ニ兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付キ各其意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得トアルカ故ニ其他ノ事件トハ之ヲ廣ク總テノ事件ト解釋スヘキモノニ非スシテ法律ノ如ク議會ノ權限ニ屬スル事件トノミ解釋スヘク若シ之ヲ上奏ノ如ク其範圍ヲ廣ク解釋スルトキハ特ニ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付ト記載シタル文字ハ無意義ニ歸スレハナリ

(二) 建議ノ手續 議院ニ於ケル建議案ノ發議ハ三十人以上ノ賛成者アルニ非サレハ之ヲ議題ト爲スコトヲ得サルモノトス而シテ之ヲ議決シタル以上ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ提出スヘキモノナリ

(三) 上奏ト建議ト異ナルノ點  
(イ) 上奏ハ君主ニ直接ニ提出スルモノナルモ建議ハ政府ヲ通シテ君主ニ之ヲ通スルモノナリ



(ロ) 建議ニ付テハ憲法第四十條ニ採納セラレサルモノハ同一會期中ニ再ヒ之ヲ爲スコトヲ得ストノ制限アルモ上奏ヲ爲スニ付テハ此ノ如キ制限ナキモノナリ

(四) 法律ニ關シテ建議ヲ許スノ理由 議院ハ法律案ノ發案ヲ憲法第三十八條ニ依リテ自ラ爲スコトヲ得ルニ由リ之ニ關シテ建議ヲ許スノ必要ナキカ如シト雖モ法律案ノ種類ニ依リテハ議院自ラ起草スルヨリハ實務ニ當ル所ノ政府ヲシテ起草セシムルヲ便宜ト爲スコトアレハナリ是ニ於テ議院ノ建議ニ基キテ政府ハ法律案ヲ提出シタルトキ其建議ヲ爲シタル議院ハ之ヲ否決スルコトヲ得ルモノナリヤ否ヤニ付キ疑ヲ抱ク者アリト雖モ固ヨリ其議院ハ自己ノ建議ニ由リテ拘束セラレモノニ非サルニ由リ之ヲ否決スルコト自由ナルモノト謂フヘシ若シ事情ノ變動ニ由リテ先キニ建議シタル時必要ト認メタルモ後ニ之ヲ不要ト考フルコトアレハナリ

(五) 憲法第四十條ニ但書ヲ設ケタルノ理由 憲法第四十條ノ但書ニ依リテ採納セラレサル建議事項ニ關シテハ同一會期中ニ再ヒ建議ヲ爲スコトヲ

建議ニ基  
キテ法律  
案ヲ否決  
シ得ルヤ

建議ノ制  
限

君主國  
議院ニ  
テ發案  
權アリ  
トスル  
事ニ非  
ラズ

得スト定メタルハ無用ノ手續ヲ繰返サ、ラシムルカ爲メナリ併シ兩院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ト同一ノ事項ニ關シ同一ノ會期中ニ建議ヲ爲スハ憲法ノ禁セサル所ナルニ由リ之ニ付テハ爲スコトヲ得ルモノト云フヘシ

#### 第四 法律ノ發案ヲ爲スコト

法律ノ發案權ハ君主ニ專屬シタルモノナルシカ漸次建議ニモ之ヲ認ムルコト、爲リタルモノナリ我憲法第三十九條ニモ各々法律案ヲ提出スルコトヲ得ト規定シテ議院ノ發案權ヲ明ニ認メタリ然ルニ二三ノ學者中今日尙ホ議院ニ發案權ヲ認ムルハ君主國ニ於テ許スヘキコトニ非スト唱フル者アリト雖モ法律ハ議決ニ由リテ成立スルニアラスシテ裁可ニ依リテ完成スルモノナルカ故ニ議院ニ發案權ヲ與フルモ少シモ君主國ノ觀念ト牴觸セサルモノト云フヘシ又我國ニ於テハ議院ノ法律發案權ニ對シ少シモ制限ヲ加ヘサルモ獨乙内二三ノ國ニテハ議院ノ發案權ニツキ制限ヲ設ケタル例ナキニ非サルナリ又此議院ノ發案ト區別スヘキハ議員ノ發議ナリ抑議員ノ發議ハ其院

ヲ通過シタルトキ始メテ議院ノ發案ト爲ルモノニシテ一旦議院ノ發案シタル議案ハ之ヲ撤回スルコトヲ得サルモ議員ノ發議ハ之ヲ撤回スルコトヲ妨ケサルモノトス終リニ注意スヘキハ我憲法第三十九條中ニ議院ノ發案ニ關シ一ノ制限アルコトニテ即チ兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得サルモノナリ

併シ北米合衆國ニテハ三權分立ノ主義ヲ嚴守シ立法權ハ議會ニ專屬ストノ原則ヨリシテ發案スルモノハ議院ノミニ止リ政府ハ發案權ヲ有セサルナリ

### 第五 請願ヲ受理スルコト

憲法第三十條ニ臣民ノ請願ノ自由ヲ認メ而シテ議院法第六十二條乃至第七十一條ニ於テ議院ニ對スル請願ノ手續ヲ定メタルニ由リ議院ハ其手續ヲ經テ提起シタル請願書ヲ受理スヘキモノニテ之ヲ拒ムコトヲ得サルナリ併シ左ニ記載シタル請願書ハ此限ニ在ラス

- 一 憲法ヲ變更スルノ請願
- 二 皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヒ政府又ハ議院ニ對シテ侮辱ノ語ヲ用ヒタル

受理スヘ  
カラサル  
請願

### 請願

- 三 司法裁判行政裁判ニ關スル請願
- 四 法人以外ノ者ヨリ總代ノ名義ニテ出シタル請願
- 五 哀願ノ體式ヲ用ヒサル請願
- 六 議員ノ紹介ヲ經サル請願

右列記以外ノ請願ハ議院ニ於テ必ス受理スヘク之ヲ受理シタルトキハ之ヲ請願委員ニ付シテ審査セシムヘキモノトス其請願委員カ請願書ヲ以テ規定ニ合セスト認ムルトキハ議長ハ紹介シタル議員ヲ經テ之ヲ還付スヘク反之採用スヘキモノト認ムルトキハ請願委員其表ヲ製シ其要領ヲ記載シ每週一回議院ニ報告スヘキモノナリ若シ請願委員ノ報告ニ因ル請求アルカ若クハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其請願事件ヲ會議ニ付シ其請願ノ採用スヘキモノト議定シタルトキハ其請願書ニ意見書ヲ付シ之ヲ政府ニ送附シテ以テ報告ヲ求ムルコトヲ得ルナリ

### 第六 内部ノ整理ニ必要ナル規則ヲ定ムルコト

此權能ハ憲法第五十一條ノ認ムルモノニシテ現今存在スル所貴族院規則、衆議院規則、貴族院豫算案議定細則等其實例ナリ此等ノ規則ノ效力ヲ一言スレ

議院内部ノ規則ノ一形式的的效力及實質的效力

- ハ
- (一) 法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス或ハ憲法第五十一條ニ依ル規則ハ憲法ノ認メラレタル結果トシテ制定セラレタルモノナルカ故ニ憲法及ヒ議院法ニ牴觸スルコトヲ得サルモ他ノ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ルモノニテ普通ノ法律命令ヲ以テ此規則ニ反對シタル規定ヲ設クルコトヲ得スト説ク者アリト雖モ此説ハ誤レリ蓋シ特別ノ明文アル場合ノ外國内ノ團體若クハ機關ノ制定シタル規則ハ統治者ヨリ出ル所ノ法令ニ牴觸スルコトヲ得サルモノナレハナリ
- (二) 此規則ハ院ノ内部ニ於テノミ效力ヲ有シ其效力院外ニ及フコトナシ院内ニテハ管ニ議員ノミナラス傍聽人モ支配セラレ又國務大臣政府委員モ其適用ヲ受クルモノナリ併シ國務大臣及ヒ政府委員ニ對シテハ此規則ノ適用ノ爲メ憲法第五十四條ノ規定ヲ犯スコトヲ得サルハ勿論ナリ然レ

- ニボルンハツク氏ハ此規則ハ議員ノミニ及フモノニシテ大臣政府委員ニ及フモノニアラス故ニ大臣政府委員ノ發言ニシテ議場ノ秩序ヲ紊ルコトアルモ議長之ヲ制止スルコトヲ得ス只タ上奏シテ勅命ヲ俟ツニ止ルノミト論シタリト雖此説ハ不當ナリ何トナレハ此説ニ從フトキハ議場ノ秩序ヲ保チ議事ノ整理ヲ持スルヲ得ザレハナリ
- (二) 此規則ハ之ヲ定メタル議院ノミナラス之ヲ要求セサル以上ハ次ノ議院ニモ當然效力ヲ及ホスナリ

第七 調査ヲナスコト

英佛諸國ニテハ議會ニテ往々調査委員ヲ設ケ其委員ハ證人ヲ召喚シ官廳ト照會往復スルヲ得又普國憲法第八十二條ニモ各議員ハ事實調査ノ爲報告委員ヲ命スルノ權ヲ有ス(普國ニテハ委員カ證人ヲ召喚シ官廳ト往復照會シ得ルヤ否ニツキヲハ異説アリ)ト規定セリ然ルニ我國ニテハ如此キ調査委員ヲ設クルコトニ關シ憲法ノ規定ナク又議院法第七十二條ニ各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス同第七十三條ニハ各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召

調査權ノ範圍

喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス同第七十五條ニ各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得スト規定シ議會ハ直接ニ人民及官廳並ニ地方議會ト交渉スルコトヲ禁シ只第七十四條ニ各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其求ニ應スヘシトノ規定ヲ設ケタルニ止ルノミ故ニ議院ノ調査權ノ範圍ハ甚タ狹キモノナリ

第八 院內ノ秩序ヲ保ツコト

議會ノ權限ノ獨立ヲ保タシムルカ爲メニ各議院內ノ警察權ハ之ヲ議院ニ有セシムルコト、爲セシナリ

(一) 警察權ノ行使者 議院法第八十五條ニ依リ議院內ノ警察權ハ議長ヲ之行フモノナリ

(二) 警察ノ執行機關 執行機關トシテ守衛及ヒ警察官吏之ニ當ルモノトス

而シテ議長ハ警察權ヲ行フモノナルカ故ニ此守衛及ヒ警察官吏ハ議長ノ指揮命令ヲ受ケテ警察事務ヲ執行スルナリ而シテ其守衛及ヒ警察官吏ノ

警察機關

事務ノ分擔ハ守衛ハ議場內ノ警察事務ヲ分擔シ警察官吏ハ議場外ノ警察事務ヲ擔任スルニ止マリ唯議長ノ命アリタル場合ニ於テノミ警察官吏モ議場內ノ事務ヲ行フコトアルノミ又守衛ハ各議院ニ於テ院內ノ警察ヲ掌ルカ爲メ特ニ任命セラル、モノニテ警察官吏ハ議院法第八十六條ニ依リ政府ヨリ派遣セラル、モノナリ

第九 議員ノ資格審査及ヒ選舉訴訟ノ判決ヲ爲スコト

(一) 貴族院 貴族院ハ貴族院令第九條ニ依リ資格ヲ審査スルコト、議員ノ選舉訴訟ヲ判決スルノ權ヲ有スルモ衆議院ハ唯議員ノ資格ヲ審査シ得ルニ止マリ議員ノ選舉訴訟ヲ判決スルハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セシメラレタリ蓋シ衆議院ヲシテ選舉ニ關スル訴訟ヲ判決セシムルトキハ黨派ノ關係ヨリシテ公平ナル結果ヲ望ムコトヲ得サレハナリ

(イ) 選舉訴訟 貴族院令第九條ニ依リ選舉訴訟ノ判決ニ關スル規則ハ貴族院ニ於テ規定スヘキモノナリト雖モ未タ規定セラレサルカ爲メ貴族院ニ於テ其規則ヲ制定スルマテ明治二十三年勅令第二百二十一號貴族

衆議院選舉訴訟ノ管轄ニ屬ス

院議員資格及ヒ選舉訴訟判決規則ハ今尙ホ效力ヲ有スルモノトセラ  
ルナリ而シテ此選舉訴訟ヲ判決スルノ手續ハ先ツ伯子男爵議員ノ各選  
舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選者ヨリ當選議員ヲ被告トシテ貴族院開  
會ノ後十日以内ニ訴訟ヲ提起スヘキモノニテ若シ貴族院カ院議ヲ以テ  
議員ノ當選又ハ資格ヲ不當ト判決シタルトキハ議長ハ其出席ヲ停止シ  
テ奏上スルモノトス併シ被告ハ其訴ヲ受クルモ判決ヲ受クルマテハ議  
場ニ出席シ且發言スルノ權ヲ失ハサルモノナリ

(ロ)

議員ノ資格審査 貴族院ニ於ケル選舉ノ訴訟ト資格ノ審査トハ其ノ  
資格審査委員ノ調査ヲ共ニ經ルコト及ヒ其他ノ手續ニ於テモ大體同シ  
ト雖モ此兩者ノ間ニハ左ノ差異存スルモノトス

甲 選舉訴訟ノ場合ニハ選舉人原告タルモ資格審査ノ場合ニハ議員ヨ  
リ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ

乙 選舉訴訟ノ場合ニハ出訴期限アルモ資格審査ノ場合ニハ之ナキナ  
リ

資格審査  
ノ範圍

丙 選舉訴訟ハ何人カ正當ナル當選者タルヘキヤ否ヤヲ決スルモノナ  
リト雖モ資格審査ニ於テハ其議員カ被選人タルノ資格要件ヲ具フル  
ヤ否ヤヲ見ルモノナリ

丁 選舉訴訟ノ場合ニハ審査ノ結果刑法ニ觸ル、コトヲ發見スルトキ  
ハ司法大臣ニ通知スルモ資格審査ノ場合ニハ唯其資格ト爲ルヘキ必  
要條件ノ有無ヲ審査スルニ止マリ刑事事件ニ關係セス隨テ司法大臣  
ニ通知スルノ義務ナキナリ

(二)

衆議院ノ資格審査 衆議院ノ資格審査ニ付テハ衆議院ニ於テハ資格審  
査ヲ爲スニ當リ其議員カ被選資格ヲ有スル者ナリヤ否ヤヲ審査スルニ止  
マルカ或ハ選舉ノ適法ナリヤ否ヤヲ併セテ調査スルコトヲ得ルヤ否ヤハ  
一ノ疑問ニ屬スルモノナリ之ニ關シリヨンネ氏ノ如キハ普魯西憲法第七  
十八條ノ資格ノ審査中ニハ選舉ノ適法ナリシヤ否ヤヲ調査スルコトマテ  
モ含ムモノナリト唱ヘタリト雖モアルンド氏ハ之ニ反シテ資格ノ審査中  
ニハ選舉管理者ノ行爲ノ當否マテモ審査スルコトハ含マサルモノナリト

曰ヘリ此問題ニ付テハ我國ニテハ司法裁判所ニ選舉ノ訴訟ヲ判決スルノ權ヲ屬セシメタルノ點ヨリ考フルトキハアルンド氏ノ說當ヲ得タルモノト信スルナリ

尙參考ノ爲此問題ニ關シ衆議院ニ於テ決議ヲ爲シタル事例ヲ左ニ掲クレハ

第一回議會ニ於テ明治二十三年十二月二日武石敬治君外一名ヨリ二田是儀君ノ資格ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲シ之ヲ委員ニ付託シタルニ同委員會ハ審査ノ上左ノ理由ヲ以テ本院ニ於テ審査スヘキモノニアラストノ報告ヲ爲シ二十四年二月二十八日議院之ヲ可決シタリ

第一 議員ノ資格ハ議員ノ「クオリフィケーション」即チ議員ノ具フヘキ必要ノ條件ヲ稱スルモノニシテ議員選舉ノ手續ヲ包含スルモノニアラサルコトハ政府ニ於テ憲法成文ト同時ニ公ニセラレタル英譯憲法中本條ノ資格ナル文字ニ「フオリフィケーション」ナル英語ヲ用ヒタルヲ以テ知ルヘシ

資格審査  
ノ中ニハ  
選舉手續  
ノ審査ヲ  
含マス

第二 選舉ノ手續ハ司法ニ屬シテ裁判セシメ議院ハ單ニ議員ノ資格即チ

議員ノ具フヘキ必要ノ條件ヲ審査スルニ止マルコトハ彼ノ選舉ノ手續ニ關シテハ選舉法第二十六條第二十七條第五十二條第七十八條等ノ設ケアリテ或ハ始審裁判所或ハ控訴院ニ投票ノ手續又ハ效力ヲ判決セシメ判然立法司法ノ區別ヲ立テタルヨリ推測シ得ヘシ

第三 投票ノ有效無效ヲ審査セントスレハ勢ヒ其ノ事實ヲ求ムルカ爲メニ人民ヲ召喚シ又ハ議員ヲ派出シテ先ツ其ノ事實ノ眞偽ヲ審査セサルヘカラス然ルニ議院法第七十三條ニ「各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得スト」アリテ議院ハ其ノ手續ヲ盡ス能ハス是レ衆議院ハ其ノ議員タル資格ノ有無ヲ法律ニ據リ審査スルノ職權アルモ事實ニ據リ投票ノ有效無效ヲ審判定スルノ權限ナキ確證ナリ

第四 貴族院令第九條ニ「貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決スト」アリテ議員ノ資格ト選舉トハ判然タル區別アリ而シテ議院法第七十八條ニハ單ニ衆議院ニ於テ議院ノ資格ニ付云々トアリ然ラハ衆議

院ハ選舉ノ事ヲ判定スヘキ權限ナキコト明カナリ

第五 衆議院ニ其ノ議員ノ選舉手續ニ關スル判定權アリトセハ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則ノ如キ規定ナカルヘカラス然ルニ其ノ規定ナキハ其ノ權限ナキ一證ナリ

第六 選舉法第七十八條ニ當選訴訟ノ期限ヲ制限シテ當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内トセリ若シ選舉ノ有效無効ノコトヲ資格審査トシテ衆議院カ判定スルノ權限アリトスレハ何時ニテモ議院ヨリ異議ノ申立アルニ於テハ當選ノ有效無効ヲ判定シ得ヘキモノトナリ三十日ノ期限ハ實際冗文トナルヘシ立法者ノ立法ノ精神豈ニ如斯冗文ヲ設クルモノト解釋スルヲ得ンヤ若シ此ノ七十八條ヲ有效ナラシムル様解釋スレハ衆議院ニ於テ資格審査ヲ名トシ投票ノ有效無効ヲ判定スヘキ權限ナキモノトセサルヘカラス

第七 憲法議院法選舉法等ノ大體ヨリ解釋スレハ選舉ノ手續ヲ履行スルハ行政部内ニ屬シ選舉手續ノ有效無効ヲ判決スルハ司法部内ニ屬シ正

當ノ手續ヲ履ミ議員トナリタル後其ノ人ノ議員タル資格即チ身分ヲ具備スルヤ否及其ノ資格ヲ失ハサルヤ否ヲ審査スルノ權ハ議會其レ自身ニ屬シ三種各區分ヲ爲サルヘカラス而シテ選舉ノ手續即チ投票ノ有效無効ヲ判決スルハ其ノ性質司法ノ權内ニ屬スヘキモノナリ

第八 選舉ノ手續ニ付議院ト裁判所ト牴觸シタル場合ニ如何ナル手續ヲ履ムヘキヤノ規定ナシ今若シ同一ナル選舉ノ手續ニ付裁判所モ衆議院モ判定ノ權限アリトセハ雙方ノ意見牴觸スル場合ニ如何トモスル能ハス蓋シ如斯不都合ナル規定ヲ立法官ニ於テ設ケタルモノト解釋スヘカラス果シテ然ラハ選舉ノ手續及投票ノ效力等ニ付裁判所カ判定ノ權限アリトスレハ衆議院ハ其ノ判定ノ權限ナキヲ推測シ得ヘシ

第九 投票ノ有效無効ハ單ニ被選人タル議員ノ權利ノミニ關係スルモノト看做スヘカラス之ヲ投票シタル選舉人ノ選舉權ノ消長ニ影響スルコト大ナリ若シ衆議院ニ投票ノ有效無効ヲ判定スヘキ權限アリトスレハ衆議院ハ議員ノ外ニ於テ選舉人ノ權利ニ就キ裁判權ヲ有シ權利ヲ消長

シ得ヘキモノトナルヘシ衆議院カ院外人ノ權利ヲ裁判スルカ如キハ決シテ爲シ能ハサルナリ

此決議ハ條理明了大體ニ於テ當ヲ得タルモノナリ  
副島法學士ハ此衆議院ノ決議ニ對シ衆議院ハ其權限ヲ不法ヲ狹メタルコトヲ非難シテ曰ク議院法ニ所謂議員ノ資格トハ單ニ被選ノ資格ト云フトハ異ルモノナリ凡ソ資格トハ或地位ヲ有スルニ必要ナル條件ヲ云フ被選ノ資格トハ被選者ナル地位ニ必要ナル條件ヲ云ヒ議員ノ資格トハ議員タル地位ニ必要ナル條件ヲ云フ被選者タル地位ニ必要ナル條件トハ年齢及納稅額等ヲ云フ議員タル地位ニ必要ナル條件ノ中ニハ被選舉資格ヲ具備スル外ニ猶適法ノ手續ニテ選舉セラレタル事實ノ存在ヲモ含ムモノナリ假令被選ノ資格ヲ有スルモ適法ノ手續ニテ選舉セラレサル者ハ假ヘハ選舉セラレサル者又ハ多數ノ投票ヲ得サル者ハ議員タル地位ニ必要ナル條件ヲ備フルモノト云フコトヲ得ス故ニ衆議院ニ於テハ選舉ノ手續ニ關スルコトモ苟クモ議員タル地位ニ必要ナル條件ニ屬スルモノハ悉ク之ヲ審

資格ノ文字ノ意義

査シ得ヘシ云々ト併シ之ハ單ニ文字上ノ解釋ノ爭ヲ爲スモノニ過キササルモノニシテ制度ノ精神ヨリ考フルトキハ副島學士ノ說ニ同意スルヲ得サルナリ何トナレハ貴族院ノ選舉ニ關スル訴訟ハ貴族ニ於テ之ヲ處理シ衆議院ノ選舉訴訟ハ之ヲ司法裁判所ニ屬セシメタルヨリ見レハ衆議院ノ資格トハ讀テ字ノ如ク資格ノ有無ニ止ルモノニテ其選舉ノ手續ニ及フヘキニアラサルノミナラス衆議院ニテ何時ニテモ選舉ノ當否ヲ調査シ得ルトキハ出訴期限ヲ設ケタル規定ハ無意義ニ歸スレハナリ

是ヨリ衆議院ノ資格審査ノ手續ヲ一言スレハ議員ノ資格ニ付キ異議ヲ生シタルトキハ特ニ資格審査委員ヲ設ケテ之ヲ審査セシメ其委員ノ報告ニ基キテ議院ハ其資格ノ有無ヲ決スルモノトス併シ衆議院議員ハ資格ナキコトノ決議アルマテハ議場ニ列シ且發言スルノ權ヲ失ハサルモノニテ若シ其議員カ無資格者ト確定シタルトキハ議員ノ資格ハ當然消滅スルモノナリ

第十 議員ノ懲罰ヲ爲スコト

(一) 手續 本會議ニ於テ議員ヲ懲罰スルノ事件アリタルトキハ議長ハ其會



懲罰委員

- 議ヲ中止シ若クハ其犯人ヲ退場セシムルコトヲ得又委員會若クハ部會ニ於テ懲罰事件アリタルトキハ委員長及ヒ部長ハ其會長ヲ中止シ議長ニ報告シテ處分ヲ求ムルコトヲ得又議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ起スコトヲ得而シテ其動議ハ懲罰事件ノアリシ後三日内ニ提出スヘキモノトス仍ホ委員會若クハ部會ニ於テ委員長若クハ部長カ懲罰事件ト認メサル事件ニ就テモ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルコトヲ得ルナリ
- (二) 委員ノ審査 議院ヲ懲罰ニ付スヘシトノ動議決定シタルトキハ其調査ヲ懲罰委員ニ命ス其懲罰委員ハ事件ノ生スル毎ニ設ラル、モノナリ又議長ノ制止又ハ取消ニ從ハサル者ハ議長之ヲ制止スルノ外猶ホ懲罰事件トシテ懲罰委員ニ之ヲ付スルコトヲ得ルモノトス懲罰委員ハ其調査ヲ爲スニ方リ議長ヲ經山シテ本人及ヒ關係院員ヲ召喚訊問スルコトヲ得ルモノニシテ其委員ノ報告アリタルトキハ秘密會議ヲ以テ懲罰スヘキヤ否ヤヲ決スルモノナリ
- (三) 懲罰ノ種類

懲罰ノ方

- (イ) 公開シタル議場ニテ譴責スルコト
- (ロ) 公開シタル議場ニテ適當ノ謝辭ヲ述ヘシムルコト 謝辭ヲ述ヘシメントスルトキハ懲罰委員ハ謝辭ノ要領ヲ起草シ其報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘキモノナリ
- (ハ) 一定ノ時日間出席ヲ停止スルコト 此期間ハ貴衆兩院ノ間ニ區別アリ貴族院ニ於テハ一箇月以内衆議院ニ於テハ二週間以内其出席ヲ停止スルコトヲ得仍ホ停止ノ效果トシテハ議員ニシテ委員ナルトキハ委員ノ職ハ當然解任セラレ其他議院法第九十九條ニ當ル場合ニハ上奏シテ勅裁ヲ得ルマテ出席停止ヲ爲スコトアルナリ併シ是レ直接懲罰ノ爲メニ非サルナリ
- (ニ) 除名 貴族院ニ於テハ議員ヲ除名スルニ過半數ノ決議ヲ以テ足レルモ衆議院ニ於テハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ要スルモノニテ除名ノ結果ハ貴族院ノ議員ニ付テハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員ト爲ルコト能ハサルノ結果ヲ生スルモ衆議院ノ議員ハ除名ノ懲罰ヲ受クルモ再

ト選出セラル、コトヲ妨ケス又其再選スルコトヲ衆議院ニ於テ拒ムコトヲ得サルナリ

第十一 議員ノ請暇及辭職ヲ許可スルコト

請暇ハ一週間ヲ超エサルトキ若クハ一週間ヲ超ユルモ休會中ノ時ハ議院ニ於テ許可スルヲ得ルモノナリト雖モ一週間ヲ超ユル請暇ニ付テハ院議ヲ以テ之ヲ許可スルモノナリ又衆議院議員ノ辭職ハ議院法第八十三條ニ依リ衆議院ノ決議ヲ以テ之ヲ許可スルモノナルモ貴族院議員ニ付テハ其辭職ハ勅許ヲ要スルモノナリ

第十二 議員ノ逮捕ニ付キ許諾ヲ與フルコト

憲法第五十三條ニ依リ會期中ニ議員ヲ逮捕スルトキハ議院ノ許諾ヲ要スルモノナリ許諾ヲ與フルノ標準ニ付テ別ニ明文ナキカ爲メ疑問ヲ生スト雖モ右第五十三條ノ目的ハ政府カ故ナクシテ議員ヲ逮捕シ以テ議會ニ干涉スルコトヲ拒ムニ在ルニ由リ如此キ嫌疑ナキ場合ニ於テハ必ス議院ハ其逮捕ニ付キ許諾ヲ與フヘキモノトス故ニ議院ハ單ニ逮捕セラル、所ノ議員ノ無罪

議員ノ逮捕ニ關シテ許諾ヲ與フル標準

ナルヘキコトヲ理由トシテ逮捕ヲ拒ムコトヲ得サルナリ

第十九節 議會ニ對スル政府ノ關係

第一 國務大臣及ヒ政府委員ハ憲法第五十四條ニ依リ何時ニテモ又幾回ニテ

モ各議院ニ出席シ且發言スルコトヲ得ルモノトス併シ議員タラサル以上ハ單ニ發言スルヲ得ルニ止マリテ會議ノ評議ニ與ルコトヲ得サルハ勿論ナリ又議場内ノ秩序ハ議長ノ職權トシテ之ヲ維持スルモノナルニ由リ國務大臣及ヒ政府委員モ發言セントスルトキハ其發言ノ許可ヲ議長ニ請ハサルヘカラスト雖モ國務大臣及ヒ政府委員ハ憲法第五十四條ニ依リテ發言ノ自由ヲ認メラレタルニ由リ院長ハ何時ニテモ之ヲ許可スヘキモノトス併シ發言ニ付テ一ノ制限アリ即チ他ノ議員ノ發言ヲ妨害スルヲ得サルコト是ナリ又タ國務大臣及ヒ政府委員ハ會ニ本會議ニ於テ出席發言ノ自由ヲ有スルノミナラス委員會及ヒ兩院ノ協議會ニ出席シ且ツ發言スルノ自由ヲ有シ又秘密會議ニモ出席スルコトヲ得ルナリ此國務大臣ノ出席ノ自由ハ北米合衆國ニテ

國務大臣及政府委員ノ發言

國務大臣  
及政府  
議事日程  
如何問題  
ト拘ハス  
得シラス  
發言ハ

國務大臣  
及政府委員  
之ヲ懲罰  
シ得ルヤ

ハ三權分立主義ノ結果トシテ禁セラレ又英國ニテハ大臣ハ必ス議員タラサルヘカラサルノ結果其不必要ナルカ爲認メラレサルナリ

此國務大臣及ヒ政府委員ノ發言ニ關シ實際問題トシテ此等ノ者ハ議事日程ノ問題如何ニ拘ハラス發言スルコトヲ得ルヤ又討論終決ノ動議可決シタル後發言スルコトヲ得ルモノナリヤノ疑問生シタルコトアリト雖モ此第一ノ問題ニ付テハ積極的ニ答フヘク第二ノ問題ニ付テハ消極的ニ答フヘキモノナリ

終ニ國務大臣及ヒ政府委員カ議事規則ニ違背シ又ハ議長ノ命令ニ違背シタルトキハ之ヲ懲罰ニ付スルコトヲ得ルヤ否ヤト言フニ議長ノ議場ノ秩序ヲ維持スルノ權ハ政府委員及ヒ國務大臣ニ及フモ議院ノ懲罰權ハ國務大臣及ヒ政府委員ニ及ハサルモノトス而シテゲルバリーヨンジユルツエヰイーランドト諸氏ノ多數ノ學者モ此點ニ於テハ一致スルモノナリ

第二 國務大臣及ヒ政府委員ハ議院法第九十條ニ依リ議場ノ秩序ヲ紊ル者アル場合ニ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第三 國務大臣及ヒ政府委員ハ左ノ場合ニ必ス報告ヲ受クヘキモノトス

- (一) 常任又ハ特別委員會ヲ開クトキハ毎回委員長ヨリ其主任ノ國務大臣及ヒ政府委員ニ報告スヘキモノナリ(議院法第四六條)
- (二) 議事日程及ヒ議事ニ關スル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及ヒ政府委員ニ送付スヘキモノナリ(議院法第四七條)

第四 憲法第六十七條ニ列記シタル國家ノ歲出ヲ廢除削減スルトキハ政府ノ同意ヲ要スルナリ

第五 議事日程ノ變更ニ對シ政府ハ拒否スルノ權ヲ有ス  
議事日程ハ政府提出ノ議案ヲ先ニスヘキモノナリト雖モ他ノ議事ノ緊急ノ場合ニハ順序ノ變更ヲ政府ニ請求スルコトヲ得政府ハ之ニ對シ同意又ハ不同意ヲ表スルノ權ヲ有ス(議院法第二六條)

第六 政府ハ議案ノ提出修正及ヒ撤回ヲ爲スコトヲ得  
政府ハ議案ヲ提出スルコトヲ得ルノミナラス何時ニテモ已ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ之ヲ撤回スルコトヲ得ルモノトス(議院法第三〇條)

第七 政府ハ秘密會ヲ請求スルヲ得

何レノ國ニ於テモ秘密會ト爲スコトハ議院ヲ以テ決スルモノナリト雖モ我國ニテハ政府ヨリ請求ヲ受ケタルトキハ必ス公開ヲ停ムルコトハ爲セリ(憲法第四八條議院法第三七條)

第二十節 議院ノ議事ノ手續

第一款 議案

第一 發案

法律案豫算案其他兩院ノ協贊ヲ要スルモノハ勿論貴族院令ノ改正案ノ如キ一院ノ決議ヲ要スルモノモ亦議案タルモノトス併シ議案ハ議決ノ目的物ナルカ故ニ已ニ確定ノ議決ヲ經タル以上ハ之ヲ議案ト稱セサルナリ議案ノ中兩議院ニ發案權ノ屬スルモノハ法律案ニシテ是憲法第三十八條ニ明言スル所ナルモ其ノ他ノモノニ付テハ明規ナキニヨリ其ノ結果總テ政府ヨリ發案スヘキモノト解釋スヘキナリ議院ニ於ケル發案ノ手續ハ發案ノ前ニ議案ノ

法律案以外ノ發案ハ議院ニ得ス

發議ヲ要スルモノニテ其議案ヲ發議スルニハ二十人以上ノ贊成者アルヲ必要トスルナリ而シテ此發議セラレタル議案カ其院ニ於テ可決シ他院ニ移サレタルトキ始メテ議院ノ發案ト爲ルモノナリ(議院法第二九條)

第二款 議案ノ撤回

政府議案ヲ撤回スルコトニ付テハ明言アルモ議院ヨリ提出シタル議案ニ付テハ何等ノ明文ナキニ由リ之ヲ撤回シ得サルモノト解釋スヘキナリ蓋シ已ニ他院ノ院議ニ上リタル議案ヲ發議シタル議院カ自由ニ撤回シ得ルコトハ明文ヲ俟タサルヘカラサルコトナレハナリ

第二款 議事日程

各院ノ議長ハ議事日程ヲ定メ議院ニ報告スヘキモノトス而シテ日程ノ順序ヲ定ムルニハ政府提出ノ議案ヲ先ニシ次テ他院ヨリ提出シタル議案ヲ記載スヘキモノナリ若シ他ノ緊急事件ノ爲メ日程ヲ變更スルノ動議アリタルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ナリト認ムルモノアルトキハ討論ヲ用ヒス議院ノ決議ヲ以

議事日程  
ニ記載ス  
ルヲ要セ  
サルモノ

テ之ヲ變更スルコトヲ得ルナリ  
又議事日程ニ記載スルコトヲ要セサルモノハ左ノ如シ

- 一 勅語ニ對スル奉答
- 二 天機伺
- 三 慶賀
- 四 吊慰
- 五 請暇
- 六 辭職
- 七 辭任及補缺
- 八 委員ノ退席
- 九 協議委員ノ選定其他決議ヲ要セサル事項

### 第三款 委員會

委員會ヲ  
的股クル目

委員會トハ或特定ノ事項ヲ審查セシムル爲特定ノ人ヨリ組織セラル、本會議

ノ豫備機關ニシテ之ヲ設置スルノ目的ハ要スルニ

- (一) 議案ヲ丁重慎重ニ調査セシムルコト
- (二) 少人數ノモノヲシテ下調ヲナサシメ以テ議決ノ經過ヲ敏活ナラシムルコトノニ外ナラサルナリ

#### 第一 種類

- (一) 全院委員會 英米二國及ヒ埃國ニ其例アルモノニシテ我全院委員會ノ制ハ蓋シ埃國ノ例ニ倣ヒタルモノナリ之ハ議員ノ全數ヲ以テ委員トナスモノニテ特ニ委員會トナスノ必要ヲ認ルコトナシ只之ヲ認ルノ結果ハ議長ニ休憩時間ヲ與ヘテ全院委員長ヲシテ之ニ代ラシムルノミ
- (二) 常任委員會 每會期ノ初メ之ヲ無記名ニテ選任スルモノニテ一會期中在任スルモノナリ之後ノ特別委員ト異ル點ナリ此常任委員ハ貴族院ニアリテハ資格審查委員、豫算委員、決算委員、懲罰委員、請願委員ノ五者ニテ衆議院ニテハ豫算委員、決算委員、懲罰委員、請願委員ノ四者ナリ
- (三) 特別委員會 一事件ヲ審查スル爲ニ特ニ設クル委員ナリ之モ無記名連

全院委員  
會ノ要否

記ニテ選舉セラレ、モノナレトモ議長ノ指名ニヨリ多ク定メラル、ナリ  
總テノ議案ニ對シ必ス委員ヲ設クルノ必要ナシト雖議院法第二十八條ニ  
政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得  
ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラスト定メ  
ラレタルニヨリ政府提出ノ議案ハ必ス議員ノ手ニ付スヘクマタ貴族院提  
出ノ議案モ衆議院ニテハ委員ヲ經テ決スルヲ通則トナス之特別委員ノ欠  
クヘカラサル所以ナリ

### 第二 委員長

全委員長ハ議會開會ノ始各院ニテ會期毎ニ無記名選舉スルモノニテ他ノ  
委員長ハ各委員會ニテ會期ノ初ニ互選スルモノナリ而シテ委員長ハ會議ノ  
日時ヲ指定シ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持シ且委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報  
告スルモノトス(佛獨塊ニテハ特ニ報告委員ヲ設ク)併シ三分ノ一以上ノ同意  
アル意見ニ付テハ少數者ノ意見トシテ之ヲ少數者ヨリ報告シ得ルモノナリ  
又委員會ニテハ無記名投票ヲ以テ一名又ハ數名ノ理事ヲ互選シ委員會議錄

少數者ノ  
意見

及其他ノ文書ノ事ヲ掌ラシムルモノニテ委員長故障アルトキハ理事之ヲ代  
理スヘキナリ

委員長理事共ニ故障アリテ委員會ニ出席スルヲ得サルトキハ委員ハ其決議  
ニ依リ委員會ノ一人ヲ推シテ委員長代理ト爲シ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコト  
ヲ得ルナリ

### 第三 審査手續

(一) 議事ノ定足數 全院委員會ヲ開クニハ三分ノ一以上ノ委員ノ出席ヲ要  
シ他ノ委員會ヲ開クニハ半數以上ノ出席ヲ要シ而シテ出席委員ノ過半數  
ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決スルナリ(英國ニテハ委  
員長他ノ委員ト均ク表決ニ加ハリ可否同數ナルトキ否決シタルモノトス)  
(二) 公開 委員會ハ總テ傍聽ヲ禁スルモ全院委員會ノミハ傍聽禁止ノ明文  
ナキニヨリ公開ノ原則ニ從ヒ傍聽ヲ許スモノナリ

### 第四 委員會ノ繼續

瓦天堡ニテハ閉會中當然委員ヲ設置スルモ我國ニテハ議院法第二十五條ニ

ヨリ政府ノ要求又ハ其同意アル時ニ限り議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審查繼續セシメ得而シテ此委員ニハ五圓以下ノ手當ヲ與フルヲ得ルナリ

### 第四款 定足數

議事ヲナスニ一定ノ議員ノ出席ヲ要ス此數ヲ定足數ト云フ併シ此定足數ヲ設クルノ理由ニ至リテハ二説アリ

- (一) 總議員ノ出席ハ望ムヘカラサルニヨリ可成の多數ノ出席アルヲ可トス之管ニ立憲代議ノ主旨ニ適フノミナラス若シ定足數ヲ低クセハ少數議員ノ專斷ニ對シ之ヲ防禦スルノ途ナキヲ以テナリ
- (二) 議會ノ議事ノ進行ヲ迅速ニシ且職務ヲ正實ニ盡サシムル爲ナリ  
右ノ二理由ノ根據ノ異同ニヨリ可成多數ヲ定足數トスル制度ト少數ヲ定足數トナスモノトニ分タルナリ而シテ多クノ國ハ多數主義ヲ執ルモ英國ハ上院三名以上下院四十名以上ノ少數定足數主義ヲ採ルモノナリ
- (一) 過半數ノ出席ヲ定足數トナスモノ 普下院佛、白、和、伊、西、葡、丁、北米、普ノ上院

定足數  
由設クル理

定足數  
法律ノ議  
員數ヲ基  
礎トシテ  
計算ス

ニテハ六十名ノ出席ヲ以テ足レリトス

- (二) 三分ノ二以上ノ出席ヲ定足數トナスモノ 那威及北米並ニ獨乙ノ一部
  - (三) 三分ノ一以上ノ出席ヲ定足數トナスモノ 我日本
- 併シ定足數ハ會議ヲ開クニ必要ナリトナスモノト議決ヲナスニ必要ナルモノトナスモノトアリ而シテ我國ニテハ憲法第四十六條ニヨリ三分ノ一以上ノ出席ハ議事ヲ開クニモ議決ヲ爲スニモ必要ナルモノトセラレタリ又定足數ノ基礎タル總議員トハ法定ノ議員數ナルヤ或ハ有效選出議員ナルヤニツキ疑アリト雖後段ニ決スルトキハ甚タ少數ノ議員ヲ以テ議決ヲ爲スコトアルノ結果ヲ生スルニヨリ之ハ法定ノ總員ヲ基礎トシテ定足數ヲ算出スヘキモノト考フヘキナリ

### 第五款 決議

決議トハ議會ノ意思ヲ決スルコトニテ其議會トハ多數ノ議員ヨリ成レルカ故ニ總議員ノ意思ノ一致アルニ非レハ議會ノ意思ヲ見ルコトヲ得サルナリ併シ

人面ノ異ル如ク各議員ノ意見ニ異同アルヲ免レサルコトニテ若シ總議員ノ意思一致セサレハ議會ノ決議ナシトスルトキハ畢竟決議ヲ見ル能ハサルニ至ルヘシ故ニ何レノ國ニテモ多數決ニヨリテ決議スルコト、セリ併シ多數決ニ左ノ種類アリ

- (一) 四分ノ三以上ノ多數決
  - (二) 三分ノ二以上ノ多數決
  - (三) 比較多數決
  - (四) 過半数決
- 我國憲法改正ノ議事ニ就テハ(二)ヲ採リ通常ノ議事ニ就テハ(四)ヲ採ルモノニテ又此過半数主義ヲ採ル國多キナリ併シ此主義ヲ採ル國ニテハ可否同數ナルトキ如何ニ決スヘキヤニツキテハ左ノ三種類ニ分タルモノナリ
- (一) 否決主義
  - (二) 決裁權ニヨル主義
  - (イ) 君主ニ決裁權ヲ與フルモノ

多數決

議長ニ與テ決裁權ノ有ル可

- (ロ) 議長ニ決裁權ヲ與フルモノ
- (三) 折衷主義 之ヲ採ルハヘツセン國ニシテ同國ニテハ政府提出案ハ可決其他ノ議案ニ就テハ現行制度維持ニ決スルモノナリ
- 而シテ我國ハ(二)ノ主義ニヨルモノニテ英米兩國ノ下院マタ然リト雖理論上(一)ノ否決主義ヲ可トスルモノトス何トナレハ過半数主義ハ不得已モノニテ之レニ議長ノ決裁權ヲ認ルハ一層正理ニ遠サカルノミナラス議長ヲシテ公平ヲ保タシムル所以ニアラサレハナリ之佛獨及獨聯邦諸國並ニ白ニテ(一)ノ否決主義ヲ採ル所以ナラン歟

### 第六款 讀會

佛、白、和、西、葡ノ如キ二讀會制ヲ取ル國ナキニアラスト雖多クノ國ハ三讀會制ヲ採リ我國モ議院法第二十七條ニヨリ三讀會制ヲ採ルモノトス而シテ第一讀會トハ辯明質問ヲ許スモノニテ委員ニ付託シタルトキハ其報告後然ラサルトキハ直ニ二讀會ヲ開クヤ否ヲ決スルナリ又第二讀會トハ逐條ヲ朗讀シテ之ヲ議



決スルモノニテ修正ノ動議ヲ許スモノナリ又第三讀會トハ議案全體ノ可否ヲ決スルモノナルカ故ニ文案更正ノ外修正ノ動議ヲナスコトヲ許サ、ルナリ然レトモ政府ノ要求又ハ議員十人以上ノ要求ニ基キ出席三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ決議シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得ルナリ

### 第七款 動議

動議トハ議案ヲ發議スル場合ノ外總テノ議題ヲ提出スルコトナリ

#### 第一 動議ノ要件

原則トシテ動議ハ一人以上ノ賛成者ヲ待チテ議題トナスヘキモノトス

例外一 豫算案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ同意ヲ要ス  
(議院法四一)

例外二 豫算案以外ノ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成ヲ要ス(議院法二九)

例外三 上奏建議ノ動議ハ三十人以上ノ同意アルニアラサレハ議題トナス

ヲ得ス(議院法五三)

例外四 議會省略ノ動議ハ議員十人以上ノ賛成アルヲ要ス(議院法二七)

例外五 討論終結ノ動議 二十人以上

例外六 討論ニ入ルノ動議 二十人以上

例外七 懲罰ノ動議 二十人以上(議院法九八)

例外八 全院委員會開會ノ動議 十人以上

#### 第二 動議ノ種類

(一) 上奏建議

(二) 懲罰

(三) 緊急事件

(四) 議案修正

(五) 全院委員會

(六) 再議

(七) 討論ノ際起ル動議

再議ハ許  
スヘキヤ

第三 再議ノ動議

原則ハ一事不再理ナリト雖便宜上一院ニテ議決スルモ未タ外部ニ發表セサル間ハ特別ノ場合ニ限り再議ニ附スルコトヲ許スコトアリ併シ之ヲ許ス國ニテハ

- (イ) 日時上ノ制限 議決ノ當日又ハ翌日
  - (ロ) 方法上ノ制限 前議決ノ際多數ノ方ニ起立セシ議員ニアラサレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
  - (ハ) 員數上ノ制限 議決ノ際出席セシ議員ト同一ノ議員出席スルコトヲ要ス
- 等ノ制限アルモノナリ

第八款 兩議院ノ關係

議決ニ關スル兩院ノ關係ハ左ノ常則ニヨルモノナリ

- (一) 甲議院ニテ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ

之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議定ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

- (二) 乙議院ニテ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ

甲議院ニテ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ之ニ同意セサレハ兩議院協議會ヲ開クヘシ

- (三) 乙議院ニテ甲議院ノ提出シタル議案ヲ可決シタルトキハ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知シ又之ヲ否決シタルトキハ之ヲ單ニ甲議院ニ通知スヘシ

- (四) 兩院ノ決議一致スルトキハ最後ニ議決セル議院ヨリ政府ヲ通シテ上奏スヘキナリ

併シ兩院ノ議決一致セサル場合ニ處スルニハ

- (一) 調和ノ方法ヲ全ク用ヒサルモノ 獨逸ノ多數及和蘭ノ如キ其例ナリ
- (二) 數回ノ回付ニヨルモノ 伊、西、其例ナリ
- (三) 兩院議員ノ通算法ニヨルモノ 瓦天堡、巴丁、ヘツセンニテハ下院可決ノ豫

算カ上院ニテ否決セラル、トキハ兩院ノ投票ヲ通算シテ決定スルモノナリ  
而シテ可同數ナルトキハ下院議長ノ定ル處ニヨル瓦一八一巴丁六一七四  
ヘツヘン七五

協議會

那威ニテハ第一院再度議案ヲ廢棄スルトキハ第一院及第二院合同會議シ總  
議員三分ノ二以上ノ表決ヲ以テ其取捨ヲ決スルモノナリ  
等ノ例アリト雖我國ハ英、米、佛、埃、匈、索、白、葡等諸國ノ例ニ倣ヒ兩院ヨリ議員ヲ出  
シテ協議會ヲ組織シ以テ調和ヲ計ルモノナリ  
我兩議院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委  
員ノ意見可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決スルコト、ナセルモ葡萄牙ニテハ  
國王之ヲ決裁スルコト、ナセリ  
委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ  
テ先ツ之ヲ議シ次ニ之ヲ乙議院ニ移スヘシ兩院ノ内何レニテ之ヲ否決スルモ  
其協議案ハ廢案トナルモノトス又協議會ニテ成立シタル成案ニ對シテハ修正  
ノ動議ヲナスコトヲ許サ、ルナリ

第五章 政府

憲法中ニ存在スル政府ナル文字ノ意義ニツキテハ種々ノ見解アリ故ニ其二三  
ヲ參考ノ爲メ左ニ掲クルトキハ

第一說 政府ハ天皇ナリ

此說ハ三權分立說君主最高機關說若ハ我憲法第八條第七十條第七十一條等  
ニ基キタルモノナレトモ我憲法上天皇ト政府ト別々ノ文字ヲ見ル以上ハ之  
ヲ別々ニ解スルヲ至當トス又憲法第四十條及第四十九條ノ如キ政府ニ意見  
ヲ呈出スルハ之ヲ建議ト名ツケ君主ニ意見ヲ奉呈スルハ之ヲ上奏ト名ツケ  
以テ此ノ兩文字ノ間ニ區別ヲ設クルアレハナリ

第二說 政府ハ天皇及内閣ナリ

此說ヲ唱フルモノ曰ク政府ノ組織ニ關シテハ帝國憲法中特別ノ規定アルヲ  
見スト雖トモ從來ノ慣例及法律規則ニ於テ定ムルトコロヲ見ルニ日本帝國  
ノ政府ハ天皇及内閣ヲ以テ成立スルモノト謂ハサルヘカラス憲法ハ屢々政

政府ハ天  
皇ニアラ  
ス

政府ハ天  
皇及内閣  
ニアラス

府ナル語ヲ使用セリ此語中ニハ天皇ヲ包含スルヤ否ヤニ付テハ多少疑ナキニ非スト雖トモ政府ノ語ヲ廣義ニ解スルトキハ天皇ト内閣トヲ以テ成立スルモノト謂フモ不可ナキナリト併シ之マタ憲法第四十條及第四十九條ノ關係ニ於テ其不當ナルコトヲ明ニ見ルヲ得ルナリ

第三說 政府ハ國務大臣及樞密顧問ナリ

併シ樞密顧問ハ諮詢ニ應ヘ又ハ國務ヲ審議スルニ止リ外部ニ對シ命令スル者ニアラサルニヨリ政府ノ語中ニ樞密顧問ヲ含ムモノト考ルヲ得サルナリ然ラハ政府トハ如何ナル意義ヲ有スルヤト云フニ政府トハ勅命ヲ奉シテ天皇ノ大權作用ヲ執行スル國務大臣ヲ指スニ外ナラサルナリ即政府ハ國務大臣ノ一面ヲ指スモノナリ如此ク政府ハ獨立ノ意思ヲ以テ其職務ヲ行フニアラスシテ勅旨ニ依リ執務スルモノトス之レ或ハ政府トハ天皇ト内閣ト合シタルモノナリ或ハ政府トハ國務大臣ノ補弼ニ依リテ働ク天皇ヲ指スモノナリトノ説ノ出ツル所以ナリ或ハ國務大臣ヲ政府ナリト解釋セハ憲法上異様ノ文字ヲ同意義ニ解釋スルモノニテ解釋ノ原則ニ背クモノナリト論スル人アルモ特ニ天皇

樞密顧問  
ハ政府ノ  
一分子ニ  
アラス

政府ノ意

ノ命ヲ承ケテ働ク國務大臣ヲ政府ト指稱スルハ國家ノ一面ヲ特ニ國庫ト稱スル如ク意義ヲ分明ナラシムル爲ニ寧ロ便宜ナルモノニテ強チ不當ト云フヘカラス殊ニ普國憲法第十六條ニハ各大臣及其代理者ハ各議院ニ出席ストアリテ我憲法第五十四條ニ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ云々トアルヲ見レハ政府委員トハ國務大臣ノ代理者ニシテ國務大臣ノ議會ニ對スル關係ノ一面ヲ政府ト稱スルモノナルコト明ナリ併シ之ヨリシテ或人ノ如ク政府トハ天皇ノ下ニ於テ帝國議會ニ對シ種々ノ交渉作用ヲ爲ス機關ヲ指稱シ此機關ハ國務大臣ヲ以テ組織セラレ、モノナリト斷定スルハ當ヲ得タルモノニ非スト信ス何トナレハ憲法第七十一條等ノ條項ニ於ケル如ク議會ニ對スル交渉以外ニ於テ政府ノ文字ヲ使用スルコトアレハナリ尙前掲ノ政府ノ意義カ憲法中ニ存在スル各政府ノ文字ニ適合スルヤ否ヤヲ見ルニ

第一 憲法第八條第二項ニ「政府ハ將來ニ向テ其ノ(緊急勅令ノ)效力ヲ失フコトヲ公布スヘシト規定セリ法令ノ公布ヲ爲スハ政府即チ國務大臣ノ任務ニ屬スルハ疑ナシト雖モ法令ノ公布ヲ命スルハ天皇ノ大權作用ニ屬スルニヨリ

此場合ニハ政府獨立ノ權限ヲ以テ緊急勅令ノ無效ヲ公布スルモノニアラス  
政府勅旨ヲ奉シテ公布スルモノト解スヘシ議院法第三十三條ノ政府モ之ト  
同一ナリ

第二 憲法第三十八條ニ兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及ヒ各法律  
案ヲ提出スルコトヲ得ト定メラレタリ此政府ノ文字モ第八條ノ政府ト全ク  
同一ノ意義ヲ有スルモノニテ政府即チ國務大臣カ勅旨ヲ奉シテ法律案ヲ提  
出スルモノニテ政府獨立ノ意思ヲ以テ提案スルモノニアラサルナリ而シテ  
其主旨タルコトハ法律發案權ノ沿革及ヒ普國憲法ニハ政府ト書セスシテ國  
王ト書スルヨリ見ルモ明ナリ

第三 第四十條ノ政府ハ積極的行爲ヲナス場合ニアラスシテ消極的ニ他ノ建  
議ヲ受理スル場合ナリ故ニ各建議ヲウクルニツキ固ヨリ勅旨ヲ受クルヲ得  
ルヲ要スモノニアラスト雖モ豫算案法律案ヲ提出シ若クハ法律ヲ公布スル  
等ノ天皇ノ大權作用ヲ執行スル政府トシテノ國務大臣ヲサスモノナルコト  
明ナリ

第四 第七十條ノ緊急勅令發布ノ權ハ天皇ニ屬スルコト多言ヲ要セサルコト  
ナリ故ニ敕府ハ大權執行ノ機關トシテ勅命ヲ奉シテ之ヲ發スルモノナリ

第五 豫算ハ天皇ノ裁可ヲ要スルモノナルカ故ニ豫算ノ不成立ノ場合ニ前年  
度ノ豫算ヲ施行スルモ天皇ノ意思ニ依ラサルヘカラサルコト明ナリ故ニ本  
條ノ政府モ大權執行ノ機關トシテ行動スルモノト解スヘキナリ

第六 第六十七條ニハ政府ノ文字ニアリ而シテ後段ノ同意ヲ與フルハ大權執  
行ノ機關トシテ天皇ノ命ヲ奉シテ行動スルモノナリ蓋シ大權ニ基ク既定ノ  
歳出ヲ動カスハ大權作用ヲナス天皇ニ非レハ爲シ得ルコトニ非レハナリ然  
ルニ前段ノ政府ノ文字ノミハ他ト少ク異リタル意義ヲ有スル如ク見ユ即チ  
政府ノ義務ニ屬スル歳出トハ國庫ノ負擔ナルコト明ナルカ故ニ此政府ハ國  
庫ノ意義ヲ有スル如ク考ヘラルハナリ茲ニ於テ何故ニ國庫ト書スヘキ處ニ  
政府ノ文字ヲ用ヒタルヤノ疑生スト雖モ我會計制度ニヨリ國務大臣ハ仕拂  
命令ヲ發スルニヨリ國庫ノ義務ハ國務大臣ノ義務即チ政府ノ義務ナリトナ  
シタルニ基クモノニテ會計法第十八條ノ政府ノ負債云云ト書シタルト同一

ノ用法ニ依ルモノナリ

如此ク憲法ノ政府ナル文字ハ之ヲ天皇ノ命ヲ奉シ其大權作用ヲ執行スル國務大臣ノ一面ト解シテ毫モ不當ナル點ヲ見サルナリ尙終リニ一言スヘキハ政府ナル文字ハ時トシテ一國務大臣ヲ指シ時トシテ數國務大臣ヲシテ指スコトアルヲ注意スヘキコト之ナリ

上杉法學士ハ憲法中ノ政府ノ文字ヲ種々ニ解シ第八條第三十八條第七十條ノ政府ハ天皇ニシテ第六十七條ノ政府ハ行政機關各國務大臣ヲ指スモノナリト説クト雖モ同一ノ文字ヲ法令ノ異ルニ從ヒ異ル意義ニ解スルハ已ムヲ得サルコトアルヘキモ同一ノ憲法中ノ同一ノ文字ヲ各條項ニツキ其意義ヲ決定スルノ外ナシト論スルハ至當ニアラスト信スルナリ

## 第六章 樞密顧問

### 第一節 樞密顧問ノ地位

樞密顧問トハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ且重要ナル國務ヲ審議スル所ノ憲法上機關ナリ(憲法五六)今樞密顧問ノ性質ヲ分解シテ記述スレハ左ノ如シ

第一 樞密顧問ハ合議機關ナリ故ニ各顧問官ハ別々ニ意見ヲ奉ルヲ得ス

第二 樞密顧問ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ或ハ重要ナル國務ヲ議決スル機關ナリ從テ樞密顧問ハ國民ニ對シ命令權ヲ行ハス且直接政治ニ干與セサルモノナリ(樞密院官制第八條參照)

第三 樞密顧問ハ憲法上ノ機關ナリ故ニ憲法ヲ廢スルニアラサレハ之ヲ廢スルヲ得ス

樞密顧問ハ右ノ如キ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ内閣及ヒ各省大臣ト公務上交渉スルノ外他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ノ往復其他直接ノ交渉ヲ爲スコトヲ得ス故ニ樞密院ニ對スル請願上書其他ノ通信ノ如キハ之ヲ受理

樞密顧問  
ノ特質

### 第二節 樞密顧問ノ組織

樞密顧問ハ憲法第五十六條ニヨリ勅令タル樞密院官制ニヨリテ其組織ヲ定メラル、モノニテ其官制ニヨルトキハ樞密院ハ議長副議長ノ外若干ノ樞密顧問官ヲ以テ組織セラレ而シテ議事ヲ開クニハ十名以上ノ出席ヲ必要トシ可否同數ナルトキ議長之ヲ決スルモノナリ又顧問官ヲ其資格上ヨリ觀ルトキハ三種アリ即チ四十歳以上ニシテ國務ニ練達シタル者ヨリ親任セラレタルモノト在京ノ成年以上ノ皇族ノ如キ身分上ヨリ列席スルモノト各大臣ノ如キ職權上ヨリ顧問官タルモノトアルナリ

### 第三節 樞密顧問ノ權限

樞密顧問ノ權限ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 天皇ノ諮詢ニ應フルコト

諮詢事項ニハ制度上必ス諮詢セサルヘカラサルモノト諮詢スルト否トニ天皇ノ自由ニ屬スルモノトノ二アリ

一 諮詢セサルヘカラサルモノ

(イ) 憲法ノ條項又ハ憲法附屬ノ法律勅令草案及疑義ニ關スルコト

(ロ) 憲法第十四條ノ戒嚴宣告同第八條及ヒ第七十條ノ勅令及其他罰則ノ

規定アル勅令ニ關スルコト

(ハ) 列國交渉ノ條約及ヒ約束ニ關スルコト

(ニ) 樞密院官制及ヒ其事務規程ノ改正ニ關スルコト

(ホ) 皇室典範ニ於テ樞密院ノ諮詢ニ付スヘキコトヲ規定セラレタル左ノ

事項ニ關スルコト

甲 皇位繼承順序ノ變更皇室典範第九條

乙 遺命ヲ以テ大傅ヲ任セサリシ場合ニ其選任ニ關スルコト(皇室典範

第二七條)

丙 大傅ノ退職ニ關スルコト(皇室典範第二九條)

丁 土地物件ヲ皇室ノ御料ニ編入スルコト(皇室典範第四六條)

戊 皇室典範ノ改正ニ關スルコト(皇室典範第六二條)

二 諮詢スルト否トカ天皇ノ自由ニ屬スルモノ

天皇ノ隨意ニ諮詢スヘキ範圍ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ天皇ノ必要ト認ル時ハ如何ナル事項ニ付キ諮詢スルモ全ク其隨意ニ屬スルモノナリ

第二 議決ヲ爲スコト

一 天皇久シキニ亘ルノ故障ニ因リ大政ヲ親ラスルコト能ハサル場合ニ攝政ヲ置クヘキヤ否ヤヲ決スルトキ(皇室典範第一九條)

二 攝政及攝政タルヘキ者ノ順序變更ノ要否ヲ決スルル(皇室典範第二五條)

第三 判決ヲ爲スコト

行政裁判法第四十五條ニ依リ權限裁判所ヲ設置スルマテハ樞密院ヲ以テ權限裁判所ニ充ツルモノトス然レトモ今日ニ至ルマテ權限爭議ノ提起及ヒ審理ニ關シ其手續法ヲ規定セラレサルヲ以テ實際ニハ此職務ヲ實行スルコト難キモノナリ併シ審議シタル實例アリト云フ

權限裁判所トシテ樞密顧問

樞密顧問ハ合議制ナルヤ否ニツキ憲法ニ明文ナキニヨリ官制上之ヲ合議制ノモノトナスト單獨制ノモノトナストハ自由ニシテ而シテ現行樞密院官制ニ於テハ之ヲ合議制ノモノト定メタリ故ニ現行制度ノ下ニ於テハ樞密顧問官別々ニ意見ヲ奉ルヲ得サルナリ

此樞密顧問ハ獨リ我國ノミナラス獨逸國內普國、巴威里、索遜、瓦天堡等ニモアリト雖我國ノ如キ實際ニ重要ナル地位ヲ占ムルモノ、比ニアラスシテ其權限ハ主トシテ我法制局ノ如ク法令ヲ起草スルカ若クハ各省間ノ權限爭議ヲ決スルニアルナリ



### 第七章 司法裁判所

#### 第一節 司法權ノ主體

三權分立說ニ從フ時ハ司法權ヲ以テ獨立ノ權力トシ裁判所ヲ以テ其權力ノ主體ト爲サントスルモノナレトモ三權分立說ノ誤レルコトハ已ニ述ヘタルカ如クニシテ司法權トハ畢竟統治權ノ作用ノ一方面ノ作用ニ外ナラス故ニ司法權ノ主體ハ即チ統治權ノ主體ナルニ依リ君主タルコト明白ナリ之憲法第五十七條ニ天皇ノ名ニ於テ之ヲ行フト規定セラレタル所以也此天皇ノ名ニ於テトハ天皇ニ代テ裁判所カ裁判スルコトヲ云フモノニシテ判決文ニ天皇ノ名ヲ記載スヘシトノ意義ニ非サルナリ故ニ司法權ノ主體ハ天皇ナルモ憲法第五十七條ニハ司法權ハ法律ニ依リ裁判所ハ之ヲ行フトアルニヨリ必ス司法權ハ裁判所ヲシテ行ハシムヘキモノニテ行政官廳臨時委員若ハ其他ノ機關ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ得サルナリ而シテ其裁判所トハ次ニ述フル如キ裁判官ヲ以テ之ヲ組織シタルモノヲ稱ス

司法權ノ主體ハ統治權ノ主體ナリ

#### 第二節 裁判官

裁判所ヲ構成スルモノヲ裁判官ト稱ス固ヨリ裁判所ハ其階級ニ從ヒ或ハ一人ノ裁判官ヲ以テ組織スルコトアリ或ハ三人五人七人ノ多數ヲ以テ合議的ニ組織セラル、コトアリト雖トモ裁判所ハ裁判官ヲ以テ組織セラル、ニ至リテハ一タルナリ而シテ其裁判官ハ憲法五十八條ニ依リ特別ノ地位ノ保障ヲ有スルモノニテ刑法ノ宣告又ハ懲戒處分ニ依ル外其意ニ反シテ其官ヲ免セラル、ナク尙ホ其懲戒ノ規定カ必ス法律ヲ以テ定メサル可サルモノトス蓋シ如此地位ノ保障ヲ與フルハ政府ノ干渉ヲ受クルコトナク獨立ニ法規ヲ解釋シ其信スル處ニ從ヒテ裁判ヲ爲サシメントスルカ爲ニ外ナラサルナリ如此一方ニ於テ其地位ヲ保障スルカ故ニ裁判官ノ資格ハ必ス法律ヲ以テ定メラルヘキモノトナシ即チ法律ニ規定シタル資格要件ヲ備ヘサルハ裁判官タルコトヲ得サルモノトセラレタリ而シテ憲法二十四條ニ法律ニ定メタル裁判官トハ即チ其法律規定ノ資格要件ト地位ノ保障トヲ有スル裁判官ヲサスモノナリ

裁判官ノ地位ノ保障

法律ニ定メタル裁判官トハ何イヤ

### 第三節 裁判所ノ權限

憲法第五十七條ニ「司法權ハ裁判所之ヲ行フ」トアルカ故ニ民事刑事ヲ裁判スルノ權ハ必ス司法裁判所ニ專屬スルモノニテ他ノ機關ヲシテ民事刑事ノ裁判ヲ決シテ爲サシムルヲ得ス併シ之ヲ反對ニ推定シテ司法事件以外ハ決シテ裁判所ヲシテ處理セシムルヲ得スト云フヲ得ス從テ今日登記事務ヲ裁判所ニテ扱フモ決シテ違憲ニアラサルナリ或ハ又司法權ノ意義ヲ裁判所ノ行フ權ト解シ裁判所ノ行フモノ即チ司法ナリト説キ更ニ進ミテ裁判所以外ノ官廳ニ於テ民事刑事ノ事件ヲ裁判スルモ違憲ニアラス又登記事務モ裁判所ニ於テ扱フ以上ハ司法事務ナリト論スル人アリト雖此説ハ憲法第五章ヲ設ケタル精神ヲ滅却スルモノニテ特ニ民事刑事ノ事件ハ人民ノ利害ニ關スル重大ナルカ爲メ之ヲ獨立ノ裁判所ニ委任タシルノ沿革上ノ理由ニ抵觸スルモノトス故ニ此民事刑事ノ裁判ハ司法裁判所ノ權限ニ專屬シ其他ノ權限ハ特別ノ法規ノ定ムル處ニヨルト解ス可キナリ尙ホ此裁判所ノ權限ニ伴フテ究ムヘキハ憲法第六十一條ノ

司法事件ノ以外ノ裁判所ニテ處理セシムルモ違憲ニアラズ

司法權ノ行使ハ裁判所ニ專屬ス

憲法第六十一條ノ解釋

解釋ナリ憲法第六十一條ニハ行政官廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ侵害セラレタルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬ス可キモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ非スト定メタリ此條文ノ解釋ニ付テハ左ノ諸説アリ

第一説 總テ行政訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ非ス而シテ其行政訴訟カ行政裁判所ノ管轄ニ實際屬スルト否トヲ問サルナリト此説ハ行政處分ニ依テ權利ヲ侵害セラレタリトスルノ訴訟ハ行政裁判所ニ專屬スヘキモノニテ司法裁判所ニテ絕對ニ管轄スヘキモノニアラスト爲スモノナリト雖モ此説ニ從フ時ハ別ニ法律ヲ以テ行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ云々ノ文字ハ無用ニ屬スルコトナルナリ

第二説 憲法第六十一條ハ行政裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ司法裁判所ニテ受理スヘカラスト定メタルニ止ルニヨリ其以外ノ行政訴訟事件ハ當然司法裁判所ニ屬セサルモ法律ヲ以テ司法裁判所ニ屬セシムル以上ハ行政訴訟モ司法裁判所ニテ管轄シ得ルモノナリ例ヘハ選舉訴訟ヲ司法裁判所ニテ管轄

スルカ如シト此說ハ現行制度ノ解釋トシテ當ヲ得タルモ憲法ノ解釋トシテハ當ヲ得タルモノニアラス蓋シ如此キ解釋ハ行政裁判制度ノ發達ノ沿革ニ適合セサルノミナラス第六十一條ヲ設ケタルノ主旨ヲ解スルヲ得サルコトハナレハナリ

第三說 憲法第六十一條ノ結果トシテ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノハ總テ司法裁判所ニ於テ受理ス可キモノナリ即チ行政裁判所ノ管轄ニ屬セサル裁判訴訟ハ總テ司法裁判所ニ於テ管轄スヘキモノナリト此法文ヲ單ニ文字ニ從テ解スル時ハ如此意義ニ解セラル、モノナルガ如シト雖モ司法裁判所ニ對立シテ行政訴訟ヲ管轄セシムルカ爲メ特ニ行政裁判所ヲ設ケシムルノ精神ヨリ考フル時ハ行政訴訟ノ一部ヲ當然司法裁判所ニ屬セシムルノ解釋ハ當ヲ得タルモノニ非スト信スルナリ

然ラハ此第六十一條ハ如何ニ解釋ス可キカト云ニ此第六十一條ハ行政訴訟ト司法訴訟トハ判然其管轄機關ヲ異ニスルヲ示シ尙他ノ一方ニ於テ行政官廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ侵害セラレタリトスル訴訟ハ行政訴訟ニシテ之ハ行政

行政訴訟ハ絕對ニ

司法裁判所ニ屬セ

憲法上ノ行政機關ニ對シテハ其管轄範圍ニテハ絕對ニ司法裁判所ニ屬セ

裁判所ノ管轄ニ屬セシムヘキモノナルコトヲ示スモノトス故ニ行政訴訟ニシテ行政裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナク從テ行政裁判所ノ管轄ニ屬スル行政訴訟ハ裁判所ニテ受理スル限ニ非ストハ行政訴訟ハ絕對ニ司法裁判所ニテ之ヲ管轄スヘキモノニ非ストノ意義ヲ有スルナリ茲ニ於テ初テ憲法第六十一條ノ無用ノ規定ニ非サルヲ知り得ルモノニシテ今日行政裁判所ノ權限ヲ列記的ニ定メタルコト又行政訴訟ノ性質ヲ有スル衆議院議員選舉訴訟當選訴訟司法裁判所ニ屬セシメタルコトハ憲法第六十一條ニ輕觸スルモノト云ヘシ併シ選舉訴訟當選訴訟ハ權利ノ侵害ヲ條件トナスモノニ非ス從テ行政訴訟ニ非スト解釋スルモノアラハ此後ノ點ニ就テハ或ハ違憲ノ非難ヲ免ルモノナラン歟

#### 第四節 裁判官ノ審査權

裁判官ノ法律審査權ノ範圍ハ場合ヲ分チテ之ヲ論セサルヲ得ス

第一 副署ナキ法律ハ裁判所ニ於テ之ヲ適用シ得ルヤ

憲法第五十五條ニ依リ國務ニ關スル法律ハ必ス副署ヲ具フヘキモノナルニ

ヨリ之ナキモノハ眞ノ法律ト認ルヲ得ス從テ之ヲ適用スルヲ得サルナリ  
第二 議會ノ協賛ヲ經タル法律ナリヤ否ヲ裁判官ニ於テ審査スルコトヲ得ル

裁判官ハ  
法律ノ協賛  
會ノ協賛  
モノナル  
ヤ否ヲ審  
査シ得ル

之ヲ否認スルモノハ曰議會ハ協賛權ヲ以テ臣民ニ命令スル職權ヲ有スルモ  
ノニアラス從テ法律カ臣民ニ對シ命令タルノ效力ヲ有スルハ議會ノ協賛ニ  
アラシテ君主ノ裁可ニアリ抑君主ノ裁可ヲ經法定ノ形式ニ從ヒ公布セラ  
レタル以上ハ假令實際議會ノ協賛ナキモ臣民ニ於テ之ヲ遵奉セサルヘカラ  
ス裁判官モ亦之ヲ適用セサルヘカラサルモノト云フヘシ殊ニ君主カ法律ノ  
前文ニ議會ノ協賛ヲ經タルコトヲ明記シタルトキハ之ノ君主ニ於テ議會ノ協  
賛ヲ經タルモノナルコトヲ公證スルモノナルニ依リ裁判官ハ議會ノ協賛ノ  
有無ヲ審査スルヲ得サルハ明白ノ理ナリ若シ裁判官ニ於テ君主ノ公證ヲ疑  
ヒ協賛ノ有無ヲ審査スルコトヲ得ルモノトナストキハ更ニ進ミテ其議會ノ  
議決ノ正當ノモノナリシヤ否即議決ヲナストキハ定足數ノ議員ノ出席アリ  
シヤ否又可決ニ必要ナル定數ノ議員ノ同意アリシヤ否又其議員ハ皆正當ナ

ル資格ヲ備ヘタリシモノナルヤ否ヤヲ審査スルノ權ヲ裁判官ニ認メサルヲ  
得サルコト、ナリ司法機關ヲ以テ立法機關ヲ監督スルノ不當ナル結果ニ陷  
ルモノナリト

此否認論ヲ駁スルニ當リ論點ヲ明了ナラシムル爲左ノ三段ニ分チ之ヲ説カ  
ンニ

- 一 我憲法上如何ナルモノカ眞ノ法律ナルヤヲ考フルニ憲法第三十七條ニ  
「凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス」トアリテ議會ノ協賛ヲ以テ法律  
ノ要素トナスニヨリ法律ノ名稱ヲ有シ君主ノ裁可アルモ議會ノ協賛ヲ經  
サルモノハ法律タルノ要素ヲ缺キ從テ眞ノ法律ニアラサルナリ而シテ此  
問題ノ中心點ハ命令タルノ效力ヲ有スルヤ否ニアラスシテ眞ノ法律ナル  
ヤ否ニアルニヨリ否認論者ノ「法律ハ議會ノ協賛ニ依リ命令ノ效力ヲ有ス  
ルモノニアラス」トノ説明ハ當ヲ得タルモ協賛ナキ法律モ裁判官ニ於テ適  
用セサルヲ得ストノ説ニハ同意スルヲ得サルモノナリ
- 二 否認論者ハ法律ノ前文ニ議會ノ協賛ヲ經タルコトヲ明記セラレタルト